

工ト34一

明治十九年四月



銀

行論

英國 マクレノード 原著  
 日本 乘竹孝太郎 譯述

銀行論第九冊目次(但五百十八頁止)

銀行論第二卷(續)

- 第十章 一千八百十九年紙幣兌換再始條例ノ發布ヨリ一千八百四十四年ノ銀行條例發布マデ(續) 三百十九丁
- 第十一章 一千八百四十四年ノ銀行條例制定ヨリ今日ニ至ルマデ 三百七十三丁
- 第十二章 蘇格蘭銀行ノ起元及進歩ノ歴史 五百丁



銀行論第十冊目次(但七百十八丁止)

銀行論第二卷(續)

第十二章	蘇格蘭銀行ノ起元及進歩ノ歴史	五百十九丁
第十三章	貨幣ニ關スル或ル主義ヲ駁ス	六百十七丁
	ロ一氏ノ紙幣說ヲ論ズ	六百十七丁
	商業手形ノ割引ニ準據シテ紙幣ヲ發行スルノ主義ヲ論ズ	六百八十四丁

銀行論第十一冊目次(但千二十二丁止)

銀行論第二卷(續)

- |      |                           |        |
|------|---------------------------|--------|
| 第十三章 | 貨幣ニ關スル或ル主義ヲ駁ス(續)          | 七百十九丁  |
| 第十四章 | 通貨ナル語ノ解釋                  | 七百三十一丁 |
| 第十五章 | 英蘭銀行ノ組織及ヒ一千八百四十四年ノ銀行條例ヲ論ス | 八百七十五丁 |
| 第十六章 | 英蘭ニ於テ合本銀行ノ紀元及進歩           | 千一丁    |



銀行論第十二冊目次(大尾)

銀行論第二卷(續)

第十六章 英國ニ於テ合本銀行ノ紀元及進

步(續)

第十七章 銀行ノ事務

千二十三丁

千八十一丁



凡テ英國銀行及其他之ヲ發行セル場所ニ於テ之ヲ仕拂フ者  
ト爲ス可ク又發行者ノ欲スルニ從ヒ此外ニ更ニ之ヲ仕拂フ  
ノ場所ヲ設クルヲ得ルコト

政府ハ英國ニ於テ小紙幣ヲ壓止セント決心スルニ及ビ幾時ナ  
ラズシテ蘇格蘭及愛爾蘭ニモ同様ノ處置ヲ擴張セント期スル  
旨ヲ告ガタリ蓋投機過商ノ爲メニ時トシテ災害ヲ蒙ルハ各商  
業國ノ免レサル所ニシテ蘇格蘭ノ如キモ之ガ爲メニ如何ニ災  
害ヲ蒙リシヤトスルモ該國ニ於テハ彼レノ如クニ屢英國ヲ侵セ  
シ所ノ銀行上ノ恐慌ハ曾テ起リシコトアラザリシナリ左レハ宰  
相ノ此計畫蘇格蘭ニ知ラル、ニ及ビ爲メニ大ニ激騒ヲ起セリ  
而シテウルター、スコット氏ガ此事ニ關シテ新聞紙ニ出シタル三  
篇ノ投書ハ大ニ世人ノ熱心ヲ煽起スルノ効アリテ宰相ノ此計  
畫ニ對スル抵抗極メテ強カリケレバ遂ニ宰相ハ此問題ヲ調査



セシメノガ爲メニ上下兩院ノ委員ヲ任スルノ議ニ一致セザルヲ得ザルニ至レリ而テ此委員ハ一千八百二十六年ノ春季中ハ其職ヲ保チ從前英國ニ於テハ殆ト毫モ了解セラレザリシ所ノ蘇格蘭ノ銀行ニ關スル事ヲ悉ク詳細ニ鑿穿セリ而テ此調査ノ爲メニ蘇格蘭ノ銀行制度ノ極メテ善良ナルコト知ラレケレバ遂ニ宰相ヲシテ之ヲ變更セントノ計畫ヲ放棄セシムルコト至レリ此委員ノ蒐集セル證報及其報告書ハ余輩後段ニ至テ之ヲ觀察ス可シ

一千八百二十七年ハ英國銀行ガ遂ニ地金報告書ノ原理ノ正確ナルヲ承認シ公然之ヲ採用スルニ至リシ紀元ナリトシテ記應ス可キ年ナリ一千八百三十二年ニ於テウィルム、ウァード氏ハ言テ曰英國銀行紙幣ハ外國爲替相場及地金相場ニ徴シテ之ヲ序理セザル可カラザルノ理ヲ拒ミ若クハ此理ニ背キタル處置

ヲ施サント欲スル人ハ英國銀行中一人モ之アラズ一千八百十九年ニ於テハ取締役ハ紙幣ヲ序理スルニ於テ外國爲替相場ニ注意セザル可カラズト云フ說ヲ拒ム所ノ決議案ヲ下院ニ出ダセリ然レハ爾後其說全ク變シ取締役ハ是非ノ眞ニ存スル所ヲ悟レリ余ニ至テハ常ニホルデル氏ノ原理ノ正確ナルヲ信セシ者ニシテ余ハ爲替取引ニ關係セルガ爲メニ實驗ニ徴シテ其是非ヲ判ス可キ數多ノ機會ヲ有セリ然レハ英國銀行取締役ハ此原理ノ正確ナルヲ悟ラザリキ何トナレバ彼輩ハ實際爲替相場ガ英國銀行紙幣ノ増減ニ追隨セザルヲ發見シタレバナリ蓋其故他ナシ彼輩ガ地方銀行紙幣ノ増減ヲ考察ノ外ニ置キシニ因ルノミ而テ彼輩ハ一千八百十九年ニ至リ始メテ地方銀行紙幣ニ關スル精密ナル報告ヲ得シ者ニシテ之ヲ得ルニ及ヒ若シ英國銀行紙幣及地方銀行紙幣ヲ合算スルキハ夫ノ原理ノ十



分ニ事實ニ符合セルヲ明知セラレタリ而テ此等ノ事實ニ注目セシヨリ漸次ニ取締役ハ此原理ノ正確ナルヲ悟ルニ至リ一千八百廿七年ニ及テハ取締役會ノ説大ニ變シテ夫ノ一千八百十九年ノ決議ヲ刪除ス可キノ機熟セシテ以テ遂ニ之ヲ刪除シタルナリ而テ一千八百三十二年ニ於テハ此原理ノ正確ナルヲ爭フ取締役ハ一人モ之ヲキニ至レリト

一千七百七十五年ノ條例ヲ以テ英國ニ於テハ五磅以下ノ紙幣發行ヲ禁止シタリト雖此條例ハ蘇格蘭一磅紙幣ノ英國ニ流通スルヲ禁止セシニ非スノ常ニ蘇格蘭ニ近接セル地方ニハ流通シ加之ヨークノ如キ以南地方ニ於テモ流通セリ而テ今回英國一磅紙幣ノ禁止セラレシ以上ハ又蘇格蘭一磅紙幣ノ英國ニ流通スルヲ禁止スルハ當然ナルガ如クニ思ハル可シ然レハ從來常ニ蘇格蘭一磅紙幣ノ流通シタリシ地方ノ人民ハ蘇格蘭ノ

人民ト同様ニ相一致シテ此處置ニ抵抗セリ左レバ一千八百二十八年宰相ガ蘇格蘭銀行紙幣ノ英國ニ流通スルヲ禁止スル議案ヲ出ダセシトシエームス、グラハム氏ハ隣境人民ヨリノ歎願書ヲ出ダシ最モ熱心ナル語ヲ以テ其久シク慣用シ來リタル蘇格蘭紙幣ヲ引揚グルノ非ナルヲ陳訴セリ其歎願書ニ曰吾人ハ七十年間蘇格蘭紙幣ヲ用フルノ利ヲ享ケタリシニ今ヤ吾人ヨリ此利ヲ奪ハント計畫セラル、ナリ我借地料ノ八分ノ七ハ蘇格蘭紙幣ヲ以テ仕拂ハル、所ニシテ之ガ爲メニ曾テ毫毛ノ損失ヲ蒙リシニ非ズト然レモ二夜ノ討論ヲ經テ此議案ハ四十五人ニ對スル百五十四人ノ多數ヲ以テ可決セラレタリ是ニ於テ平一千八百二十八年第六十五號ノ條例ヲ以テ制定シテ曰一千八百二十九年四月五日以後ハ蘇格蘭、愛爾蘭、其他英國以外ニ於テ製造シ發行シタル五磅以下ノ請求拂ノ約束手形、振出手形、書面



上ノ約束ハ如何ナル會社ト雖モ如何ナル人ト雖モ英蘭内ニ於テ之ヲ受授取引ス可カラズ五磅以上ノ者ニシテ任拂殘額ノ五磅以下ナル者亦之ニ同シ若シ犯ス者ハ五磅以上二十磅以下ノ罰金ヲ課ス」ト而テ此條例ニ於テモ以前ノ條例ト同ク小切手ノミハ其範圍外ニ置ケリ

一千八百三十二年議院改革議案ノ激騷アルニ際シ英蘭銀行ニ對シテ兌換ノ追求起リ約ソ二週期間續キタリ然レモ此兌換追求ハ唯倫敦ノ政治上ノ感情之ガ原因ヲナセシ者ニシテ地方ニハ及ハザリシガ故ニ甚シキノ大災害ヲ生ゼザリキ

英蘭銀行ノ特許ハ一千八百卅二年八月一日後ハ一年前ノ通知ヲ以テ之ヲ廢止シ得ルノ約ナリキ而テ當時該銀行ハ政府ノ爲メニ別ニ著大ナル用ヲ爲サザリシガ故ニ其特許期限ノ達スル數年前ニ豫メ其特許ノ繼續ヲ要求スルノ口實ヲ缺キタリキ且

ヤリヅァーアール公ガ一千八百二十五年ニ於テ云ヘルガ如ク特許ヲ與フルノ如キハ漸ク當時ノ輿論ニ合ハザル所トナリ今ヤ數多ノ大特權ハ將サニ破壞セラレントシ又世人ハ一千八百二十五年ノ大災害ニ關シテ起リタル討論ノ爲メニ大ニ銀行ノ事ニ注意シ且能ク之ヲ了解スルニ至レリ左レバ政府ハ該銀行特許繼續ノ事ニ關シテ何等ノ處置ニ出ツルニ先チ之ヲ下院委員ノ調査ニ附セント決心シ一千八百三十二年五月二十二日ヲ以テ委員ヲ任セリ即此委員ハ左ノ人々ヨリ組織セラレタリ

- アルソルプ公、ロベルト、ピール氏、ジョン、ルツセル公、コウルバル
- ン氏、ジェームス、グラハム氏、ヘルリース氏、ポウレット、タムソン氏、
- コウルアチー氏、コロテル、マベルリー氏、ヘンリー、バルチル氏、
- ヴエルトン、スミス氏、ジョン、スミス氏、ロベルツ氏、エム、ダヴルユー、
- リッドレー氏、アットウッド氏、シェー、ニューボルト氏、エー、ペーリソング氏、



イルヴィング氏、ウァルバルトン氏、ジョー、フィリップス氏、モルベス公、モ  
 ルリツン氏、ヘーウッド氏、エブリントン公、ジエー、ロツテスリー氏、ラ  
 ウリー氏、カヴェンディシ氏、アルデルマン、ウッド氏、ビー、カルター氏、  
 スラット氏、スタンリー氏、アルデルマン、タムソン氏、

此委員ハ議院改革議案可決ノ爲メニ政治上ノ激騒最モ甚シキ  
 ノ際ニ任セラレ數月間其職ヲ保チ當期議院ノ終リマデハ何等  
 ノ報告ヲモ爲サザリキ而テ其調査セシ所ハ非常ニ不完全ニシ  
 テ此疑問ニ關スル要項中殆ト毫モ調査ノ及ハザリシ者甚多カ  
 リキ然レモ當期議院ノ終リニ於テ委員ハ其調査ノ及ビシ丈ケ  
 ノ事實ヲ下院ニ報告セリ斯ノ如クナリケレバ新議院ノ開會ス  
 ルニ及ヒ新委員任セラル可シトハ世ノ期セシ所ナリシト雖モ  
 此際政府ハ英蘭銀行ノ特許ニ關シテ其計畫セシ變革ヲ行フ  
 ニ決心シ更ニ此疑問ヲ調査セシムルヲ爲サザリキ

委員ノ調査ハ此疑問ノ諸要項ニ關シテハ甚不完全ナリシト雖  
 尙ホ證報者ノ陳說セシ所ハ數多ノ緊要ナル點ヲ包含セリ就中  
 其最モ緊要ナル點ハ紙幣發行ヲ序理スルニ於テ英蘭銀行ノ採  
 用シタル規則如何、英蘭銀行ノ勘定報告ヲ公ニスルノ利害如何、  
 合資銀行ヲ創立スルノ利害如何、倫敦府ニ於テ一ノ發行銀行ヲ  
 有スルト數多ノ發行銀行ヲ有スルトノ利害如何、一千八百二十  
 五年ノ恐慌ノ原因如何及此時ニ際シテ英蘭銀行出テタルノ舉  
 動如何、銀行紙幣ヲ法貨ト爲スノ利害如何、利息制限法ノ商業ニ  
 對スル影響如何ノ如キ是ナリ

地金調査委員ノ主張セル紙幣發行ノ序理法ニ關スル大真理ハ  
 今ヤ英蘭銀行取締役ノ異議ナク承認スル所トナレリ該銀行頭  
 取ホルスリー、バルメル氏、英蘭銀行ハ通常如何ナル主義ニ從  
 テ其紙幣發行ヲ序理スルヤヲ問ハル、ニ當リ答テ曰紙幣全價



ナ保チ随テ外國爲替相場平均ヲ維持スルニ當テハ我英蘭銀行  
 ハ其各種負債ノ三分ノ二ヲ利附ノ證券類ニ放下シ其三分ノ一  
 ナ地金銀ニ放下スルヲ望マシト思惟セリ斯カレバ國內ノ紙幣  
 流通高ハ外國爲替相場ノ作用ニ因テ序理セラル、者ニシテ我英  
 蘭銀行ハ力ヲ用ヒテ敢テ紙幣流通高ヲ序理セントスルコト避  
 ケ全ク之ヲ公衆ノ意如何ニ任セシメテ欲セリ蓋我銀行ガ證券  
 類ヲ買ヒ若クハ賣リテ強ヒテ外國爲替相場ヲ匡正セシメテ勉  
 メザルモ公衆ノ舉動ハ以テ之ヲ匡正スルニ足レバナリト氏以  
 爲ヘラク英蘭銀行ハ常ニ殆ト同額ノ證券類ヲ有スルヲ可トス  
 蓋此ノ如クナレハ外國爲替相場不利ナルトハ公衆ハ輸出ノ爲  
 メニ金ヲ得ントシテ紙幣ヲ持參シ以テ已ノ爲メニ處スルヲ得  
 可ク若シ又金ノ流入多キトハ英蘭銀行ハ容易ニ其地金銀ノ一  
 部ヲ證券類ニ換ヘ以テ其比例ヲ回復スルヲ得レバナリト氏又

以爲ヘラク一私人ノ證券ヲ割引スルガ如キハ英蘭銀行ガ其紙  
 幣發行ヲ序理スルニ於テ行ヒ得キ最悪手段ノ一ナリ何トナ  
 レバ此事ハ有害ニ其紙幣ヲ膨脹セシムルノ傾向アレハナリト  
 而シテ氏ハ英蘭銀行ガ紙幣兌換停止ノ際市場ノ歩合ハ更ニ高  
 カ、リシニ拘ラズ五分ノ歩合ヲ以テ廣ク商業手形ヲ割引シタ  
 ルガ如キハ必ス紙幣過發ノ因タラザリシヲ得ズトシテ痛ク之  
 ナ非難セリ

又委員ノ諮問ヲ受ケタル證報者ノ大多數ハ英蘭銀行ガ其勘定  
 報告ヲ公ニスルトハ之ヲ秘シテ曖昧ナラシムルニ比スレバ一  
 層世ノ信ヲ博スルヲ得可ク且爲メニ取締役ヲ規制スルノ効ア  
 リトシテ之ヲ是トセリ而テ倫敦ニ於テ合資銀行ヲ創立スルノ  
 件ニ關シテハ爲メニ私立銀行者ヲ害スルノ結果アリトシテ之  
 ナ非トスルコト諸證報者ノ說殆ト皆一轍ニ出テタリ夫レ私立銀



行者ノ利益ハ如何ニ重ニス可キ者ナルニモセヨ最モ重ニス可  
 キハ區々タル私立銀行者ノ利益ニ非ズ最モ大ニ公利公益ヲ  
 進ムル者コソ是レ最モ重ニス可キナレ然ルニ證報者毫モ茲ニ  
 悟ル所ナク殆ト異口同音ニ合資銀行ノ創立ヲ非トシタルハ甚  
 怪シム可キガ如シト雖モ吾輩若シ黨利族益ヲ是レ主トシテ他  
 ヲ顧ミザリシ當時ノ世情ヲ考フルトハ又深ク之ニ驚クヲ要セ  
 ザルナリ合資銀行ノ創立ニ於ケル既ニ此ノ如シ况ヤ倫敦ニ紙  
 幣發行ノ新合資銀行ヲ創立スルトニ於ケルチヤ故ニ證報者一  
 層強ク之ヲ非トシ殆ト一人ノ之ヲ是トスル者アラザリシ也又  
 恐慌ノ時ニ際シ地方銀行者ニ對スル金貨ノ取付ケヲ急ナラシ  
 メザラフガ爲メニ英蘭銀行紙幣ヲ法貨ト爲ス可シトノ說甚勢  
 力強カリキ  
 爲替手形及小切手ハ流通媒介物即貨幣ノ一部ヲ成ス者ニ非ズ

トノ近代ノ大邪說ガ初メテ著シク世ニ出テタルハ恰モ此頃ニ  
 アリキ然レモ此不幸ナル謬說ハ數年後ニ至テ一層強ク主張セ  
 ラレタルヲ以テ吾輩ハ之ガ觀察ヲ後段ニ讓ル可シ而テ委員ハ  
 報告書中ニ開示セラレタル諸點ニ關シテ毫モ己レノ意見ヲ立  
 テザリキ

一千八百三十二年ノ收穫ハ非常ニ豊ニシテ之ガ爲メニ該年末  
 ニ及ビ各種農産物直段ノ大下落ヲ起シ隨テ農民ノ困弊ヲ來タ  
 セリ而テ一千八百三十三年ノ議院開會ノ勅諭ニ於テ言茲ニ及  
 ビ議院ノ注意ヲ促セシカバ之ヲ調査ヒシメンガ爲メニ委員ヲ  
 任スルニ至レリ此慘狀ハ一千八百十九年ノ貨幣條例ノ執拗ナ  
 ル反對者ニ再ヒ之ヲ攻撃スルノ機會ヲ與ヘタリ左レバアットウ  
 ド氏ハ今回ノ慘狀ハ如何程マテニ貨幣制度ト關係スル所アル  
 ヤヲ調査セシメンガ爲メニ委員ヲ任ズ可シトノ議ヲ起セシニ



アルソルプ公ハ直ニ起テ價值ノ本位ヲ低落セシムル如キ變  
 革ヲ貨幣制度ニ行フハ非ナリトノ修正案ヲ立テタリ而テ此修  
 正案ハ三夜ノ討論ヲ經シ後チ四十九人ニ對スル三百四人ノ多  
 數ヲ以テ可決セラレタリ  
 一千八百三十三年五月卅一ヲ以テアルソルプ公ハ英蘭銀行ノ  
 特許ヲ繼續スル數箇條ノ決議案ヲ出ダセシガ其一箇條ハ英蘭  
 銀行ガ金貨ヲ以テ其紙幣ヲ兌換スル義務ヲ負フ間ハ其紙幣ハ  
 該銀行ヨリスル仕拂ノ外ニ於テハ凡テ法貨ナリト布告ス可シ  
 ト云フニ在リ而テ數人ノ議員ハ議院ノ會期殆ト終ラントスル  
 ガ故ニ此決議案ノ討論ヲ延期センコトヲ望ミタリト雖ロペルト  
 ビール氏ハ若シ議院ニシテ之ヲ延期スルコトニ同意スルアラバ  
 是レ實ニ其義務ヲ拋棄スル者ナリトノ説ヲ執リテ動かザリキ  
 氏ハ英蘭銀行ノ特許ヲ繼續スルヲ可トシ且紙幣發行ノ管理權

チ一手ニ歸セシメ困難恐惶ノ時ニ際シテ商業上ニ便ヲ與ヘシ  
 メンガ爲メニ倫敦府ノ發行銀行ハ宜シク一行ニ限ル可シト論  
 シ若シ他行ノ競争ヲ受クルアラバ困難恐惶ノ時ニ際シテ十分  
 ニ商業上ニ便ヲ與フルコト能ハズト論シタリ又氏ハ英蘭銀行紙  
 幣ヲ法貨ト爲スノ議ハ一千八百十九年ノ條例ノ主義及紙幣ヲ  
 支配ス可キ真正ノ原理ニ背ク者ナリトシ長キ論ヲ爲シテ之ニ  
 抵抗セリ而テ八十三人ニ對スル三百十六人ノ多數ヲ以テ決議  
 案ノ討論ヲ續クルコトニ決シ英蘭銀行紙幣ヲ法貨ト爲スノ議ニ  
 關シテハ異論紛々タリシト雖遂ニ百五十六人ニ對スル二百十  
 四人ノ多數ヲ以テ此議可決セラレタリ  
 世人ガ英蘭銀行ニ競争スル銀行ヲ創立セント勉メシコト曾テ數  
 回アリテ法律ノ禁ヲ避脱センガ爲メニ企テラレタル種々ノ計  
 畫ヲ防制センガ爲メニ一千七百九年及一千七百四十二年ニ於



テ銀行條例編制セラレシハ吾輩ノ既ニ記セシ所ナリ而テ一千七百四十二年ノ條例ニ川ヒラレタル文字ハ以テ十分ニ此目的ヲ達スルニ足レリト思惟セラレタリ蓋シ當時ニ在テハ銀行者ガ得意者ノ預金ニ對シテ請求拂ノ紙幣ヲ與フルノ習慣一般ニ行ハレケレバ此一事ヲ以テ銀行營業ノ本義ナリト爲シ荷モ紙幣ヲ發行スルヲ禁ゼバ以テ銀行ノ營業ヲ禁スルニ足レリト思惟セラレタリ然レ歲月ノ經過スルニ從ヒ即一千七百九十三年ノ頃ニ及ビ倫敦銀行者ハ請求拂ノ紙幣ヲ發行スルヲ止ムルニ至レリ然ルニ一千七百四十二年ノ條例ハ以テ銀行ノ創立ヲ禁ズルニ十分ノ効アリト信セラレケレバ夫ノ小切手ノ取引法ニ因テ銀行ハ一千七百四十二年ノ條例ヲ遊脱シ得ルハ久シク世人ノ注意ヲ免レタリ而シテ一千七百九十六年ニ於テ英國銀行ガ紙幣減縮ノ政畧ニ出デ、流通媒介物ノ缺乏ヲ來

シタルガ爲メニ倫敦市民大ニ困難ヲ感シタリケレバ商人及銀行者ハ英國銀行ノ特許ヲ侵スヲナクシテ貨幣ヲ供給スルノ策ヲ立テテガ爲メニ集會ヲ起セリ此集會ニ於テ英國銀行ノ銀行營業ノ特權トハ抑如何ナル點ニ存スル乎トノ疑問ヲ掲ケテ之ヲ議シ遂ニ左ノ如ク議決セリ曰英國銀行ガ享有スル所ノ銀行營業ノ特權トハ此特權ヲ與ヘタル國會ノ條例ニ釋定スル所ニ據レバ請求拂ノ紙幣ヲ發行シ貨幣ヲ借入募集スルノ權利ヲ指スニ似タリト又一千八百廿二年ノ頃ニ或ル記者ハ英國銀行特權ノ此瑕瑾ヲ看破シ合資預金銀行ヲ創立スルモ英國銀行ノ特權ヲ侵ス者ニ非ズト主張シ斯ル銀行ハ毫モ紙幣ヲ發行セズ唯倫敦銀行者ノ例ニ倣ヒ小切手ノ取引法ヲ行テ以テ能ク銀行事業ヲ營ミ得ルヲ論ヒリ當時此事ハ小冊子ニ於テ大ニ論議セラレシト雖尙ホ何等ノ結果ヲモ實際ニ生ズルニ至ラザリキ



英蘭銀行特權ノ此瑕瑾發見セラレタルニ拘ラズ久シク何等ノ結果ヲモ實際ニ生ゼザリシハ稍々怪ム可キナリ而テ政府ガ一千八百三十三年ヲ以テ英蘭銀行特許繼續ノ事ニ關シテ該銀行ト商議ヲ開クニ及ヒ尙ホ政府及一般ノ商業社會ハ信シテ以爲ヘラシ該銀行ノ特權ハ以テ社員六人以上ノ銀行ノ創立ヲ禁スルノ効アリト然レモ此商議ノ際ニ於テ該銀行特權ノ此瑕瑾始メテ政府ノ悟ル所トナリシカバ政府ハ此緊要ナル疑問ニ關シテ法官ノ意見ヲ諮問シクリケルニ法官ハ何レモ其說ヲ陳シテ曰ク英蘭銀行ニ特權ヲ與フルノ箇條ハ合資預金銀行ノ創立ヲ禁スルノ効ナシト是ニ於テ平該銀行ノ取締役及株主ハ己レノ特權ノ此瑕瑾ヲ發見シテ大ニ驚愕シ之ヲ補正センヲ政府ニ要求セリ然レモアルソルプ公之ヲ拒ミテ曰商議スル所ハ英蘭銀行ノ特權ヲ減少セザルニ在リ然レモ苟モ之ヲ擴張スルニ至

テハ余一致スルヲ能ハズト而テ氏ハ此點ニ關シテ世ノ疑惑ヲ排掃センガ爲メニ合資預金銀行ヲ創立ス可キ權利アルヲ明告スル一箇條ヲ追加ス可シトノ議ヲ出タセリ氏曰英蘭銀行ニ對スル契約ノ基礎ハ其既ニ享有セル特權ヲ享有セシムルニ在リ之ヲ外ニシテ又一事アルナキナリ余ハ最モ深ク注意シテ此疑問ヲ考察シタルニ斯カル合資預金銀行ヲ以テ英蘭銀行ノ特權ヲ侵ス者ナリト爲スノ口實毫モ之アルヲ見ザルナリ抑英蘭銀行ハ原ト發行銀行トシテ創立セラレタル者ニシテ一千六百九十七年ヲ以テ初メテ之ニ與ヘラレシ所ノ特權ハ唯其同種類ノ銀行ノミニニ關スル者ト爲サバ爾後ノ諸條例ノ言語ニ徵スルモ凡テ然ラザルハナシ即英蘭銀行特權ノ據テ立ツ所ノ箇條ハ詳明ニ之ヲ紙幣發行ノ一事ノミニ限レリ預金銀行ハ習慣律ニ於テ正當ナリトスル所ニシテ其禁セラレタルヲ



云ハントスル人ハ如何ナル條例ヲ以テ之ヲ禁シタル乎ヲ舉示スルノ責任アルナリト  
 遂ニ決議スル所トナリタル一千八百三十三年第九十八號條例ノ要點左ノ如シ

第一、英蘭銀行ハ某時限ノ間某條件ニ從ヒ條例ヲ以テ與ヘシ所ノ特權ヲ享有シ共同躰トシ繼續セラル、者トス此某時限ノ間ハ倫敦及倫敦六十五英里以内ニ在テハ社員六人以上ノ會社ニ於テ請求次第所持人ニ仕拂フ可キ爲替手形約束手形ヲ製造シ發行ス可カラズ然レモ地方銀行者ハ其紙幣ノ倫敦ニ於テ兌換ヲ求メラル、者アルニ當リ之ヲ兌換セシメンガ爲メニ倫敦ニ代理店ヲ置クコトヲ得

第二、英蘭銀行ノ享有スル銀行營業ノ特權トハ果シテ何ヲ云フ乎ニ關シテ世人ノ疑惑ヲ除カンガ爲メニ左ノ如ク制定ス

曰如何ナル共同躰ヲリ會社タルヲ問ハズ又其社員ノ多少如何ニ拘ラズ苟モ英蘭銀行特權ノ繼續セラル、時限内ニ英蘭ニ於テ請求拂若クハ六ヶ月以内拂ノ紙幣ヲ發行シテ貨幣ヲ借入募集セザル以上ハ倫敦及倫敦六十五英里以内ニ在テモ銀行營業ヲ行フヲ得ト

第三、倫敦以外ニ於テ發行セラル、英蘭銀行ノ請求拂ノ紙幣ハ凡テ其發行場所ニ於テ兌換ス可キ者ト爲ス可シ

第四、一千八百三十四年八月一日ヨリ起算シテ十ヶ年ヲ經過シ其後六ヶ月以内ニ於テ一年前ニ通知ヲ與ヘ且國會ヨリ英蘭銀行ニ對スル負債ヲ凡テ償還スルキハ該銀行ノ特權ハ其通知ノ年ノ終リニ至テ消滅スル者トス

第五、英蘭銀行ガ需要ニ應シ合法正貨ヲ以テ其紙幣ヲ兌換スル間ハ英蘭銀行及其支店ヨリスル仕拂ノ外ニ於テハ凡テ其



紙幣ハ法貨ナル者トス特ニ支店ニ於テ兌換スルコトヲ約セザル紙幣ハ支店ニ於テ兌換スルコトヲ要セズト雖各支店ニ於テ發行セル紙幣ハ倫敦本店ニ於テ之ヲ兌換セザル可カラズ第六、勘定報告ヲ公ニスルノ規則ヲ立テ又期限三ヶ月以外ニ出テザル切手々形ハ之ヲ利息制限法ノ範圍外ニ置クコトヲ定メタルニ此等ノ點ハ今變更セラレタルニ詳記スルヲ要セズ第七、政府ハ英國銀行ニ對スル負債中其四分ノ一ヲ償還ス可シ而テ該銀行ノ株主若シ之ヲ欲スルキハ右償還高ニ應ジテ該銀行ノ資本金ヲ減少スルヲ得可シ第八、英國銀行ハ以上特權ノ報酬トシテ國債取扱ノ爲メニ受取ル手数料中ヨリ一ケ年十二萬磅ヲ捐棄ス可シ英國銀行特權ノ繼續セラレシ後チ數年間ハ穀物ノ收穫非常ニ豊ニシテ各種農産物ノ直段甚シク下落セリ小麥ハ一千八百三

十四年及三十五年間ハ通年絶ヘズ下落シ八十五年十二月最後ノ週期ニ於テハ其直段「クォーター」ニ付三十六志ニ下落セリ而テ凡テ農業上ノ契約ハ小麥ノ直段「クォーター」ニ付七十志以下ニ下落セザル可シトノ豫想ニ基キ締結セラレタルガ故ニ今ヤ其直段斯ク久シク下落シテ止マザルコト最モ甚シキノ慘狀ヲ起セリ然レニ之レト同時ニ製造者ハ食物ノ豊多ニシテ廉價ナルガ爲メニ未曾有繁榮ノ狀ヲ呈セリ而テ穀物ノ直段斯ク久シク下落シテ止マザリシカバ一千八百三十五年ニ於テハ播種ヲ節シタルガ上ニ三十六年ノ春季ハ氣候不順ナリケリ是ニ於テ乎此等ノ諸原因相合シ三十六年ニ於テハ小麥直段ノ騰貴ヲ起セリ而テ收穫ノ期ニ際シ氣候濕潤寒冷ナリケレバ其直段秋季ニ至テ六十一志九片ニ騰貴セリ一千八百三十三年ヨリ三十五年ニ亘リテ商人非常ノ繁榮ニ浴



セシカバ恰モ世人ハ夫ノ一千八百二十五年ノ實驗ニ徴シテ毫  
 モ鑑ミル所ナカリシカノ如ク再ヒ大ニ投機取引ヲ起スニ至レ  
 リ蓋最初ニ起シタル鐵道實ニ豫想外ノ好結果ヲ呈シタルガ爲  
 ニ世人競テ鐵道ノ築造ニ狂騒スルコトナリ且當時合資銀行ノ  
 制度大ニ擴張セラレタルガ故ニ巨額ノ資本ヲ節省シ最モ濫リ  
 ニ信憑ヲ過張スルノ便ヲ與ヘタリ左レバ一千八百三十四年八  
 月十四日ニ於テウールンクリフ公ハ合資銀行及其支店ノ驚ク可  
 ク擴張セラレ且其資力ノ乏シキヲ論シテ宰相ノ注意ヲ喚起  
 セリ而テ合資銀行ノ此緊要ナル疑問ハ一千八百三十六年ニ至  
 テ下院ニ提出セラレ下院ハ之ヲ調査セシメンガ爲メニ委員ヲ  
 任シタリ此委員ハ議院ノ會期中其職ヲ保チ二回ノ報告書ヲ出  
 タシタリト雖是レハ後章ニ至テ之ヲ觀察ス可シ而テ投機取引  
 ノ狂騒ハ一千八百三十六年ノ春季ニ至テ其頂點ニ達シ商務局

長ボウレット、タムソン氏ハ同年五月六日下院ニ於テ左ノ如ク云  
 ヘリ曰

今日我國ニ投機ノ精心熾ニ行ハル、ヲ見テ之ニ驚カザラン  
 ト欲スルモ得ザルナリ然レモ余ハ今日ノ現狀ト夫ノ一千八  
 百二十五年ノ事情トハ大ニ異ナル所アルヲ信ズルナリ蓋往  
 年ニ在テハ投機ノ精心最モ法外ナル外國ノ投機事業ニ注キ  
 タリト雖今ヤ投機ノ精心内國ノ事業ニ注ケリ而テ此投機取  
 引ニシテ過度ニ擴張セラル、キハ其結果ノ有害ナル或ハ一  
 千八百二十五年ニ於ケルガ如ク甚シカラザル者アル可シト  
 雖尙ホ大ニ有害ナル者アラン何レノ新聞紙ニテモ何レノ物  
 價表ニテモ苟モ想起シ得キ事業ハ假令社會ノ現狀ニ於テ  
 到底行フ能ハザルニ拘ラズ必ス之ニ關シテ合資會社ヲ創立  
 スルノ廣告アルヲ見ルキハ何人ト雖トモ今日投機取引ノ甚



活潑ナルニ驚カザルヲ得ザル可シ余ハ曩ニ合資會社ノ名稱ト其募集セント欲スル資本金ノ總額トヲ記録セシムルヲ余ノ義務ナリト思惟シ僅ニ倫敦ノ新聞紙ト二三ノ地方新聞紙トニ就テ之ヲ調査セシメタルニ其募集セント欲スル資本金ノ總額ハ殆ド二億磅ニ達シ會社ノ數ハ三百乃至四百ニ達セリ(中略)此等會社ノ過半ハ唯株券ヲ賣ランガ爲メニ投機者ノ起セシ所ナリ此輩ノ投機者ハ其株券ニ増打ヲ生ゼシメテ之ヲ賣リ愚ニシテ之ニ貨幣ヲ投シタル不幸ナル買人が能ク其損失ヲ避ケ得ルト否トハ其爲ス所ニ任シテ顧ミザルナリ余ハ又々國內各地ニ於テ合資銀行ノ濫リニ興リタルヲ見テ大ニ之レヲ憂フルナリ余實ニ合資銀行ノ大利ヲ生シタルヲ信ズ然レトモ余ガ上段他ノ合資會社ニ關シテ述ベシ所ハ國內各地ニ興リタル數多ノ合資銀行ニ關シテモ亦々然ル所ニシ

テ斯カル銀行ノ興ルハ徒ラニ害ヲ生スルノ外アラザルナリト

英蘭銀行ガ一千八百二十七年ニ於テ地金報告書ノ原理ヲ採用セシ以來此原理ヲ實行スル方法トセシ所ハ成ル可ク常ニ同額ノ證券類ヲ有シ其地金銀及正貨ヲ證券類ノ半額ナラシメ地金銀、正貨、證券類ノ三者ヲ合シテ其負債ト同額ナラシムルニ在ルコトハ吾輩ノ既ニ示セシ所ナリ即外國爲替相場ノ平均ヲ保ツニ當テハ該銀行ノ有様ヲ斯ノ如クナラシメ置キ而テ外國爲替相場ノ手段ニ因リ若クハ金ニ對スル内地需要増加ノ手段ニ因リ其紙幣發行高ヲ増減スルコトハ舉ケテ之ヲ公衆ノ意如何ニ任スルニ在ルナリ而テ一千八百三十三年十月ニ於テハ該銀行ハ恰モ此尋常ノ有様ニ在リキ蓋此時ニ於テ其負債即紙幣及預金ノ額ハ三千二百九十萬磅ニシテ其所有證券類ノ額ハ二千四百二







需要ヲ制スルノ効アラズシテ九月ニ至テハ正金在高僅ニ五百萬磅小餘トナリシカバ該銀行ハ再ヒ割引歩合ヲ五分ニ引上ケタリ是ニ於テ平前年及ヒ三十六年ノ春季ニ於テ頻リニ吹キ脹ラセシ所ノ泡沫今ヤ俄ニ各面ヨリ破裂スルニ至レリ

英國銀行ノ庫中ヨリ正金ノ流出スルノ内外二様ノ原因ヨリシテ速ニ増加セリ夫ノ合衆國ノ國立中央銀行ハ一千八百三十六年ニ至テ其特許ノ期限盡クル所ニシテ大統領ウヤクソン氏ハ決シテ之ヲ繼續セザラシメントニ決心シ正貨制度ヲ行テ該國ノ貨幣ヲ從前ヨリモ強固ナル基礎ノ上ニ立テサル可カラズト決心セリ是ニ於テ平此目的ヲ達スルノ手段忽チニ着手セラレ米國各種ノ證券類ヲ大ニ英國ニ輸入シ而テ正金ヲ米國ニ輸入セシガ爲メニ之ヲ賣リタリ然ルニ英國ニ於テハ銀行非常ニ増加シ割引歩合低キニ失セシカバ此等各種證券類ノ巨額ヲ英國

ニ於テ賣リ而テ正金ヲ米國ニ吸收スルヲ得タリ

此際合資銀行ハ其割引セル手形ノ再割引ヲ請ヒ以テ過度ニ信憑ヲ擴張シツ、アリキ而シテ此手段ノ爲メニ正貨ニ對シテ紙幣ノ割合ヲ大ニ増加シ一旦信憑地ニ墜ツルノ日ニ至テ來ル可キ危険ヲ大ニ加ヘタリ遂ニ英國銀行ハ將サニ來ラントスル危険ヲ悟リ一擊以テ信憑ノ此過度ノ擴張ヲ挫カント勉メタリト雖モ殆ト常ニ然リシガ如ク其處置寧ロ遲緩ニ失シタルノ憾アリキ蓋該銀行ハ八月ニ至テ割引歩合ヲ五分ニ引上ケシ耳ナラズ苟モ合資銀行ノ裏書セル手形ハ悉ク之ヲ割引スルヲ拒ミタリ而テ此事ヤ當時我國ニ溢入セル米國ノ證券類ニ對シテ一大傷害ヲ與ヘタリ何トナレバ此等ノ證券類ハ大抵合資銀行ノ買ヒシ所ニシテ合資銀行ハ之ニ裏書シテ再ヒ發行シタレバナ



一千八百三十六年ノ秋季ニ至テハ將サニ來ラントスル大凶害ノ徵候既ニ蔽フ可ラズシテ愛爾蘭ニ於テハ就中甚シカリキ蓋農商業銀行ト稱セル一大合資銀行ハ秋季ノ初メニ於テ其危キ一既ニ世ニ知ラレ該銀行ハ英蘭、愛爾蘭、蘇格蘭ノ他ノ合資銀行ニ向テ幫助ヲ求メタリト雖悉ク拒マレケレバ更ニ株主ニ向テ株金ノ醜集ヲ促シタリト雖株主亦之ニ應セザリキ而テ愛爾蘭ノ他ノ合資銀行ハ此農商業銀行ガ仕拂ヲ停止センコトヲ前見シスノ如ク數多ノ支派ヲ有スル一大銀行ニシテ仕拂ヲ停止セバ必スヤ金貨ノ取付ケ大ニ起ル可シト豫期シ銳意金貨ヲ貯蓄セリ斯クテ愛爾蘭ノ諸銀行ガ其取付ケニ應ゼンガ爲メニ貯蓄セル金貨ノ高ハ二百萬磅ニ下ラザル可シト算セラレタリ而テ是レ皆英蘭銀行ヨリ出デシナリ抑斯ク巨額ノ金貨ヲ要セシ者ハ英蘭銀行紙幣ガ愛爾蘭ニ於テ法貨タルヤ否ヤニ關シ愛爾蘭ノ卓

絶ナル諸大家ノ間ニ頗ル異論アリシニ因ル者多シ三名ノ最モ有名ナル法律家ハ英蘭銀行紙幣ガ愛爾蘭ニ於テ法貨タルヲ主張シ之ニ讓ラズ有名ナル他ノ三名ノ法律家ハ其然ラザルヲ主張セリ而テ愛爾蘭銀行ハ初メヨリ之ヲ法貨ニ非ズト爲スノ說ヲ懷キシガ上ニ法律家ノ間ニ斯ク異論アリシコトナレバ彌々以テ其法貨タルヤ否ヤヲ實際ニ試ムルコトヲ欲セザリキ左レバ他ノ諸銀行モ愛爾蘭銀行ノ例ニ倣ヒ皆競テ金貨ヲ貯蓄セリ斯ノ如クニ前見セラレタル大凶害ハ十一月十四日農商業銀行カ仕拂ヲ停止シ尋テ愛爾蘭諸銀行ニ向テ金貨ノ取付ケ起ルニ及ンテ破裂セリ然レモ愛爾蘭諸銀行ハ豫メ慮リテ金貨ヲ準備セシガ故ニ能ク其取付ケニ應スルヲ得タリキ而テ當時信憑全ク地ニ墜チダブリシニ於テハ英蘭銀行紙幣ト雖モ大ニ割引ヲ生ゼシ程ナリケレハ愛爾蘭銀行ノ如キモ二志六片ノ割引ヲ以テ



唯小額ノ英國銀行紙幣ヲ其得意者ヨリ受取ルヲ肯ンセシノ  
 ミナリキ左レバ此際英國銀行ノ正金在高ハ絶ヘズ速ニ減少シ  
 十月ノ初メニハ負債二千九百八十六萬九千磅ニ對シ正金在高  
 五百零三萬五千磅ナリシニ十一月ノ終リニハ負債三千零九十  
 四萬一千磅ニ對シ正金在高三百六十四萬磅トナレリ而テ十二  
 月間ニ於テハ其正金在高僅ニ増加セシト雖モ一月ニ至テ再ヒ  
 減少セリ蓋十一月ニ於テマンチンスタールニ本店ヲ有シ各製造地  
 方ニ三十九ノ支店ヲ有セル「ノルゼルン、ニンド、セントラル、パン  
 ク」ト稱スル一大銀行非常ノ危急ニ迫マリ英國銀行ニ幫助ヲ求  
 メタリシニ英國銀行ハ初メハ之ヲ拒ミタリト雖モ倫敦ノ重モ  
 ナル銀行者ニ協議セシニ製造地方ニ至大ノ關係アル此銀行ニ  
 シテ仕拂ヲ停止セバ勢ヒ一般ノ恐慌ヲ來タス可シトノ説ナリ  
 ケレバ遂ニ英國銀行ハ此銀行ヲシテ其負債ヲ仕拂フヲ得セシ

メンガ爲メニ五十萬磅ヲ貸付スルコトニ決心セリ然ルニ其負債  
 ノ額當初ノ算ニ違ヒテ更ニ大ナルヲ發見セラレケレバ右貸付  
 金ノ額ヲ増加シテ一百三十七萬磅トナセリ而シテ一月ノ初メ  
 ニ倫敦ノ一銀行又英國銀行ニ幫助ヲ求メ倫敦ノ他ノ諸銀行者  
 此ノ銀行ノ爲メニ英國銀行ニ對シテ保證人トナリシカバ遂ニ  
 英國銀行ハ此銀行ヲシテ其負債ヲ仕拂ハシムルニ足ルノ金額  
 ヲ貸付セリ然ルニ倫敦及リヴァプールニ在テ米國トノ取引ニ  
 關係セル諸商家亦焦眉ノ急ニ迫マリ補助ヲ英國銀行ニ請ハザ  
 ル可カラザルニ至レリ是ニ於テ平人ヲシテ其事情ヲ調査セシ  
 メタルニ若シ之ニ幫助ヲ與ヘテ一時其負債ヲ仕拂フヲ得セシ  
 メバ此等商家ノ身代ハ結局確實ナルヲ得可キ旨ヲ報告セリ且  
 之ニ幫助ヲ與ヘザル可カラザル他ノ一理由トシテ説キテ曰米  
 國トノ取引ニ關係セル此等商家ハ其取引頗ル大ニシテ英國北



部中及ハザル所ナキ程ナレバ若シ之ヲシテ仕拂ヲ停止セシメ  
 バ世上一般ノ信憑爲メニ破壊セラレ、ニ至ル可シト是ヲ以テ  
 英蘭銀行ハ熟考ノ後此等商家ノ急ヲ救ハンコニ決心シ六百萬  
 磅ノ巨資ヲ貸付セリ而テ此大貸付金ハ一千八百三十九年ニ於  
 テ米國信憑ノ大ニ傾倒セシガ爲メニ其返濟延セシト雖モ而  
 カモ結局返濟セラレタリキ其他英蘭諸銀行ヘノ貸付金ノ如キ  
 モ元利トモ返濟セラレ其約ヲ違ヘン者ハ唯一アリテ其金額モ  
 小ナリキ左レバ英蘭銀行ハ再ヒ夫ノ地金報告書ニ設置セラレ  
 タル原理ヲ遵奉セル者ニシテ之ガ爲メニ一千八百二十五年ノ  
 大凶害ニ比シテ唯一歩ヲ讓ル所ノ一大凶害ヲ避クルヲ得タリ  
 抑英蘭銀行ハ不確實ナル巨額ノ證券類ヲ漸次ニ流通上ヨリ除  
 カシメンガ爲メニ一時ノ目的ヲ以テ此等ノ貸付金ヲ爲セシ者  
 ナリ而テ此等ノ證券類大ニ流通上ヨリ除カレシガ爲メニ其證

券類ノ缺ヲ補ハンガ爲メニ大ニ金ノ流入ヲ起セリ蓋斯ノ如キ  
 結果ヲ生ズルハ常ニ然リシ所ニシテ又常ニ然ラザル可カラザ  
 ル所ナリ左レバ一千八百三十七年間ハ絶ヘズ正金英蘭銀行ニ  
 流入シ其十二月ニ至テハ正金在高一千零五十萬磅ニ達セリ一  
 千八百三十八年三月十三日ニ於ケル英蘭銀行ノ有様左ノ如シ  
 負債三一、五七三、〇〇〇 證券類在高 一〇、四六六、〇〇〇  
正金在高 一〇、五二七、〇〇〇  
 左レバ英蘭銀行ハ殆ト五ケ年ノ長日月ヲ經テ始メテ其取締役  
 ガ稱シテ尋常ノ有様ト爲セル地位ニ復セル者ニシテ將サニ斃  
 レントスル信憑ヲ恐慌ノ際ニ救フヲ得タリ若シ夫レ該銀行ニ  
 シテ夫ノ地金報告書ガ信憑一時ノ破懷ヲ救フノ適策トシテ明  
 言セシ所ノ處置即チ慎ンテ辨金ヲ増加スルノ處置ニ出デザリ  
 シナラシニハ此恐慌ノ害ハ必スヤ之ニ十倍セシナル可シ  
 一千八百三十二年ヨリ同三十七年マデハ連年穀物著シク豐登



ナリキ然ルニ爾來非常ノ凶歉數年間續キ一千八百三十八年ノ如キハ一千八百十六年以來曾ア知ラレタル最モ甚シキノ凶歉ヲ呈シタリ而テ三十九年ノ如キモ殆ト毫モ前年ニ讓ラザルノ凶歉ヲ呈シタリ斯ノ如ク大凶歉續キシカバ大ニ外國穀物ヲ輸入セザルヲ得ズシテ其額一千萬磅ニ及ヒ其大半ハ正金ヲ以テ其代價ヲ仕拂ハザルヲ得ザリキ加之恰モ此時ニ際シ他ノ數原因相併發シテ金貨輸出ノ需要ヲ起セリ蓋前數年間ニ於テ米國、佛國、白耳義ハ最モ濫リニ信憑ヲ擴張シ米國ニ在テハ財產及證券類ヲ抵當トシ銀行紙幣ヲ發行スル不幸ナル制度即夫ノロー氏ノ制度ニ彷彿タル制度行ハレ又佛國及白耳義ニ在テハ合資銀行大ニ創立セラレ斯クテ此等諸國ニ於テ紙幣大ニ増發セラレタレバ猶ホ紙幣過發ノ爲メニ曾テ英國ニ起リシト同一ノ結果ヲ生シ此等諸國ヨリ金貨ヲ驅逐シタリ而テ此等諸國ヨリ金

貨驅逐セラレト同時ニ英國ニ在テハ一千八百三十七年ヲ以テ過度ニ擴張セラレタル信憑破壞セラレシカバ翌三十八年三月ニ至ルマデハ大ニ我國ニ向テ金ノ流入ヲ起セリ然ルニ此年ニ至リ以上諸國ニ於テ信憑地ニ墜チ其秋季ニ及ンデ白耳義銀行其仕拂ヲ停止シ巴里諸銀行ニ向テ劇烈ナル金貨ノ取付ク起レリ斯ノ如ク外國ニ於テ信憑地ニ墜チ紙幣消滅スルニ至リシカハ今ヤ反テ此等諸國ニ向テ正金ノ流出起リ而テ其正金ハ英國銀行ノ庫中ヨリ出デタリ

一千八百三十八年ノ初メニ於テ英國銀行正金在高ハ數月間益増加セシカバ商業社會ノ人ハ以爲ヘラク英國銀行ハ須ラク庫中ノ寶貨ヲ實用セザル可カラズト是ニ於テ乎該銀行ハ割引歩合ヲ五分ヨリ四分ニ引下ケ米國諸銀行ノ紙幣兌換再始ヲ助ケンガ爲メニ一百萬磅ノ金貨ヲ米國ニ送レリ蓋當時米國ニ於テ



ハ紙幣破壊セラレシガ爲メニ外國爲替相場該國ニ利アリシナ  
 リ  
 英國銀行ノ正金在高ハ一千八百三十八年十二月マデハ大シク  
 ル増減ハアラザリキ蓋此月ノ十八日ニ在テハ負債二千八百十  
 二萬磅ニ對シ證券類在高二千零七十七萬六千磅、正金在高九百  
 七十九萬四千磅ナリシニ此時ヨリシテ正金絶ヘズ速ニ流出シ  
 一千八百三十九年十月マデハ其流出毫モ衰ヘズシテ續キケリ  
 抑英國銀行ガ三十八年二月ヲ以テ其割引歩合ヲ四分ニ引下ケ  
 シニ當テハ市場ノ歩合ハ尙ホ之ヨリモ低廉ニシテ夏季ニ於テ  
 ハ約ソ三分ナリキ然ルニ其後漸ク騰貴シ秋季ノ終リニ於テハ  
 英國銀行ノ歩合ト平準ヲ保ツニ至レリ而テ正金ノ流出起ラン  
 トスルノ徵候歷々タルニ際シ英國銀行ハ十一月廿九日ヲ以テ  
 俄ニ爲替手形、東印度商會負債券、出納局證券其他確實ナル證券

類ノ割引歩合ヲ三分五厘ニ引下ケタリ然ルニ此時市場ノ利息  
 相場ハ英國銀行ノ相場ヨリモ大ニ高カリケレバ其結果タルヤ  
 該銀行ニ向テ割引ノ追求ヲ起スニアリキ左レバ三十八年十二  
 月ニ於テハ一千九百五十三萬六千磅ナリシ證券在高ハ三十九  
 年一月ニ至テ二千七百五十九萬四千磅ニ増加シ之ト同時ニ正  
 金在高ハ九百五十二萬二千磅ヨリ八百八十二萬六千磅ニ減少  
 セリ左ノ一表以テ正金在高ノ漸次減少セル狀ヲ明示スルニ足  
 ル可シ

	債	證券類在高	正金在高
一八三八年十二月十八日	二八、二〇〇、〇〇〇	二〇、七七六、〇〇〇	九、七九四、〇〇〇
一八三九年一月一日	二八、一五六、〇〇〇	二二、三七七、〇〇〇	九、〇四八、〇〇〇
同 一月十五日	三〇、三〇五、〇〇〇	二四、五二九、〇〇〇	八、三三六、〇〇〇
同 二月十二日	二六、九三九、〇〇〇	二二、六二八、〇〇〇	七、〇四七、〇〇〇



同 三月十二日

二六〇八八、〇〇〇 三三、一四三、〇〇〇 六五八〇、〇〇〇

同 四月九日

二九〇三九、〇〇〇 三三、一七三、〇〇〇 五、二一三、〇〇〇

同 四月三十日

二六、四七五、〇〇〇 二四、五三六、〇〇〇 四、四五五、〇〇〇

同 五月十四日

三五、七一〇、〇〇〇 二四、〇九八、〇〇〇 四、一七〇、〇〇〇

此時ニ至ルマデハ英蘭銀行ハ痿痺シテ全ク自由ノ運動ヲ失ヒシ者ノ如クナリキ市場ノ利息相場愈騰貴シ正金ノ流出スルニ蔽フ可カラザルニ拘ラズ尙ホ該銀行ハ二月廿八日ニ至リ前年十一月ニ揭示シタルト同一ノ證券類ニ對シテハ同一ノ割引歩合ヲ維持ス可キ旨ヲ揭示セリ而テ五月十六日ニ至リ該銀行ハ始メテ俄然割引歩合ヲ五分ニ引上ケタリ若シ右ノ一表ヲ通覽セバ取締役ガ負債三分ノ一ニ當ル正金ヲ貯フ可シト云フ己レノ主義ヲ如何ニ全ク欺キシ乎ヲ知ル可キナリ而シテ市場ノ利息相場ハ更ニ大ニ騰貴セシカバ英蘭銀行ノ相場ハ尙ホ其下ニ

立チタリ故ヲ以テ正金ノ流出止マズシテ五月廿八日ノ正金在高ハ三百九十一萬磅、負債ノ總額ハ二千四百五十萬磅以上トナレリ然ルニ取締役ハ全ク事情此ノ如クナルヲ見ル能ハサリシニヤ割賦金ヲ爲ス爲メニ帳簿ヲ閉ツル時ナル五月卅日ニ至リ尙ホ前記ノ證券類ハ七月廿三日マデハ五分ニテ割引スル旨ヲ告ゲタリ然レモ遂ニ六月廿日ニ至リ取締役ハ始メテ事情ノ迫レルニ驚愕シ割引歩合ヲ五分五厘ニ引上ゲ爲替手形ノ外ハ何等ノ證券類ヲモ割引セザル旨ヲ揭示セリ

七月十六日ニ於テハ負債二千八百八十六萬磅ニ對シ證券類在高二千八百八十四萬六千磅、正金在高二百九十八萬七千磅ナリキ是ニ於テ乎取締役ハ其銀行ノ破産ノ淵ニ瀕セルヲ始メテ悟リ七月十三日ニ於テ或ル有期年金證書ヲ買ハント欲スル者アレバ之ニ應ス可キ旨ヲ告ゲタリト雖モ其最低相場ヲ高ク定



メタルが故ニ毫モ賣買行ハレザリキ  
 英蘭銀行ハ五月ニ於テ唯割引歩合ヲ引上ゲシ耳ナラズ七十六  
 萬磅ノ國債證書ヲ賣リ又巴里ノ己レノ勘定ニ對シテ六十萬磅  
 ノ爲替手形ヲ振出サシメタリ而テ此等ノ處置ノ爲メニ暫時正  
 金ノ流出ヲ止ムルノ効アリシト雖モ右手形ノ期限達セルニ及  
 ビ該銀行ノ正金在高ハ豊ナルヲ加ヘザリシカバ其仕拂ニ應セ  
 ンガ爲メニ更ニ巴里ニ於テ負債ヲ起スノ止ム可カラザルニ至  
 レリ蓋英蘭銀行ノ有様如何ハ外國ノ爲替商人固ヨリ能ク之ヲ  
 知ル所ニシテ六月ニ於テハ該銀行ガ正貨仕拂ヲ維持スル能ハザ  
 ル可キコト一般ニ豫期セラレタリ是ニ於テ乎我國ニ宛テタル長  
 期ノ手形ハ之ヲ賣リテ正金ニ代ヘンガ爲メニ悉ク我國ニ返送  
 セラレ而テ之ニ因テ得タル正金ハ忽チニ外國ニ輸出セラレタ  
 リ左レハ英蘭銀行ハ且ハ此正金ノ流出ヲ妨ケ且ハ糞ニ起シタ

ル負債ノ仕拂ニ應センガ爲メニ七月ニ及ヒ一層六ナル策ヲ施  
 ササル可カラザルニ至レリ即其策如何ト云フニ「ペーリントン」會  
 社ハ巴里ノ重モナル銀行者十二名ト協議シテ二百萬磅餘ノ額  
 ニ至ルマデハ此等ノ巴里ノ銀行者ニ對シテ爲替手形ヲ振出ス  
 ノ約ヲ結ビ且此等ノ巴里銀行者ガ尋常佛蘭西銀行ニ有スル預  
 金ハ限リアリト雖モ佛蘭銀行ハ此等ノ巴里銀行者ノ引受ケシ  
 タル手形ハ假令其預金ノ額ニ超ユルモ拒却セズシテ仕拂ニ應  
 ス可キ旨ヲ諾セリ又ハムホルグノ銀行者ニ對シテモ九十萬磅  
 ノ額ニ至ルマデハ同様ノ約ヲ結ベリ而テ右ノ策ニ從ヒ一手形  
 ノ振出サル、毎トニ英蘭銀行ハ其七月ニ於テ賣ラントセシ年  
 金證書中ヨリ手形ト同額ノ年金證書ヲ二名ノ保管人ニ渡スコ  
 ナリキ此保管人ノ一名ハ則手形振出人ノ爲メニスル者ニシテ  
 他ノ一名ハ則手形引受人ノ爲メニスル者ナリ而テ此第二回ノ



負債ニ因テ第一回ノ負債ノ期限ニ達セル者ヲ仕拂ヒタリ英蘭銀行ノ正金在高ハ一千八百三十九年九月二日ヲ以テ終ル所ノ一週期ニ於テ最低點ニ達シ實ニ二百四十萬六千磅トナリシト雖モ右ノ策ノ爲メニ次第ニ正金ノ流出ヲ止ムルノ結果ヲ奏シ爾來正金在高ハ漸チ以テ徐々ニ増加シ此年ノ最後週期ニ於テハ負債二千三百八十六萬四千磅ニ對シ證券類在高二千二百零九萬八千磅、正金在高四百五十三萬二千磅トナレリ此外國負債ニ關スル取引ハ三十九年七月ヨリ四十年四月ニ至ル九ヶ月間ニ亘リ此際最モ多額ノ手形ヲ振出レタルハ三十九年十一月ニ在リテ其額二百九十萬磅ニ達シタリキ

英蘭銀行ノ負債ト正金在高トノ割合ヲ示サンガ爲メニ余輩ガ前ニ掲ゲシ所ノ一表ヲ見ルルハ其取締役ガ一千八百三十二年ニ於テ已レテ制束センガ爲メニ設ケタル規則ハ到底實際ニ於

テ遵守スル能ハザル者アリシカ抑又其取締役ガ金融必迫ノ時ニ際シ此規則ヲ遵守センガ爲メニ其證券類ヲ減少スル十分ノ勇斷ヲ缺キタルカ二者必ス其一ニ在ラザル可カラザルヲ明ナリトス抑負債ト正金在高トノ比例斯ノ如ク甚シク常チ失セルハ之ヲシテ尋常ノ銀行ニアラシムルモ尙ホ且甚安全ナラザルナリ况ヤ困難ノ時ニ際シテ全王國各銀行ノ最後ノ本據ナリト知ラレタル英蘭銀行ニ於テ此事アリシチヤ極メテ危カラザルヲ得ザルナリ左レバ英蘭銀行ヲシテ負債ト正金在高トノ間ニ適當ノ比例ヲ維持セザラシムル策チ工夫スルハ大ニ學者ノ意ヲ注ク所トナレリ而テ英蘭銀行チ互ニ獨立セルニノ局部ニ分チ其一ヲシテ紙幣發行ヲ司ラシメ其一ヲシテ銀行營業ヲ司ラシムルノ策ハ竟ニ採用セラレシ所ニシテ此策ノ創唱者ハ實ニコロチル、トルレンス氏ナルガ如シ初メ此策ノ世ニ



出デシハ一千八百三十七年ニ在リタトツク氏ノルマン氏等ノ如キ最モ經濟ニ卓絶ナル諸大家ノ大ニ論議討究セシ所ナリ而テ此策ハ一千八百四十四年ヲ以テ制定セラレタルロベルト、ピール氏ノ銀行條例ノ主點トナリシコトハ吾輩ガ後文ニ記スルガ如クニシテ竟ニ採用セラレシ所ノ此策ヲ觀察スルコトハ吾輩之ヲ後文ニ讓ル可シ抑我國ガ前數年間ニ經過セシ所ノ商業上及金融上ノ大凶害ハ痛ク世ノ注意ヲ喚起スル所トナリ議院ニ種々ノ請願書ヲ出ダス者多カリキ故ヲ以テ政府ハ一千八百四十年三月ニ至リ紙幣制度ノ全軀ヲ調査セシメント決心シ同月十日出納局長ハ此目的ノ爲メニ委員ヲ任スル議ヲ起セリ此時出納局長ハ英國銀行ノ特許ハ一千八百四十四年ニ至テ其期限盡クルヲ述ベ此問題ニ關スル調査ヲ時迫マルマテ遅延セシムルノ不可ナルコトヲ説キ且曰吾人ガ曩ニ經過シタル困難ハ其責ノ

幾分ヲ英國銀行若クハ他ノ銀行ニ歸ス可キ乎是レ我最モ有識ナル人ノ間ニ大ニ異說アラント雖モ兎ニ角ニ我今日ノ制度ハ改正變更ヲ須要トスルコトハ凡テ有識者ノ切ニ然リトスル所ナリ既往ノ事ハ姑ク之ヲ論外ニ置クモ我國ガ過グル數年間ニ經過シタル困難ト攪擾トノ爲メニ我最モ重要ナル社團及我最モ大ナル製造市邑ハ穩當着實ナル語氣ヲ以テ其非ヲ愁訴シ本院ガ其愁訴ヲ聽納シテ適當ノ救治方案ヲ立テントヲ促スニ至レリト而テ委員ノ報告書及委員ノ受ケタル證報ニ就テ其緊要ナル點ヲ舉クレバ左ノ如シ

第一、地金報告書ノ原理ヲ履行センガ爲メニ一千八百三十二年ニ於テ取締役ガ明言セシ所ノ英國銀行ノ管理法ヲ全ク非ナリトセリ

第二、一千八百三十二年ニ於テ國會委員ノ諮問ヲ受ケタル證



報者が始メテ唱ヘシ所ノ爲替手形ハ流通媒介物即貨幣ノ一部ヲ成ス者ニ非ズトノ近代ノ大邪説ハ今ヤ委員ノ諮問ヲ受ケタル商人及銀行者ノ大多數ノ主張スル所トナレリ

第三、今日紙幣主義ノ名ヲ以テ知ラレ大ニ世ニ行ハル、所ノ銀行上ノ謬説ヲ商人ガ採川スルニ至リタルハ此時ニ濫觴セラルガ如シ此紙幣主義ナル者ハ之ヲ約説スレバ則左ノ如シ曰銀行紙幣ノ發行ヲ許可スル以上ハ其數額ヲシテ紙幣ノ行ハザル時ニ當テ流通ス可キ正貨ノ數額ト常ニ同一ナラシメザル可カラズト此主義ヲ懐クモノ謂ヘラク適當ニ紙幣ヲ序理シ紙幣ト金貨トノ間ニ價值ノ準一ヲ維持スルノ方法ハ之ヲ外ニシテ又アルナシト此説ヤ極メテ理アルガ如キノ外觀ヲ裝ヒ且卓絶ナル人ニシテ之ニ服スルニ至リシガ爲メニ大ニ勢力ヲ世ニ振ヘリ然レモ世人ノ妄信シ易キニ投シテ出デ

タル僞説中又之ヨリ甚シキ者アルナク少シタリモ銀行ノ計算ヲ知ル者ハ決シテ斯カル説ヲ唱ヘザル可ク又之ヲ信ゼザル可シ是レ吾輩ガ敢テ茲ニ斷言セント欲スル所ナリ  
地金報告書ノ原理ヲ履行センガ爲メニ取締役ガ定メタル英國銀行ノ管理法ハ一千八百三十二年ニ於テ委員ノ諮問ヲ受ケタル證報者ノ天晴レ最上ノ良法ナリトシテ稱揚セシ所ナリシガエス、ジョー、ロイド氏(今ヤ貴族ニ舉ケラレテナヴァーリーストーン公ト稱ス)ハ此管理法ヲ評シテ左ノ如ク云ヘリ曰定額ノ證券類ヲ貯フルノ規則ハ英國銀行ガ其遵守ス可キ規則トシテ自カラ可トセシ所ナリト雖而カモ過失ノ存スル所ハ初メ斯カル規則ヲ立テシトニ在リテ之ニ背キシトニ在ラザル也ト又曰第一ニハ一國ノ紙幣流通高シ序理スル目的ニ關シハ此規則ハ有レドモ無キガ如ク依然吾人ヲ全ク規則ナキノ有様ニ置ク者ナリ左レバ之







其受ケタル證報ニ關シテ報告書ヲ編制スル能ハザルヲ自カ  
 ラ明言シ此目的ノ爲メニ別ニ委員ヲ任ゼンノヲ議院ニ勸告セ  
 ザル可カラサルニ至レリ嗚呼亦驚ク可キニ非ズヤ  
 一千八百三十八年以來悲ム可キ凶歉四ケ年ニ續キ人民大ニ困  
 窮ニ陥レリ穀物ノ直段大ニ騰貴シ避ク可カラザルノ結果トシ  
 テ大ニ外國穀物ヲ輸入シ英蘭銀行ノ正金在高亦大ニ減少セリ  
 實ニ一千八百三十二年ニ於テ取締役ノ明言セル規則ハ無効ノ  
 死文タルニ過キズシテ一千八百四十二年八月廿七日マデハ正  
 金在高此規則ノ比例ニ復セザリキ即此時ニ於テハ負債二千九  
 百零二萬二千磅ニ對シ正金在高ハ九百七十二萬九千磅ナリキ  
 而テ一千八百四十二年三年四年ノ三ケ年間ニ於テハ穀物ノ收  
 獲驚ク可ク豐登ニシテ就中四年ノ如キハ前十年間ニ曾テ其例  
 ナカリシ程ニ豐登ナリキ左レバ此原因アリシト他ニ我國ノ資

本ヲ節省セル事情アリシトノ爲メニ爾後數年間ハ非常ニ盛榮  
 ナル外觀ヲ呈シタリト雖モ其結果ヤ竟ニ又一千八百四十七年  
 ノ大凶難ニ歸シタリ然レモ之ヲ論スルハ本章ノ範圍外ニ在ル  
 ナリ以テ之ヲ後文ニ讓ル可シ而テ英蘭銀行ノ正金在高ハ一千八  
 百四十三年十二月ニ至ルマデハ絶ヘズ益増加シ遂ニ此時ニ至  
 テハ一千四百九十八萬二千磅ニ達セリ是レ實ニ曾テ其例ナキ  
 ノ高點ナリトス而テ爾後ト雖モ一千八百四十四年ノ銀行條例  
 可決ノ時マデハ益増加セリ

第十一章 一千八百四十四年ノ銀行條例制定ヨリ今日  
 ニ至ルマデ

一千八百四十四年五月六日ロベルト、ピール氏ハ議院ニ於テ議  
 ナ起シテ曰英蘭銀行カ今日ニ享有セル特權ノ或ル者ヲ更ニ一  
 定ノ期限内繼續セシムルヲ利トス可シ但シ該銀行ヲシテ此目



的ノ爲メニ制定セラル可キ條例ニ設クル所ノ如何ナル條件ヲモ遵守セシム可シト氏ハ此決議案ヲ提出スルニ當リ先ツ現時ノ紙幣制度ヨリ生ズル弊害ト紙幣ヲ鞏固ナル基礎ノ上ニ置クニ關シテ氏ノ按セシ方法トヲ叙述セリ氏ハ正貨ヲ基礎トスルノ緊要ナルヲ辨破シ單一ノ價值ノ本位ヲ有スルノ利アル諸說ノ愚ナルヲ辨破シ單一ノ價值ノ本位ヲ有スルノ利アルヲ論シ而テ後ニ我國紙幣ノ有様及紙幣發行ヲ序理スルニ於テ依據セザル可カラザル原理ニ説及シ以テ漸ク其直接ノ本題ニ入レリ氏曰余ハ貨幣ナル語ヲ用フルニ當リ此語ニ因テ我王國ノ正貨ト請求ニ應シテ所持人ニ仕拂フ可キ約束手形トヲ指スニ於テ一言セザル可カラズ又紙幣ナル語ニ因テ余ハ斯カル約束手形ノミヲ指スナリ余ハ爲替手形、銀行者ニ宛テタル振出手形及其他ノ信憑券ハ右ノ二語ニ包入セシメザルナリ

蓋余ノ見ル所ヲ以テスレハ請求ニ應シテ所持人ニ仕拂フ可キ約束手形ト他ノ信憑券トノ間ニハ自カラ性質ニ於テ互ニ異ナル所アルヲ思フ也又之ヨリ商品ノ直段及爲替相場ノ上ニ生スル結果モ互ニ異ナル所アルヲ思フ也前者ハ貨幣タル一切ノ用ヲ爲シ苟モ贗造ノ疑惑ナキニ於テハ裏書ヲ要セス又之ヲ鑑定スルヲナクシテ人ヨリ人へ流通シ其名稱ニ於テ示スガ如ク實ニ貨幣即流通媒介物タルナリ(中略)余ハ信ス紙幣即請求拂ノ約束手形ハ金貨及外國替爲ニ對シテ一定ノ關係ヲ有スト雖モ他ノ信憑券ハ斯カル一定ノ關係ヲ有セザルハ實驗ノ証スル所タルヲ蓋一千八百十年ノ地金調査委員ノ報告書中ニ於テ英蘭銀行ニ關シテモ又愛蘭銀行及蘇格蘭銀行ニ關シテモ此事ノ最モ著明ナル例證アリ先ツ英蘭銀行ニ就テ之ヲ云ハ其創立後幾時ナラズシテ過發ノ爲メニ其紙幣大ニ下落セリ即該銀行ノ紙



幣ハ一割七分ノ割引ヲ生シタリ而テ該銀行ハ種々ノ策ヲ試ミ  
 タルノ後ニ於テ遂ニ其紙幣流通額ヲ減少スルヲ決心セシニ  
 之ガ爲メニ忽チニ殘餘流通紙幣ノ價值ヲ騰貴セシメテ平均點  
 ニ復セシメ隨テ又外國爲替相場ヲ匡正スルノ結果ヲ生シタリ  
 キ又愛蘭銀行ニ就テ之ヲ云ヘハ一千八百四年ニ於テ英國ニ對  
 スル愛蘭ノ爲替ハ非常ニ不利トナリケレバ其原因ヲ調査セシ  
 メンガ爲メニ委員ヲ任シタリシニ愛蘭ヨリ出アタル證報者ハ  
 大抵皆此事ノ愛蘭銀行紙幣ノ過發ニ原因スルヲ拒ミタリ(中  
 略)然ルニ一千八百四年ノ春季ニ於テ英國ニ對スル愛蘭ノ爲替  
 ハ極メテ不利トナリ愛蘭銀行紙幣一十八磅十志ヲ出ダスニ非  
 ザレバ一百磅ノ英國銀行紙幣ヲ購フ能ハザルニ至レリ而テ一  
 千八百四年ヨリ同六年マデノ間ニ愛蘭銀行紙幣ヲ三百萬磅ヨ  
 リ二百四十一萬磅ニ減少セタリシニ此事ハ英國紙幣ノ増加セ

レト相合シテ愛蘭紙幣ノ價值及英國ニ對スル愛蘭ノ爲替ヲ  
 平均點ニ復スルノ結果アリキ之ト同シク英國ニ對スル蘇格蘭  
 ノ爲替ノ不利ナリシニ當リ蘇格蘭ノ紙幣ヲ減少シテ以テ之ヲ  
 匡正セシメ履之アリキ凡テ以上ノ場合ニ於テハ請求拂約束手  
 形ノ作用ニ因テ之ヲ匡正セシ者ニシテ他ノ信憑券ノ作用ニ因  
 テ之ヲ匡正セシニ非ザルナリ他ノ信憑券ニ至テハ毫モ之ニ干  
 渉セシコトナク又約束手形ハ爲替手形、銀行ニ宛テタル小切手、  
 預金等ト其性質ヲ相同フスル者ニシテ異ナル原理ニ從テ之ヲ  
 取扱フコト能ハズト云フ如キ說ハ今日ニ於テコソ之ヲ主張スル  
 者アレ當時ニ在テハ決シテ主張スル者アラザリシナリト  
 左レバ當時ロベルト、ピール氏ハ獨リ銀行紙幣ヲ除キ其他何者  
 モ紙幣ニ非ズト云フノ僻說ニ感染セシ者ナリト雖モ吾輩ハ今  
 此不幸ナル僻說ニ關シテ敢テ喋々スルヲ要セザルナリ何トナ



レバ吾輩ノ意見ハ既ニ十分ニ開示セシ所ニシテ新ク言ハ  
 ト欲スル所ノ者アラザレバナリ然レヒ氏ガ其説ヲ支ヘンガ爲  
 メニ歴史上ノ例證ナリトシテ記セシ所ハ最モ不當ナル者ニシ  
 テ其正鵠ヲ得ザルコト之ニ如クモノアルヲ想像スル能ハザル  
 ナリ先ツ第一ニハ當時英蘭及愛蘭ニ於テハ其英蘭銀行紙幣及  
 愛蘭銀行紙幣ハ請求ニ應シテ仕拂フ可キ者ニ非スシテ實ニ不  
 換紙幣ナリシナリ然ルニ氏ノ觀察此事ニ及ハザリシハ誤謬ノ  
 最モ甚シキ者ナリ蓋英蘭銀行ニ關シテ氏ノ記セル所ハ地金報  
 告書ニ據レル者ナリ然ルニ地金報告書中ノ此點ニ關スル部分  
 ハ年月上ノ誤謬錯綜最モ甚シクシテ眞ニ驚ク可キ者アルハ吾  
 輩ガ第八章ニ於テ爭フ可カラザル證左ヲ掲ケテ明示セルガ如  
 シ當時外國爲替ヲ不利ナラシメタルハ銀行紙幣ノ濫發ニ原因  
 スルニ非ズノ正貨ノ劣悪ナリシト之ガ原因ナリシナリ而テ外

國爲替ヲ平均點ニ復セシメタルハ銀行紙幣ノ流通高ク減少シ  
 タルニ原因ヒズシテ正貨ノ品位ヲ恢復セシト之ガ原因ナリシ  
 ナリ左レハ外國爲替ハ英蘭銀行紙幣ガ平均點ニ復スル九ヶ月  
 前ニ既ニ平均點ニ復セリ故ニ此場合ニ於テハ銀行紙幣ノ過發  
 ガ外國爲替相場ヲ不利ナラシメ銀行紙幣ノ減少ガ外國爲替相  
 場ヲ平均點ニ復セシメタリト云フノ説ハ毫モ事實ニ根據スル  
 所ニ非ザルナリ故ニ又銀行紙幣ノ作用ニ因テ匡正シタリト云  
 フハ全ク事實ニ非ズノ唯銀貨收鑄ノ作用ニ因テ匡正セシトナ  
 リ又愛蘭ノ場合ニ關シテモ氏ノ記セシ所ハ齊シク組織セリ何  
 トナレバ當時ノ紙幣ハ不換紙幣ナリケレバナリ抑當時ニ在テ  
 ハ此紙幣ヲ以テ外國爲替ヲ仕拂フノ媒介物トナセシトナレバ  
 其紙幣ノ過發ハ大ニ外國爲替相場ヲ不利ナラシメシト固ヨリ  
 疑フ可クモアラズト雖モ如何ニシテ兌換ノ嚴ニ行ハル、紙幣



ニ此事實ヲ適用スルヲ得可キ乎又蘇格蘭ノ場合ノ如キモ氏ノ引證ニ適セザルナリ何トナレバ蘇格蘭ノ紙幣ハ請求ニ應シテ所持人ニ仕拂フ可キ者ニ非ズシテ請求後六ヶ月拂ノ者ナリケレハナリ蓋此蘇格蘭ノ場合ニ關シテハ後文更ニ説明スル所アル可シ左レバ以上三例中第一例ハ全ク事實ヲ誤リ他ノ二例ノ如キモ全ク氏ノ本論ノ用ニ適セザルナリ

次ニ氏ハ更ニ進シテ紙幣發行上ニ無限競争ノ行ハル、ヨリ生ズル弊害ヲ大言セリ曰經驗ノ證スル所ハ吾輩ガ理論及事實ニ徴シテ常サニ歸着ス可キ所ノ論斷ト果シテ齟齬セル乎北米合衆國ニ於テ無限競争ノ結果ハ果シテ如何ナリシ乎抑北米合衆國ニ於テハ紙幣ハ私立銀行者ノ供給セル所ニ非ズシテ外觀ニ於テ最モ満足ス可キガ如キ主義ニ從テ創立セラレタル合資銀行ノ供給セル所ナリ破産ヲ豫防スルノ用意到ラザル所ナク株

主ニ負ハシムルニ無限ノ責任ヲ以テシ計算ノ廣告及検査ニ關シ又直ニ紙幣ヲ金貨ニ兌換スルコトニ關シテ秀絶ナル規則立テリ若シ夫レ斯ノ如キ用意ヲ施ケタル無限競争ノ主義ニシテ果シテ安全ナリトセバ何故ニ此主義ハ北米合衆國ニ於テ全ク失敗セル乎如何ニシテ北米合衆國ノ經驗ハ公平ノ經驗ニ非ズト云フコトヲ得可キ乎看ニ該國ニ中央國立銀行ノ屹立スルアリテ此銀行ノ該國諸銀行ニ對スル關係ハ恰モ英蘭銀行ノ我國諸銀行ニ對スル關係ナルガ如クナリシニ當テハ不十分ナガラモ全國一般ノ紙幣ヲ管理スルコトヲ得タルニ非ズヤ然ルニ此中央國立銀行ノ特權廢止セラレ自由競争ノ主義毫モ制束ナクシテ行ハル、ニ及ンデハ陽ニ兌換ヲ唱フルニ拘ラズ紙幣ノ濫發、法外ナル投機取引接踵相到リ遂ニ之ガ正當ノ結果トシテ紙幣兌換ノ停止ヲ來タシ一敗地ニ塗レテ悉ク破産スルニ至レリ故ニ余



ハ紙幣發行上ニ無限競争ヲ行ハシムルノ不得策ニシテ危険ナルハ理論、事實、經驗ノ共ニ證スル所タルヲ論斷セント欲スルナリト

余ハ右ニ抽出セルロベルト、ピール氏ノ一文ヲ讀ミ氏が擧ゲタル事實ト氏が漏ラシタル事實ト孰レカ最モ著明ナルヤヲ言フ能ハザル者アリ蓋此一文ヲ讀ミ第一ニ吾輩ノ感ヲ惹起シタルハ無限競争ノ主義ニ從テ行ハル、合資銀行ノ例ヲ求メンガ爲メニ何故ニ遠ク大西洋ヲ渡ルヲ要セシ乎ノ一事是ナリ何故ニ近クトウイードヲ越ヘテ蘇格蘭ニ赴カザリシ乎ノ一事是ナリ夫レトウイード以北ノ地ニ於テハ無限發行ノ主義ニ從テ合資銀行ノ行ハル、七百五十年間ノ久シキニ及ビ他ノ諸銀行ヲ支配スル所ノ中央銀行アルナク自由競争ノ主義毫モ制束セラズレズンテ行ハル、ナリ然レモ氏ノ所謂ル之ガ正當ノ結果ナル紙幣兌

換ノ停止及破産ハ決シテ起ラザリシ也然ルニロベルト、ピール氏ハ此事實ニ關シテハ故ラニ避ケテ一語ヲモ云ハザリキ其然ル所以ノ者ハ他ナシ此事實ヲ擧クルハ氏が百難千苦ヲ冒カシテ敢テ斷行セント決心セル中央發行銀行ノ計畫ニ害アレバナリ

且夫レ氏が擧ケタル事實ノ如キモ吾輩ガ前段ニ抽出セシ所ト同シク大ニ歴史上ノ事實ヲ誣言セル者ナリ嗚呼何故ニ米國ノ銀行ハ最モ満足ス可キ主義ニ從テ創立セラレタリト云フ可キ乎米國銀行制度ノ母ハジョン、ローナラズヤ米國銀行制度ハロー氏ノ狂説ヲ嚴格ニ採用セル者ニ非ズヤ然レモ米國銀行制度ニ關スルロベルト、ピール氏ノ意見ノ誤レルヲハ吾輩後章ニ至ルマデハ十分ニ之ヲ論證スルヲ能ハザルナリ唯米國ノ中央國立銀行ガ他ノ諸銀行ニ對シテ適當ナル管理ヲ行ヒタルヤ否ヤニ



關シテハ大統領ヴァン、ビートルン氏ガ一千八百三十九年ヲ以テ國會ニ出シタル諭告書中ヨリ左ノ一文ヲ抄録セハ以テ其如何ヲ知ルニ足レリ曰

地方銀行ノ動作ニ對シテ管理ヲ行フ最良法ハ一ノ中央國立銀行ヲ置クニ在リト主張スル者アルハ余之ヲ知ル所ナリ然レニ其前後ノ變遷ヲ通シテ曩時ノ中央國立銀行ノ歴史ヲ見ルニ此事ノ然ラサルヲ證セリ余ハ此ノ問題ヲ僭思熟考セルニ管ヲニ此ノ事ノ然ラザル耳ナラズ苟モ銀行上ノ過舉濫行アリシニ當リ曾テ中央國立銀行ノ之ヲ率先セザルハナカリシト云フモ決シテ不可ナラザルヲ思フナリ一千八百十七年及十八年ニ於テモ一千八百二十三年ニ於テモ又一千八百三十三年及三十四年ニ於テモ中央國立銀行先ツ紙幣ヲ濫發シテ而テ後チ諸州立銀行亦之ニ倣ヘリ又中央銀行ハ一旦紙幣

ヲ濫發セルノ後ニ於テ俄然之ヲ減縮シ爲メニ大ニ慘害ヲ起セリ中央銀行ガ銀行上ノ潮勢ヲ膨脹セシメ激昂セシメタルハ則之アリ之ヲ緩和ナラシメ之ヲ利導シタルハ則稀シナリ該銀行ガ有益ナル管理ヲ行ヒタルガ如キハ甚稀レニシテ反テ當初ニハ只管利益ヲ得ント熱望シ其後他ノ銀行ニ對シテ嚴刻ナル處置ニ出ヅアルモ是レ唯自行ノ安全ヲ謀ルガ爲メニ勢ヒ茲ニ出デザルヲ得ザリシニ因ルノミ該銀行ハ主義ニ於テモ方法ニ於テモ毫モ他ノ銀行ト異ナラザリシナリ其處置ハ齊シク利益ノ精神ヨリ出デ又齊シク紙幣ヲ過發セントノ誘惑ニ支配セラレ而テ商業自然ノ原理ヲ避クル能ハズシテ爲メニ苦シミタルハ又相同シカリシナリ而テ該銀行ハ他ノ銀行ヲ監督スト唱フルト雖モ最モ脆弱ナル銀行ノ斃ルハニ當リ己レモ亦斃レントシ非常ノ盡力ニ因テ纒ニ之ヲ免



レシトハ其創立後久シカラズシテ之アリキ一千八百三十七年ニ於テハ其條例ニ因テ許シタルニケ年ノ期限尙ホ盡キザリシト雖モ他ノ銀行ト同シク其紙幣ヲ兌換スル能ハザルノ運ニ陥リ而テ其巨額ノ紙幣ハ今日ニ於テ尙ホ消却セラレズシテ存ズルナリト

中央銀行ニ關シテ米國政府ノ懷ケル意見其レ斯ノ如シ然ルニロベルト、ピール氏ガ米國信憑ノ破壊ヲ此中央銀行ノ廢止ニ歸シタルハ嗚呼亦異ナラズヤ而テ吾輩更ニ行政官ノ此證言ヨリ轉シアガラトイン氏リー氏アップントン氏等ノ如キ最モ卓絶ナル民間ノ經濟記者ノ證言ヲ見ルニ極メテ粗暴失當ナル營業法ハ該中央銀行ノ特著ナル性質タリシト知ルナリ然ラバ則此中央銀行ニ關スル事實ハロベルト、ピール氏ノ意見ヲ支ユルニ於テ天晴レ大價アリト云フ可シ

次ニロベルト、ピール氏論シテ曰吾人ヲシテ若シ新社會ニ處スルナラシメバ最良ノ策ハ約束手形發行ノ特權ヲ政府ニ掌握スルヲ猶ホ其貨幣鑄造ノ特權ヲ掌握スルガ如クナラシムルニ在リトハ或ル論者ノ主張スル所ニシテ余モ亦之ヲ拒否セザルナリ此輩ノ論者ハ政府ハ正貨ノ代表物ヨリ生ス可キ一切ノ利益ヲ自カラ收ムルノ權アリ且政府ニ於テ紙幣發行ノ特權ヲ有スルハ最モ能ク貨幣ノ安定ヲ維持スルノ管理權ヲ立ツルヲ得可シト思惟セリ云々ト吾輩ハ此文ニ於テロベルト、ピール氏ノ妄言實ニ嘲笑ス可キ者アルヲ指摘スルノ必要アル乎抑政府ガ正貨鑄造ノ特權ヲ有スト云ヒ若クハ政府ガ正貨鑄造ノ特權ヲ己レニ保存セリト云フガ如キハ不當ノ最モ甚シキ者ナリ蓋チヤーレス二世ノ時以來各人ハ幾許萬タルヲ問ハス地金銀ヲ造幣局ニ齎ラシテ之ヲ正貨ニ鑄造セシムルノ權利ヲ有スルヲ



ニシテ往時ニ在テハ金銀共ニ然リシト雖モ一千八百十六年以來ハ此特權獨リ金ノミニ限ラレタリ而テ今日ニ於テハ各人其欲スルニ從ヒ幾何ノ金ヲモ造幣局ニ齎ラシテ其鑄造ヲ請フノ權利アルナリ唯政府ガ己レニ保存スル所ハ貨幣ノ鑄造ヲ行フノ特權ニシテ是レ貨幣ノ量目性合テ保證センガ爲メナルノミ然レモ此事ハ如何ニシテ約束手形ノ發行ト類スル所アルヤ政府タル者ノ唯一ノ職掌ハ約束手形ノ發行者ハ請求ニ應シテ其仕拂ノ約束ヲ履行セサル可カラズト定ムルニ在ルノミ次ニピール氏論レテ曰政府ノ企圖スル所ハ成ル可ク一發行銀行ノ權力ヲ増加セシメ且英國銀行ヲシテ此發行銀行タラシメントスルニ在リ故ニ英國銀行ノ特權ハ之ヲ繼續セシム可シ然レモ該銀行ヲ二局部ニ隔斷シ其一ヲシテ紙幣發行ヲ司ラシメ其一ヲシテ尋常ノ銀行事務ヲ司ラシム可シ且ツ紙幣無限發行ノ權ハ

今後永遠ニ之ヲ英國銀行ヨリ剝奪シ將來ハ唯二ノ基礎即第一ニハ定額ノ證券類ト第二ニハ正金トニ根據シテノミ紙幣ヲ發行セシム可シ而テ證券類ヲ基礎トシテ發行ス可キ紙幣ノ額ハ永遠ニ之ヲ一千四百萬磅ト定メ此餘ノ紙幣ハ悉ク正金ニ代ヘテ之ヲ發行セシメ正金ヲ基礎トシテ發行ス可キ紙幣ノ増減ハ一ニ公衆ノ意如何ニ從ハシム可シト且ロベルト、ピール氏ハ發行銀行ノ一ナランヲ欲ヒシト雖モ現存セル銀行ノ利害モ亦顧ミザル可カラザルガ故ニ此時ニ在テ法律ニ從ヒ紙幣ヲ發行シ居タル諸銀行ハ依然發行銀行トシテ之ヲ繼續セシムルヲ爲セリ然レモ其紙幣發行ノ額ハ平均ヲ取リテ之ヲ定メ嚴ニ此制限ニ超ヘザラシメントセリ而テ其他合資銀行ノ細目ニ關シテ述ベシ所アリト雖モ吾輩ハ之ガ觀察ヲ後文ニ讓ル可シ

五月廿日ニ至リロベルト、ピール氏ハ更ニ一議案ヲ提出セリ曰



若シ地方發行銀行ノ破産シ若クハ自カラ好シテ其紙幣發行ヲ止ムルコアルルハ英國銀行ヲシテ國王ノ制可テ經テ斯ク引揚ケラレタル紙幣ノ幾割ニ當ル紙幣ヲ増發スルヲ得セシム可シト又曰英國銀行ヲシテ荷モ之ヲ賣ラントスル者アルニ當リ一匁ニ付三磅十七志九片ノ相場ヲ以テ地金ヲ買ハザルヲ得ザラシム可シ(當時該銀行ガ地金ヲ買フ相場ハ三磅十七志六片ナリシナリ)且其幾分ハ地銀ヲ以テ之ヲ受取ルコトヲ許ス可シ何トナレバ地銀ヲ輸出スルコトハ我國ノ本位他國ノ本位ト異ナルヨリ生スル不便ヲ救フノ適策ニシテ商人ノ需要ニ應スルニ足ル程ノ地銀ヲ我國ニ貯ヘ商人ヲシテ地銀ノ供給ヲ歐洲大陸ニ仰ガザルヲ得ザラシムルノ不便ヲ除クハ甚緊要ナレバナリト而テ氏ハ英國銀行ガ其發行紙幣ノ準備トノ貯ヘ得可キ地銀ハ其貯フル地金ノ四分ノ一ニ超ヘシム可ラズトノ説ヲ立テタリ

蓋ロベルト、ピール氏ハ一千八百十九年及一千八百三十三年ニ於テ説ヲ爲シテ曰英國銀行紙幣ノ發行ヲ一定ノ額ニ制限スルハ非ナリ何トナレバ商業上ノ困難起ルニ際シ紙幣ヲ増發スルヲ以テ適當ノ救済策ト爲スコトアル可ケレバナリト氏ハ往年斯カル説ヲ明言セル者ナリ故ニ氏ノ一千八百四十四年ノ議案ト往年ノ此説トハ全ク撞着セル者アルコトハ氏ト雖モ之ヲ悟ラザルヲ得ザル可シ抑紙幣發行ニ關シテ英國銀行ノ裁斷權ヲ束縛スルコト能ハザルハ地金報告書、一千八百十九年ノ政治家、一千八百三十三年ノ政府ノ最モ力言痛説セシ所ニシテピール氏其人モ亦此兩年ニ於テ強ク此説ヲ主張セルナリ然ルニ今ヤピール氏ハ英國銀行ヨリ全ク此裁斷權ヲ剝奪セントスル者タルコトハ氏亦自カラ之ヲ知ル故ニ氏ハ此駁論ニ應シテ辨ゼザルヲ得ザリシナリ曰



人或ハ云フ英蘭銀行ハ從來商業上ノ困難起ルニ際シ世間ノ  
 信憑ヲ維持シ商業社會ニ補助ヲ與フルノ手段ヲ有セシト雖  
 モ此手段ヲ失フニ至ル可シト然レモ先ツ第一ニハ信憑ヲ維  
 持スルノ手段ハ獨リ銀行ノミノ有スル所ニ非ズシテ苟モ不  
 川ノ資本ヲ有シ其資本ヲ貸付シテ相當ノ報酬ヲ受ケ得ル者  
 ハ銀行者タルト否トニ拘ラズ凡テ此補助ヲ與フルノ手段ヲ  
 有シ又現ニ之ヲ與フルナリ或ル人ハ此補助ヲ與フルノ手段  
 ハ獨リ銀行ノミノ有スル所ナルガ如クニ想像スルト雖モ是  
 レ然ラザルナリ又第二ニハ信憑ヲ維持スルノ手段ハ特別ノ  
 目的ノ爲メニ發行セラレタル約束手形ノ一時ノ増加ニ因ラ  
 ズシテ試意ニ出ダケル資本ノ貸付ニ因ルニ非ズンバ假令世  
 間若クハ一私人ノ信憑ヲ維持スルモ此事ニ於テ果シテ永遠  
 ノ利益アルヤ否ヤ是レ甚疑フ可キナリ或ル人ハ英蘭銀行ノ

紙幣發行額ヲ制限スルヲ余ガ主張スルガ如クセハ爲メニ金  
 融必迫商業恐慌ノ時ニ際シ該銀行ノ敢爲勇進ノ力ヲ殺ク者  
 タルヲ恐ル、ナリ然レモ此議案ノ目的ハ法律ノ力能ク及ブ  
 可キ丈ケハ一千八百二十五年、同三十六年、同三十九年ニ於テ  
 吾人が苦ミシ如キ凶害ノ再起スルヲ豫防セントスルニアリ  
 病ヲ獎勵シ而テ後ニ之ヲ救醫センガ爲メニ冒險ノ策ニ出デ  
 シヨリハ初メヨリ病ヲ豫防スルニ如カザルナリト  
 左レバロベルト、ピール氏ハ此議案ヲ以テ大困難ノ起ルヲ豫防  
 スルニ足ル可シト信シ故ラニ大困難ノ時ニ處スルノ力ヲ英蘭  
 銀行ヨリ奪ヒシ者ナリ氏ノ冀望果シテ達セシヤ否ヤ吾輩後文  
 ニ至テ之ヲ見ル可シ  
 チャーレス、ウッド氏モロベルト、ピール氏ニ續キテ同一ノ意見ヲ陳  
 示シピール氏ト同シク北米合衆國ノ銀行制度ヲ嘲笑シ又夫ノ



紙幣主義ノ名ヲ以テ知ラレタル邪説ニ感染セリ氏曰

然ラバ則英蘭銀行紙幣ハ之ヲ兌換セザル可カラズト定ムル  
モ未ダ以テ足レリトス可カラザルナリ紙幣ハ箇ニ之ヲ兌換  
セザル可カラザル耳ナラズ其數額ノ時々ノ増減ヲシテ恰モ  
金屬貨幣ノ時々ニ増減スルガ如クナラシメザル可カラズ故  
ニ能ク此目的ヲ達シ絶ヘズ此主義ニ從テ紙幣ノ數額ヲ序理  
スル如キ紙幣制度ヲ立ツルヲ必要ナリ實際上常ニ紙幣ノ兌  
換ヲ保證シ隨テ本位ヲ維持スルハ斯カル紙幣制度ニ於テノ  
ミ始メテ之ヲ能クス可キナリト

此議案ハ微弱ナル抵抗ヲ受ケシ後チ三十人ニ對シテ百八十五  
人ノ多數ヲ以テ第二次會ヲ經タリ上院ニ於テハ暫時ノ討論ノ  
後チ可否ノ起立ヲ取ルニ及バズシテ此議案通過セリ獨リラド  
ノル公ノミ之ヲ非トシテ異議録ニ署名シタリキ而テ此議案ハ

遂ニ一千八百四十四年七月十九日ニ至リ國王ノ制可ヲ得タリ

此條例(即一千八百四十四年第三十二號條例)ノ要領左ノ如シ

第一、一千八百四十四年八月卅一日後ハ英蘭銀行ノ紙幣發行  
事務ヲ尋常ノ銀行事務ト全ク區分シ英蘭銀行發行部ト稱シ  
テ委員ヲシテ之ヲ取扱ハシム可シ此委員ハ取締役會ニ於テ  
取締役中ヨリ選任スル者トス

第二、同日ニ於テ英蘭銀行ハ一千四百萬磅ノ證券類ト其銀行  
部ニ要セザル金貨、地金、地銀トテ發行部ニ渡ス可シ此證券類  
中ニテハ政府ガ英蘭銀行ニ對スル負債モ其一部ヲ成ス者ト  
ス然ルレ發行部ハ其受取リタル證券類、正貨、地金銀ト同額ノ  
紙幣ヲ銀行部ニ渡ス可シ而テ英蘭銀行ハ發行部ニ貯フル證  
券類ヲ毫モ増加スルヲ能ハズト雖モ其欲スルニ從ヒ一時之  
ヲ減少シテ再ヒ定額ニ至ルマテ之ヲ増加ズルハ可ナリ唯決



シテ此定額ヲ超ヘシム可カラズ銀行部ハ他ノ紙幣ト交換スル爲メカ若クハ此條例ニ從ヒ發行部ヨリ受取リシ者ノ外ハ決シテ何人ニ對シテモ紙幣ヲ發行ス可カラズ

第三、發行部ニ於テ紙幣發行ノ準備トシテ貯フル地銀ハ其時ニ於テ發行部ニ有スル金貨及地金ノ四分ノ一ニ超ユ可カラズ

第四、一千八百四十四年八月三十一日後ハ何人タルヲ問ハズ一匁ニ付三磅十七志九片ノ割合ヲ以テ本位地金ニ換ヘテ英國銀行紙幣ヲ要求スルノ權アル者トス

第五、一千八百四十四年五月六日ニ於テ紙幣ヲ發行シ居タル銀行者ニシテ若シ其紙幣發行ヲ止ムルコトアルキハ國王ハ斯ク流通上ヨリ引揚ケラレタル紙幣ノ三分ノ二ニ超ヘザルマデハ英國銀行ヲシテ發行部ニ貯フル證券類ヲ増加セシムル

ヲ得

第六、英國銀行ハ一定ノ書式ニ從ヒ毎週ノ勘定ヲ政府ニ報告シ且次日ノ「ロンドン、ガゼット」新聞ヲ以テ廣告ス可シ

第七、同日後英國銀行ハ其紙幣ノ印紙稅ヲ凡テ免セラル、者トス

第八、英國銀行ガ其特權ニ報ヒンガ爲メニ年々政府ヘ仕拂フ所ノ額ハ一千八百三十三年ニ於テ十二萬磅ト定メタリト雖更ニ之ヲ十八萬磅ニ増加ス可シ且此條例ニ定ムル一千四百萬磅ノ定額ヲ超ヘテ紙幣ヲ増發スルヨリ生ズル利益ハ凡テ之ヲ政府ヘ納ムル者トス

第九、此條例制定後ハ一千八百四十四年五月六日ニ於テ法律ニ從ヒ現ニ紙幣ヲ發行シ居タル銀行者ノ外ハ合衆王國ノ如何ナル地方ニ於テモ何人ト雖モ銀行紙幣ヲ發行スルヲ得ズ



第十、此條例制定後ハ如何ナル銀行者ト雖モ英蘭及威爾斯内  
 於テ請求次第所持人拂ノ爲替手形、約束手形、仕拂約束書ヲ  
 振出シ引受ケシ製造シ發行ス可カラズ又英蘭及威爾斯内ニ  
 於テ斯カル銀行者ノ請求拂ノ紙幣ヲ以テ貨幣ヲ借入募集ス  
 可カラズ但シ一千八百四十四年五月六日ニ於テ紙幣ヲ發行  
 シ居タル銀行者ハ此外ニシテ此等ノ銀行者ハ後條ニ定ムル  
 所ノ方法ト制限トニ從ヒ依然其紙幣ヲ發行スルヲ得ル者ト  
 ス又今日ニ現存セル銀行ハ其社員ノ總數六人ニ超ヘザル以  
 上ハ假令其社員ノ退社ニ變更シ増加スルアルモ其銀行ノ權  
 利ニハ關係ナキ者トス

第十一、此條例制定後ニ其紙幣發行ヲ止メタル銀行者ハ其如  
 何ナル理由ニ出ツルモ拘ラズ其發行ヲ再始スルヲ能ハズ

第十二、今日ニ現存セル各發行銀行ハ一千八百四十四年四月

廿七日前ノ十二週期間ニ在テ如何ナル名稱ヲ以テ如何ナル  
 場所及會社ニ於テ紙幣ヲ發行シ居タル乎ヲ印稅及租稅委員  
 ニ證明ス可シ然ルモ委員ハ各銀行ニ就キ其紙幣發行ノ平均  
 高ヲ確定ス可シ而テ各銀行ハ此平均高ニ至ルマデハ依然其  
 紙幣ヲ發行スルヲ得ル者トス但シ其發行紙幣四週間ノ平均  
 高ヲシテ決シテ右確定セラレタル平均高ニ超ヘシム可カラ  
 ズ

第十三、若シ二行以上ノ發行銀行ニシテ右ニ云フ十二週期間  
 ニ合併セル者アルモ其合併銀行ハ之ヲ組成セル各銀行ノ  
 總額ニ至ルマデ紙幣ヲ發行スルヲ得

第十四、右ノ委員ハ各銀行ニ許可セル紙幣發行高ヲ「ロンドン、  
 ガゼット」新聞ニ廣告ス可シ

第十五、今後若シ社員六人以下ナル二行以上ノ銀行合併スル



「アールヒ」ハ右委員ハ其合併銀行ヲシテ之ヲ組成セル各銀行ノ總額ニ至ルマデ其紙幣ヲ發行セシムルヲ得可シ然レモ此合併銀行ノ社員六人ニ超ユルモハ其紙幣發行ノ特權ハ消滅スル者トス

第十六、如何ナル銀行者タリモ許可ノ制限ヲ超ヘテ紙幣ヲ發行スルモ其超ヘシ紙幣ハ沒收セラル、者トス

第十七、各發行銀行ハ每週紙幣發行ノ計算書ヲ差出シ「ロンドン、ガゼット」新聞ニ於テ廣告ス可キ者トス

第十八、紙幣發行高ノ平均ヲ取ルノ方法ヲ定メ各銀行者ハ其目的ノ爲メニ任セラレタル政府官吏ヲシテ其帳簿ヲ検査セシメザル可カラザル「トセリ」又各銀行者ハ一月最初ノ二週期内ニ於テ毎年一度政府ヘ出定ノ報告ヲ差出サバ「ル」可カラザル「トセリ」

第十九、英國銀行ハ一千八百五十六年八月一日マデヲ期限トシ私立發行銀行ト協議シ其紙幣ヲ引揚ケシメ之ニ代ヘテ英國銀行紙幣ヲ發行セシムル「ト」得但シ之ガ爲メニ英國銀行ヨリ仕拂フ報酬ハ年一分ニ超ユ可カラズ

第二十、倫敦及倫敦六十五英里以内ノ凡テノ銀行ハ此條例制定後ト雖モ請求次第所持人拂ナラザル爲替手形ハ之ヲ振出し引受ケシ裏書スルヲ得

第二十一、英國銀行ノ特權ハ一千八百五十五年八月一日後ニ至リ十二ヶ月前ニ通知ヲ與ヘ且該銀行ニ對スル政府ノ負債ヲ償還スルマデハ繼續セラル、者トス

ロベルト、ピール氏ノ條例ノ要領實ニ斯ノ如シ是レ紙幣ニ關スル一種ノ主義ヲ實施セント企圖シテ制定セラレシ所ニシテ吾輩ハ此主義ノ如キハ紙幣ニ關シテ曾テ想像セラレ得ル最モ驚



ク可キ妄見ノ一ナリト斷言スルヲ憚ラザルナリ蓋シ一千八百四年、一千八百十一年、一千八百十九年ヲ以テ紙幣ニ關シ大ニ討論起リシニ際シテ此問題ニ最モ通曉セル諸大家ノ吐キシ意見ハ吾輩前諸章ニ於テ既ニ十分ニ開示セル所ニシテ右ノ主義ハ此等諸大家ノ意見ト全ク反對セリ然レモ就中最モ著明ナル事情ハ此條例ガ其實行セント欲スル主義ヲ反テ大ニ破リシト是ナリ何トナレバ國債證書ヲ基礎トシテ紙幣ヲ發行セシムルハ他又之ニ如ク者ナキ最惡ノ主義ナレバナリ是レ實ニシヨ、ローノ主義ニシテ吾輩ハ後章ニ至テ一層十分ニ之ヲ觀察ス可シコロテル、トルレンス氏ハ此主義ノ最モ著明ナル主張者ノ一人ニシテ其貨幣學正ノ理ニ暗キノ甚シキヤ誇カニ左ノ如キ說ヲ爲スニ至レリ曰余ガ主張セル制度ノ下ニ在テハ貨幣價值ノ變動ヨリ起ル可キ利息相場ノ高低及商業上信憑ノ浮沈ハ實際全

ク之ナキニ至ル可シト

一千八百四十四年ノ條例ノ公言セラレタル目的ハ紙幣ヲ序理スルノ力ヲ英國銀行取締役ノ手ヨリ奪フニ在リ蓋該銀行取締役ノ頑固ナル失策ノ爲メニ常ニ恐慌ノ害ヲ加ヘザルナカリシトハ各人皆然リトセル所ナリ是ニ於テ乎一千八百四十四年ノ條例ノ起草者ハ自カラ慰メテ曰苟モ五磅金貨ノ國外ニ流出スル毎トニ五磅紙幣ヲ流通上ヨリ引揚ケシメザル可カラズト而テ此冀望ノ果シテ達セラレシヤ否ヤハ吾輩後文ニ於テ之ヲ知ル可シ而テロベルト、ピール氏及此條例ノ贊成者ハ謂ラク此條例ハ一千八百十九年ノ條例ヲ完備ナラシメシ者ナリト然レモ吾輩ハ此語ノ意義何レニ在ル乎ヲ確知スル能ハザルト明言セザル可カラズ若シ夫レ此條例ハ一千八百十九年ノ條例若クハ當時ノ政治家ノ精神ニ從ヒタリト云フノ意ナランニハ吾輩



ハ此事ノ信ナルヲ全ク拒マザルヲ得ズ而テ之ヲ信ナリト想像  
 スルガ如キハ該條例起草者ノ主義ヲ全ク知ラザルヲ自證ス  
 ルニ過キザルノミ  
 然ラハ則英蘭銀行ノ紙幣發行ハ紙幣ノ問題ニ關シテ曾テ行ハ  
 レタル最モ不幸ナル二ノ主義ニ基ケル者ナリ其一ハジョン、ロー  
 ノ主義ニシテ其一ハ三十年前ヨリ世ニ流行セシ所ノ「紙幣主義」  
 ナル者是ナリ

一千八百四十二年三年四年ニ於テハ穀物ノ豐登ナリシガ爲メ  
 ニ正金速ニ英蘭銀行ニ集積セシトハ吾輩ガ前章ニ示セシガ如  
 クニシテ若シ此事ナカリセハ國民ガ食物ノ爲メニ費ヤス可カ  
 リシ巨額ノ貨幣ハ其川ヲ省カレ爲メニ之ヲ商業上ノ他ノ目的  
 ニ供シ得ルニ至レリ又之ト同時ニ我國巨額ノ資本ヨリ其尋常  
 ノ用ヲ奪ヒ之ヲ商業上ノ他ノ目的ニ供シ得セシムル事情別ニ

アルアリテ此等ノ事情ハシュームス、ウエルソン氏ノ甚明瞭ニ指摘  
 セシ所ナリ氏ハ運輸ノ便迅速トナリ且確定スルニ至リシガ爲  
 メニ其遲緩ニシテ且不確定ナリシ時ニ比スレバ手許ハ現有セ  
 ザル可カラザル貨幣ノ額ヲ大ニ減少セシト示セリ氏且E運  
 輸ノ際ニ在ル物品ハ運輸ノ便遲緩ナルキハ其迅速ナル時ニ比  
 スレバ遙ニ大ナリ例セバマンチエスターガ其製造品ヲ倫敦ニ供  
 スルニ當リ此等ノ製造品ガ運河ヲ經テ倫敦ニ達スルニハ七日  
 ヲ要ストセバ七日間消費ス可キ物品ハ常ニ運輸ノ途中ニ在ラ  
 ザル可カラザルヲ明ナリ然ルニ鐵道ヲ以テ一日ニシテ之ヲ運  
 輸スルヲ得ルトセバ唯一日間消費ス可キ物品ノミ運輸ノ途中  
 ニ在ルヲニシテ他ノ六日間消費ス可キ物品ヲ製造セシガ爲メ  
 ニ川ヒラレタル資本ハ其用ヲ省カレ商業上ノ他ノ事業ヲ起サ  
 シガ爲メニ之ヲ川フルヲ得可シ夫ノ鐵道又ハ蒸氣船ノ手段ニ



因リ一層迅速ナル運輸ノ便開ケシヨリ同一ノ取引ヲ行フニ要スル資本ノ減少セシメ極メテ大ニシ吾人若シ之ヲ考フルルハ一國財源ノ爲メニ發達セシメ如何ニ大ナルヤヲ悟ルヲ得可シ左レバ鐵道擴張ノ爲メニ省クヲ得タル資本ノ額ハ失敗セル鐵道企業ノ爲メニ損セシ所ヨリモ遙ニ大ナルハ決シテ疑フ可カラザルナリト而テ今ヤ此等ノ事情ハ將サニ十分ニ其結果ヲ生ゼントシ一千八百四十二年三年四年ノ豐作ト相合シテ一國資本ノ用ヲ省キ他ノ目的ニ供シ得可キ資本ヲ増加セシメシテ實ニ未曾有ノ額ニ達セリ

是等ノ事情ハ深く注意セザル可カラザル所ナリ蓋數多ノ記者ハ物品直段ハ貨幣數額ノ一増一減ニ應シテ高低セザル可カラズト思惟スルト雖モ是レ甚シキ謬見ニシテ物品直段ノ高低ト貨幣數額ノ増減トノ間ニハ必スシモ一定ノ關係アルニ非ズ而

テ右記者ノ説ノ誤レルヲハ謹テ舉クルヲ要セズシテ明ナラント雖モ若シ之ヲ舉クルヲ要ストセハ以上ノ事情ハ則之ヲ證スル者ナリ何トナレハ取引ヲ行フ方法ノ如何ハ其取引ニ要スル貨幣ノ額ニ至大ノ影響ヲ與フル者ニシテ其方法ノ拙ナルト巧ナルトハ毫モ商品ノ直段ニ變動ヲ起スヲナクシテ尙ホ一定ノ商品ヲ流通セシムルニ必要ナル貨幣ノ數額ニ至大ノ増減ヲ生ス可ケレバナリ

一千八百四十四年ノ條例ハ紙幣發行ニ關スル英蘭銀行ノ裁斷權ニ對シテ動カス可カラザル制限ヲ置キシヲ以テ銀行事務ハ決シテ自由ナルニ失シ濫恣ナルニ過クルヲアル可カラズトハロベルト、ピール氏ノ思惟セシ所ナリキ然ルニ吾輩ガ前段ニ記セシ事情ノ爲メニ資本非常ニ蓄積セラレケレバ最良ノ手形ニ對スル市場ノ割引歩合ヲ一分<sup>3</sup>/<sub>100</sub>乃至二分半ニ低落セシメタリ



而テ英國銀行ハ條例制定後直ニ市場ノ相場ニ從ヒ最良ノ手形ニ對スル割引歩合ヲ四分ヨリ二分半ニ引下ケタリ加之條例實施ノ初日ニ於テハ一切ノ割引ハ一分<sup>3</sup>/<sub>4</sub>ノ歩合ヲ以テシ爾後二週期間ハ此歩合ニテ續キシガ其レヨリ或ハ之ヲ二分ニ引上ケ而テ十月廿六日ニ至ル迄ハ大抵ノ割引ハ二<sup>1</sup>/<sub>4</sub>ノ歩合ヲ以テシタリ然レモ此時ヨリ一千八百四十五年十月マデハ其歩合ヲ二分半ニ引上ケ同年十一月ニ至リ俄ニ之ヲ三分半ニ引上ゲ一千八百四十六年八月マデハ此歩合ニテ續キシガ此時ニ至テ再ヒ之ヲ三分ニ引下ケタリ割引歩合ノ此高低ハ正金在高ノ増減ニ準セシ者ニシテ其在高ハ一千八百四十四年ノ條例ノ制定セラレシ時ニハ一千五百五十萬磅ナリシニ四十五年十一月ニハ一千三百五十萬磅ニ減少シ其レヨリ再ヒ増加シテ四十六年八月ニハ一千六百萬磅以上ニ達セシモ爾後又其勢ヲ反シ遂ニ一千八

百四十七年十月ノ大恐慌ニ際シテ最低點ニ下リシマデ漸チ以テ益減少セリ  
 一千八百四十五年愛爾蘭ニ於テ馬鈴薯ノ凶歉ナリシ<sup>1</sup>及該年世人ガ鐵道企業ニ狂騷セシ<sup>1</sup>ハ今日大抵ノ人ノ尙ホ記憶スル所タルバ茲ニ贅スルヲ須ヒザルナリ而テ英國銀行ノ唯一ノ職掌ハ己レノ安危如何ニ注意シテ其安全ヲ維持スルニ在ル者ニシテ以上ノ事件ハ該銀行ノ管理法ニ何等ノ影響ヲモ及ボス可カラザリシ筈ナリ然ルニ一千八百四十六年ノ災害ハ前年ヨリモ更ニ甚クシクシテ且一層廣キニ及ビタリケレバ外國ヨリ穀物ヲ輸入セザルヲ得ズシテ隨テ其代價トシテ巨額ノ正金ヲ輸出セザルヲ得ザル<sup>1</sup>明瞭ナリキ是ニ於テ乎同年九月中旬ヨリ正金絶ヘズ次第ニ流出セシト雖モ一千八百四十七年一月十六日ニ至ルマデハ英國銀行ハ毫モ割引歩合ヲ變更セザリキ然レモ



此時ニ至リ正金在高一千三百九十四萬九千磅ニ減少シタリケ  
 レバ該銀行ハ其割引歩合ヲ三分半ニ引上ケ二十三日ニ至リ正  
 金在高更ニ五十萬磅ヲ減少シタリケレバ再ヒ割引歩合ヲ四分  
 ニ引上ケタリ爾後正金ノ流出愈其速力ヲ加ヘタルニ拘ラス英  
 蘭銀行ハ四月十日迄ハ其割引歩合ヲ變更セザリシト雖モ此時  
 正金在高九百八十六萬七千磅ニ減少シタルヲ以テ割引歩合ヲ  
 五分ニ引上ケタリ左レバ吾輩ハ英蘭銀行ガ往時幾回トナク行  
 ヒタリシ失策ヲ茲ニ再ヒ行ヒシコト見ルナリ即正金大ニ流出  
 スルニ當リ毫モ本國ニ於ケル貨幣ノ價值ヲ騰貴セシメント謀  
 ルコトナク偶々之ヲ謀ルモ其處置タルヤ微弱緩漫ニシテ無効タ  
 リシナリ然レモ此時ノ該銀行ノ舉動ハ夫ノ一千八百四十四年  
 ノ條例ノ自動作用如何ナリシ乎ヲ證明スル的例ナリトス蓋該  
 銀行ノ銀行上ノ資本ハ證券類ヲ準備トセル一千四百萬磅ノ紙

幣ト發行部ニ預レル正金ヲ代表スル所ノ紙幣トニ限ル者タル  
 コト一言セバ足ルノミ故ニ其準備セル紙幣額ハ世上ニ流通セ  
 ル紙幣額即公眾ノ有スル紙幣額ト一千四百萬磅及正金在高ト  
 ノ差ニ常ニ一様ナラザル可カラザルナリ而テ吾輩ガ既ニ論セ  
 シ如ク一千八百四十四年ノ條例起草者ノ計畫ハ夫ノ「紙幣主義」  
 ニ從ヒ正金在高ノ減少スル毎トニ公眾ノ有スル紙幣ヲ減少セシ  
 メントスルニ在ルナリ然ラバ則吾輩ヲシテ第一ニ英蘭銀行ガ  
 此主義ニ從ハント欲ヒシ乎又第二ニ該銀行ガ之ヲ欲セザリシ  
 ト假定スルモハ條例ノ自動作用ニ因テ如何ニ此主義ニ從ハザ  
 ルヲ得ザラシムルノ効アリシ乎ヲ觀察セシメヨ又他語ヲ贅セ  
 ザルモ左ノ一表明ニ之ヲ示スヘキナリ



一八四六年	銀行紙幣		正金在高總計	最低割引歩合
	世上流通高	銀行準備高		
八月廿九日	二〇、四三六、〇〇〇	九、四五〇、〇〇〇	一六、三六六、〇〇〇	三
十月三日	二〇、五五一、〇〇〇	八、八〇九、〇〇〇	一五、八一七、〇〇〇	三
十一月七日	二〇、九七一、〇〇〇	七、二六五、〇〇〇	一四、七〇六、〇〇〇	三
十二月十九日	一九、五四九、〇〇〇	八、八六四、〇〇〇	一五、一六三、〇〇〇	三
一八四七年				
一月九日	二〇、八三七、〇〇〇	六、七一五、〇〇〇	一四、三〇八、〇〇〇	三
同 十六日	二〇、六七九、〇〇〇	六、五四六、〇〇〇	一五、五四九、〇〇〇	三
同 三十日	二〇、四六九、〇〇〇	五、七〇四、〇〇〇	一四、九〇二、〇〇〇	四
二月二十日	一九、四八二、〇〇〇	五、九一七、〇〇〇	一四、二二五、〇〇〇	同
三月六日	一九、二七九、〇〇〇	五、七二五、〇〇〇	一四、五九六、〇〇〇	同
同 二十日	一九、〇六九、〇〇〇	五、四二九、〇〇〇	一三、三三〇、〇〇〇	同
四月三日	一九、八五五、〇〇〇	三、七〇〇、〇〇〇	一〇、一四六、〇〇〇	同
同 十日	二〇、二四三、〇〇〇	二、五五八、〇〇〇	九、八六七、〇〇〇	五

右ノ一表ヲ見ルルハ夫ノ條例ノ自動作用ニ因テ正金在高ノ減少スル毎トニ公衆ノ有スル紙幣ヲ減少セシムルノ効アリトノ

思想ハ全ク失敗セルヲ知ル可シ何トナレバ正金在高九百八十六萬七千磅ナリシ時ノ紙幣流通高ハ正金在高一千六百三十六萬六千磅ナリシ時ノ紙幣流通高ニ比シテ殆ト毫モ減少セザリケレバナリ故ニ一千八百四十四年ノ條例ハ其効驗ヲ現サンコト要セシ第一回ノ時機ニ於テ全ク失敗シ一効驗ダニ現サバリシナリ

エス、ジョー、ロイド氏ガ一千八百三十二年ノ英蘭銀行取締役ノ規則全ク失敗セルヲ論セシコトハ吾輩ガ前章ニ於テ示セシ所ナルガ今吾輩ハ讀者ヲシテ此事ニ回想セシメント欲スルナリ氏曰此規則ノ下ニ在テハ毫モ紙幣流通高ヲ減少スルコトナクシテ英蘭銀行ノ正金在高悉ク盡クルコトアラント而テ一千八百四十四年ノ條例ハ特ニ此缺點ヲ補フ者ト想像セラレシナリ實ニ該條例起草者ノ全心ノ主義ハ苟モ五磅金貨ノ國外ニ流出スルアル



毎トニ必ス五磅紙幣ヲ流通上ヨリ退カシメザル可カラズ而テ  
 萬一英蘭銀行取締役ガ自カラ之ヲ爲サバハ條例ノ自動作  
 用ニ因テ之ヲ爲サバハ得ザラシム可シト云フノ一點ニアリ  
 シナリ然ルニ實際ノ結果ハ果シテ如何ナリシ乎英蘭銀行ハ其  
 正金七百萬磅ヲ失ヒタルニ拘ラズ紙幣流通高ハ僅ニ二十萬磅  
 ナ減少セシニ過ギズシテ其他ハ悉ク自行ニ準備セル紙幣ヲ減  
 少セルノミ故ニ此銀行條例ハ一千八百三十二年ノ英蘭銀行取  
 締役ノ規則ト毫モ異ナラザルノ缺點アルナリ噫  
 前出納局長エフ、トイ、ベ、リン、グ氏ハ此條例ガ種々ノ點ニ於テ  
 能ク其功ヲ奏セシヲ主張セル人ナリト雖モ尙ホ右ノ一點ニ  
 關シテハ全ク失敗セルヲ許セリ氏曰余ハ一千八百四十六年  
 九月十二日ノ英蘭銀行正金在高ハ一千六百三十五萬四千磅ナ  
 リシニ一千八百四十七年四月十七日ニハ九百三十三萬磅ニ減

少シ即七百零二萬四千磅ヲ減少セシヲ知レリ然ルニ同時日  
 ニ於ケル紙幣流通高ヲ查察セルニ一千八百四十六年九月十二  
 日ニハ二千零九十八萬二千磅ナリシニ一千八百四十七年四月  
 十七日ニハ二千一百廿二萬八千磅トナリ反テ二十四萬六千磅  
 ナ増加セシヲ知レリ(中略)余ハ此條例ノ作用ノ下ニ在テハ又  
 斯ノ如キ計數ヲ現ハスヲアリ得可シト思惟セザリシヲ明言  
 セザル可カラズ(中略)余ハ信ズ吾人若シ條例編制ノ當時ニ溯リ  
 テ之ヲ考フルキハ此條例ヲ主張セシ者モ又之ニ反對セシ者モ  
 共ニ預金ノ作用及準備ノ問題ヲ十分ニ考察セザリシヲ發見  
 センヲ余ハ一千八百四十年ノ委員ガ蒐集セル證報ヲ閱讀ス  
 ルニ當時ノ人ガ斯カル原因ヨリ起ル危險ニ顧慮説及セシヲ  
 思ハシムル文字ハ殆ト毫モ之ヲ見ザルナリ然レモ是レ實ニ最  
 モ緊要ナル點ナリ何トナレバ英蘭銀行ガ全ク條例ノ精神ニ背



戻金ノ流出スルニ當リ一磅タリ其紙幣流通高チ減少セザルヲ得シ者ハ準備ノ手段ニ因テ然リシナレバナリ左レバ余ハ此制度ガ此點ニ於テ満足ス可キ結果ヲ呈シ得可シト信ゼザルナリ實ニ此點ハ決シテ十分ナル考察ヲ受ケザリシナリ憶フニ條例ノ實施前ニ在テ準備ノ紙幣ガ如何ナル作用ヲ爲ス可キ乎ヲ知ルハ難カリシナラシ然レモ要スルニ七百萬磅ノ正金流出セルニ當リ公衆ノ手ニ在ル紙幣ハ減少セシテ寧ロ増加ス可シト云フガ如キハ當時此問題ヲ考察セル者ノ一人トシテ豫想セザリシ所タルヤ必セリト

一千八百四十四年ノ新制度ノ下ニ在テ銀行部ニ準備スル紙幣ノ數額ハ英國銀行ノ二部ニ區分セラレザル前ニ於テ其有セシ正金ノ數額ト殆ト相同シキ者ナリ故ニ世人該銀行ノ銀行上ノ資本二百五十五萬八千磅ニ減少セルヲ知ルニ及ンデヤ世人及

取締役共ニ愕然スルニ至レリ是ニ於テ乎取締役ハ紙幣ノ需要ヲ制遏センガ爲メニ未曾有ノ嚴ナル處置ニ出デタリ即割引歩合ヲ五分ニ引上ゲシ耳ナラズ此五分ノ歩合ハ唯數日期ノ手形ニノミ適川スル者ト爲シ且如何ニ確實ナル手形タルヲ問ハズ手形割引ノ額ニ制限ヲ立テ、決シテ之ニ超ヘシメザルト爲セリ又資金ノ貸付ヲ得タリシ商人ハ之ヲ切替ニルヲ許サレズシテ嚴ニ其返濟ヲ促サレタリ而テ數日間ハ毫モ手形ノ割引ヲ得ルヲ能ハザリキ左レバ此等ノ處置ハ正金ノ流出ヲ止ムルノ効アリテ現ニ米國ニ向テ船積ミセル十萬磅ノ金貨ヲ積戻スニ至レリ又此際ニ在テハ最良ノ手形ニ對スル割引歩合ヲモ九分、一割、一割二分ニマデ引上ゲタリ而テ此時小麥ノ直段ハ金融ノ必迫此ノ如クナリシニ拘ラズ常ニ益騰貴シ五月ノ末ニハウイングール市場ノ直段ハ百三十一志ノ高點ニ達セシヲアリキ



又外國爲替相場ハ一千八百四十六年ノ後季ヨリ四十七年ノ初メニ巨リテハ巨額ノ外國穀物ヲ輸入セシガ爲メニ我國ニ不利ナリシト雖モ四月中旬ヨリ及ンテハ一部ハ金融ノ大必迫ニ原因シテ我國ニ利ナルニ至レリ

此金融必迫ハ約ソ三週期間ニ續キ五月第一週期後ニ至テ經過シ去レリ左レバ四月廿四日後ハ正金流入シ遂ニ六月ノ末ニ至テハ通流紙幣一千八百零五萬一千磅、準備紙幣五百六十二萬五千磅ニ對シ正金在高一千零五十二萬六千磅トナレリ

英國銀行ガ正金速ニ流出シ外國爲替不利トナリシニ拘ラズ依然其割引歩合ヲ低廉ニ維持シタルノ處置ハ曾テ履行ヒタルト同一ノ失策ニシテ之ガ爲メニ倫敦全商業社會ノ人々ハ大ニ該銀行ノ此處置ヲ批評咎責スルニ至レリ市場ノ歩合ハ該銀行ノ歩合ヨリモ遙ニ高カリケレバ世人割引ヲ請求センガ爲メニ該

銀行ニ向テ突進レ而テ其割引ヲ許スヤ否ヤ正金忽チニ引出サレシナリ

五月廿七日ヲ以テ出納局長ハ金融必迫ノ問題ヲ議院ニ提出シ一千八百四十四年ノ條例ヲ停止スルコトニ關シテ數多ノ請願ヲ受ケタリト雖モ政府ハ其請願ヲ採用スルノ意ニ非ザル旨ヲ述ベタリ然レモ政府ガ季末ニ際シテ尋常ノ如クニ英國銀行ヨリ辨金ヲ受クルコトヲ止メ以テ該銀行ヲ補助セント欲スル旨ヲ述ベタリ是ヲ以テ出納局長ハ此目的ノ爲メニ出納局證券ノ利息ヲ日歩三片ニ引上ゲントセリ蓋當時該證券ノ利息ハ政府ノ他ノ負債券ニ比スレバ大ニ低廉ナリシ也而テ出納局長ハ十日ヲ以テ一決議案ヲ提出シ曰八百萬磅ノ愛蘭國債ノ應募者中六月十八日前ニ其釀金ヲ拂込ミタル者ハ五分ノ割引ヲ許シ九月十日前ニ之ヲ拂込ミタル者ハ四分ノ割引ヲ許ス可シト



穀物ノ直段驚ク可ク騰貴シ一千八百十二年以來其前例ナキ程ニ及ビケレバ數多ノ商家ガ穀物ノ輸入ニ關シ遙ニ其資力ニ越ヘタル投機取引ニ從事スルニ至レルハ勢ヒ免レザルノ結果ト云フ可シ然ルニ五、六、七ノ三ヶ月間ニ於テ巨額ノ穀物ヲ輸入シタルト加フルニ收穫甚豊稔ナルノ兆ヲ呈シタルトノ爲メニ穀物ノ直段絶ヘズ甚シク下落シ且馬鈴薯亦豊作ノ報アリケレバ九月ニ至リ小麥ノ直段ハ四十九志六片ニ下落セリ左レバ小麥ノ直段斯ク大ニ下落シタルヲ以テ穀物ノ投機取引ニ從事シタリシ商家ハ相率井テ破産セザルヲ得ザルニ至リ且投機取引熾ナルノ時ニ當テハ常ニ榮ヘテ其害ヲ逞フスル所ノ夫ノ毒物即融通手形大ニ行ハレタリ抑穀物取引ノ失敗ハ八月ニ始マリ之ガ爲メニ穀物商業上ノ信憑ヲ破リ施テ他ノ商業ニ及ボセリ左レバ八月七日ニ至リ割引ノ最低歩合ヲ五分半ニ引上ゲタリ

ト雖モ是レハ短期ノ手形ニ對シテノミ然リシコトニシテ大抵ノ手形ハ一層高キ歩合ヲ以テ割引シ其歩合七分ニマデ至レリ而テ此有様ハ十月九日マデ續キタリ  
 八月九日ニ至リ畏ル可キ破産ノ第一ノ者起レリ即「レスリー、アレキサンダー」會社五十萬磅ノ負債ヲ以テ仕拂ヲ停止セリ而テ水曜日即十一日ニ至リ「コヴェントリー、シエフバード」會社ハ二十萬磅ノ負債ヲ以テ「キング、メルヴィル」會社ハ又二十萬磅ノ負債ヲ以テ各々破産シ其他小會社ヲモ算入シ此第一週期間ニ破産セル諸會社ノ負債ハ合計百廿萬磅ニ達セリ又次ノ週期ニハ「ギレス」會社十萬磅ノ負債ヲ以テ斃レシ此第二週間ニ斃レシ諸會社ノ負債ハ合計卅萬磅ニ達セリ又第三週期間ニ於テハ「ロビンソン」會社十一萬磅ノ負債ヲ以テ斃レ而テ該會社ノ主タル社員ハ實ニ英國銀行ノ頭取タリシナリ而テ此三週期間ニ於テ破産セル會



社ノ負債合計ハ三百零二萬七千磅ニシテ爾來數週期間愈甚  
 シキヲ加ヘ遂ニ其合計一千五百萬磅ノ上ニ出ツルニ至レリ又  
 九月中旬ニ至リ有名ナル手形仲買者ナル「サウンデルソン」會社  
 ハ穀物商業ニ從事セル諸大商家ト大ニ取引セルガ爲メニ遂ニ  
 仕拂ヲ停止スルニ至レリ而テ外國爲替相場ハ四月ニ於テハ金  
 融必迫ノ爲メニ平均點ニ復セシニ爾來恐慌ノ勢ヒ益劇烈ナル  
 ヲ加ヘシガ爲メニ遂ニ大ニ我國ニ利アルニ至リ九月廿五日ニ  
 及ビテハ正金漸ク流入スルコトナレリ要スルニ九月全月中ハ  
 商業上大災害ノ黒雲益凝集シツ、アリキ

「レイド、イルゲンク」會社ノ如クマウリトアストノ取引ニ關係ア  
 ル諸會社ハ專ラ其資本ヲ甘蔗ノ耕作ニ停滯セシメシヲ以テ殆  
 ト悉ク斃レ隨テ印度貿易ニ從事セル者大ニ破産スルニ至レリ  
 蓋通常印度貿易ノ爲メニ許サレタル信憑ハ非常ニ大ニシテ過

度ニ之ヲ擴張スルノ便ヲ與ヘタレバナリ又一千八百四十五年  
 及六年ノ國會間期中ニ認可セラレタル鐵道事業ハ今ヤ十分ニ  
 着手セラレテ大ニ現金ノ需要ヲ起セリ左レパランドス、エンド  
 地方ヨリワロン、タググロイツ地方ニ至ルマテ全王國ノ商人ハ深ク  
 鐵道事業ニ關係セザル者ハアラザリキ抑大抵ノ商人ハ一千八  
 百四十五年及六年ノ繁榮ニ醉狂シ自カラ其資力ニ越ヘタル生  
 計ヲ營ミシ耳ナラズ又尋常境界ノ外ニ出デ、得意者ニ過大ノ  
 信ヲ置クニ至レリ余輩之ヲ聞ク一千八百四十五年ニ賣リシ物  
 品ニ對シテ振出サレタル手形ノ四十七年ニ至テ尙ホ仕拂ハレ  
 ザリシ者極メテ多カリシト左レバ各階級ノ商人間ニ於テ各種  
 各樣ノ信憑ノ危キ有様ナリシコト此ノ如キハ蓋其前例ナキ所ニ  
 シテ社會人民ノ大多數ハ到底履行シ得ルノ目的ナキ巨額ノ負  
 債ヲ擔フニ至リシコト疑フ可カラザルナリ故テ以テ之ガ救治策



ハ假令銳且嚴ナリント雖此危キ商業上ノ構造ヲ一掃シ商業ヲ  
 シテ改良セル鞏固ナル基礎ヲ得セシメンガ爲メニハ此救治策  
 ハ施シ得可キ最良ノ策タリシコト又疑フ可カラザルナリ而テ金  
 融必迫ノ極點ニ達セントシタルハ九月二十三日頃ニ在リト思  
 惟シテ可ナルベク此時英國銀行ハ其資金ニ對スル需要ヲ制遏  
 センガ爲メニ一層嚴ナル處置ニ出テタリ蓋六月二十六日後ハ  
 常ニ正金在高速ニ減少シ十月二日ニ至テハ流通紙幣一千八百  
 七十一萬二千磅、準備紙幣三百四十零萬九千磅ニ對シ正金在高  
 八百五十六萬五千磅トナレリ斯ノ如ク其正金速ニ減少シテ止  
 マザリケレバ遂ニ取締役ヲシテ己レノ安全ヲ謀ラザル可カラ  
 ザルノ時來レルヲ悟ラシメタリ是ヲ以テ十月二日取締役ハ揭  
 示シテ曰十月十五日前ニ其期限達スル手形ノ最低割引歩合ハ  
 五分半ナリト且國債證書若クハ出納局證券ニ對シテ資金ヲ出

タスコトハ全ク之ヲ拒メリ而テ國債證書等ヲ取ルコト拒ミタル  
 此揭示ハ株式取引所ニ於テ大ニ激騷ヲ生シ市邑及地方ノ銀行  
 者ハ貨幣ニ代ヘンガ爲メニ競テ國債證書ヲ賣リケリ今國債證  
 書即刻拂ノ直段ト十月十四日拂ノ直段トノ差ヲ見ルニ當時ノ  
 利息相場ハ年五割ニ當リシコト示セリ左レバ出納局證券ハ三  
 十五志ノ割引ヲ生シ事態益急テ告ケ遂ニ十月十六日ニ至リテ  
 英國銀行ハ其割引歩合ヲ五分半ヨリ九分ニマデ引上ゲタリ此  
 時正金在高ハ八百四十三萬一千磅ニシテ流通紙幣ハ一千九百  
 三十五萬九千磅、準備紙幣ハ二百六十三萬磅ナリキ而テ月曜日  
 即十八日ヨリ土曜日即廿三日ニ至ルマデノ次ノ一週期間ハ實  
 ニ大恐慌ノ時ナリキ其月曜日ニ至リ八十萬磅ノ拂込資本ヲ有  
 セルリヴァプールノ「ローヤル、バンク」銀行ハ其仕拂ヲ停止シ爲  
 メニ其株券二分ヲ下落セシメタリ而テ之ニ續キ又リヴァプー



ルナル「ノルス、エント、サウス、ウエールス、バンク」銀行「リウアップール、バ  
 ンキング、コムパニー」銀行及「ニューケッスル」銀行「ユエチン、バンク」銀行  
 等前後其仕拂ヲ停止シ隨テ該地方ノ他ノ銀行ニ向テ紙幣兌換  
 ノ逼求起リ又マンチエスター及ウエスト、サフ、イングランドニ於テ  
 モ他ノ銀行斃レタリ然ルニ英國銀行ノ資金將サニ竭キントス  
 ルノ有様ナルコトハ全商業社會ノ凡テ知レル所ナルヲ以テ世上  
 一般ノ大恐慌是ニ於テ乎激發シ一人ニシテ割引ヲ爲ス者ノ  
 如キハ地ヲ拂テ絶ヘ又其有セル貨幣若クハ紙幣ヲ手離スコトヲ  
 肯ニスル者ハ一人トシテ之アルナク商人ハ驚ク可キ巨額ノ手  
 形ヲ出シテ其引受ケヲ求ムルモ悉ク拒絕セラレタリ  
 恐慌底止スル所ナクシテ益甚シキヲ加ヘケレバ條例ノ制限ヲ  
 緩弛センコトヲ政府ニ請求スル者接踵相續キ遂ニ土曜日即十月  
 廿三日ニ至リ宰相ハ條例ニ定メタル制限ヲ超ヘテ紙幣ヲ發行

スルコトヲ英國銀行ニ許可スベキニ決心シ其旨ヲ該銀行ニ通知  
 シケルニ該銀行ハ忽チニ此許可ニ乘シ九分ノ歩合ヲ以テ寛大  
 ニ手形ヲ割引セリ但シ此許可ノ通知書ハ月曜日即廿五日ニ至  
 テ始メテ之ヲ公達セシ者ニ其通知書中云フアリ曰政府ハ過  
 ル數週期間ニ行ハレタル金融必迫ハ會テ四月ニ起リタル金融  
 必迫ト同シク自然原因ノ作用ニ因リ速ニ經過シ去ランコトヲ豫  
 期セリ然ルニ此豫期全ク顛顛セルヲ以テ政府ガ一時ノ權道ヲ  
 施シ商業社會ノ信憑ヲ復センコトニ盡力セザル可カラザルノ機  
 來タレルヲ決心セリ曰此目的ヲ以テ政府ハ今日ノ危急ニ際シ  
 確實ナル手形ニ對シテ其割引及貸付ヲ擴張センコトヲ英國銀行  
 取締役ニ勸告ス然レモ之ヲシテ適當ナル區域内ニ止ラシメン  
 ガ爲メニ高キ利息ヲ課センコトヲ望ム者ニシテ政府ハ今日ノ事  
 情ニ在テハ其割引ノ歩合八分以下ナル可カラズト思惟ス曰右



等ノ處置ニシテ若シ法律ヲ犯ス者タルバ政府ハ議院ノ會開スルヲ俟テア爲メニ消罪議案ヲ提出セントスルノ覺悟ナリト此通知書ハ月曜日即二十五日ノ一時頃ニ公達セラレシ者ニ其公達セラレ、ヤ否ヤ恐慌ハ夢ノ如クニ忽チニ消滅セリガルニ  
 氏ノ説ニ據レバ此通知書ハ僅ニ十分間ニシテ其功ヲ奏シタリト云ヘリ紙幣ノ給供ヲ受ケ得ルヲ知ラル、ヤ其需要忽チニ止ミタリ故ニ實際條例ヲ犯スガ如キヲアラスシテ此通知書ニ從テ發行セル紙幣ハ總額僅ニ四十萬磅ニ過キザリキ嗚呼大英全國ノ信憑悉ク破壊セラレントスルノ急ニ迫マリ僅ニ四十萬磅ノ紙幣ヲ發行セルガ爲メニ未ダ一時間ナラスシテ之ヲ救フヲ得タルナリ

此時ニ於テ世間信憑ノ極メテ難澁ナル有様ナリシハ英蘭銀行ガ九月十五日ヨリ十一月十五日ニ至ルマデニ諸會社ニ與ヘ

タル補助ヲ見ルキハ蓋思ヒ半ニ過クル者アラシク即左ノ如シ

第一、該銀行ハ英國銅鐵會社ノ負債券ヲ抵當トシテ倫敦ノ一大商社ニ十五萬磅ヲ貸付セリ此商社ハ數百萬磅ノ負債ヲ有シタリト雖モ該銀行ノ補助ヲ得タルガ爲メニ仕拂停止ヲ免ル、ヲ得タリ

第二、該銀行ハ不動産ヲ抵當トシテ地方ノ一銀行者ニ五萬磅ヲ貸付セリ

第三、該銀行ハ英國銅鐵會社ニ十二萬磅ヲ貸付シ之ガ爲メニ該會社ハ仕拂停止ヲ免ル、ヲ得タリ

第四、該銀行ハリヴァールノ「ローヤル、バンク」銀行ニ對シ尋常ノ割引ノ外ニ爲替手形ヲ抵當トシテ三十萬磅ヲ貸付セリ然レモ是ニテモ尙ホ足ラズ且此外ニ出ダス可キノ抵當ナカリシヲ以テ「ローヤル、バンク」銀行ハ遂ニ仕拂ヲ停止セリ



第五、該銀行ハ地方ノ他ノ合資銀行ニ十萬磅ヲ貸付セリ  
 第六、該銀行ハ不動産ヲ抵當トシテ倫敦ノ一大商家ニ十三萬磅ヲ貸付セリ  
 第七、該銀行ハ確實ナル人ノ保証ヲ以テ他ノ一商家ニ五萬磅ヲ貸付セリ  
 第八、該銀行ハ爲替手形ヲ抵當トシテ一ノ合資發行銀行ニ五萬磅ヲ貸付シタリシニ此銀行ハ其後速ニ仕拂ヲ停止セリ  
 第九、該銀行ハ不動産ヲ抵當トシテ他ノ倫敦ノ商家ニ一萬五千磅ヲ貸付セリ  
 第十、該銀行ハリヴーブルノ一大會社ノ引受ケタル手形十萬磅ヲ有シ其期限達セシト雖モ之ガ取付ケヲ猶豫シ以テ該會社ノ破産ヲ救ヘリ  
 第十一、該銀行ハ尋常ノ割引ノ外ニ八十萬磅ヲ貸付シ地方ノ

他ノ一大合資銀行ヲ幫助セリ  
 第十二、該銀行ハ不動産ヲ抵當トシテ一ノ地方銀行者ニ十萬磅ヲ貸付セリ  
 第十三、該銀行ハ蘇格蘭ノ一銀行ニ地方宛ノ手形ヲ抵當トシテ二十萬磅、倫敦宛ノ手形ヲ抵當トシテ六萬磅ヲ貸付セリ  
 第十四、該銀行ハ地方宛倫敦宛ノ手形合セテ十萬磅ヲ割引シ蘇格蘭ノ他ノ一銀行ヲ幫助セリ  
 第十五、該銀行ハ確實ナル人ヲ保證トシテ倫敦ノ一大商家ニ十萬磅ヲ貸付セリ  
 第十六、該銀行ハ確實ナル人ヲ保證トシテマンチエスリーノ一大商家ニ四萬磅ヲ貸付シ其仕拂ヲ再始スルヲ得セシメタリ  
 第十七、該銀行ハ不動産ヲ抵當トシテ地方ノ一銀行ニ三萬磅ヲ貸付セリ



第十八、該銀行ハ此外ニ尋常決シテ取ラザル如キ抵當ヲ取テ市邑及地方ノ數多ノ商家ニ小額ノ貸付ヲ爲シ又倫敦ニ於テハ不確實ナリトノ理由ヲ以テスルノ外ハ割引ヲ請ヘル手形ハ一モ之ヲ拒マザリキ

以上列舉セル補助ノ大半ハ十月二十三日前ニ之ヲ與ヘシ者ナリキ

一千八百四十七年秋季ニ於テ國會議員ノ總選舉アリキ而テ宰相ハ英國銀行ヲシテ一千八百四十四年ノ條例ニ背戻セシメタル責任ヲ己レニ負擔セルヲ以テ時機ヲ失ハズ直ニ新議院ヲ召集セリ此新議員ハ十一月十八日ヲ以テ會合シ議員ノ誓詞ヲ取ル等ノ例式ニ於テ數日ヲ費ヤシ廿三日ヲ以テ女王ヨリ開會ノ勅諭アリケリ其勅諭ノ第一節ニ議院ヲ召集セル理由トシテ商業ノ擾擾極メテ驚ク可キ者アリシヲ以テ女王ガ宰相ヲシテ法律

ニ背戻セル處置ニ出テテ英國銀行ニ勸告セシメシ旨ヲ記セリ而テ之ヲ必要トスルニ及ビ法律ヲ犯シ得ルノ權ヲ該銀行ニ與ヘシガ爲メニ幸ニ恐慌ヲ鎮制シ得タル旨ヲ記セリ

十一月三十日出納局長ハ過般ノ商業上大恐慌ノ原因ヲ調査セシメ且一千八百四十四年ノ條例ハ此大恐慌ニ如何程ノ關係ヲ有セシ乎ヲ調査セシメシガ爲メニ委員ヲ任ズルノ議ヲ起セリ出納局長ハ曩ニ春季ニ起リタル恐慌ノ事ニ説及シ論シテ曰余ノ見ル所ヲ以テスレバ當時ノ恐慌ハ專ラ英國銀行ノ過舉ニ原因セル者ナリ該銀行ハ其貨幣ニ對シテ種々ノ需要アルコトヲ十分ニ知リナガラ尙ホ割引歩合ヲ引上グルノ勇斷ヲ欲キ割賦ヲ爲ス可キ時期到リシニ拘ラズ割賦ノ爲メニ備ヘタル貨幣ヲ貸出セシガ故ニ其之ヲ要スルニ及ヒ又貨幣ナキニ至レリ此意見ハ余當時ニ開示セシ所ナルガ今日ニ至テモ此意見ヲ變ス可



キノ理由アルヲ見ザル也而テ其準備金ノ非常ニ減少セルニ及  
 ノデ俄カニ仰天シ其割引ノ高ヲ減少セシガ爲メニ嚴刻ナル處  
 置ニ出デタリ其割引歩合ヲ引上クルノ嚴ニ失セシハ尙ホ前ニ  
 準備金ヲ貸出スノ濫ニ失セシガ如クナリキト又十月ノ恐慌ニ  
 關シ論シテ曰金融市場ノ甚シキ必迫ハリヴァープール及ノルス、  
 ナフ、イングラントノ諸銀行破産セルニ當テハ稍々衰ヘタリシ  
 ガ此等ノ破産ハ更ニ恐慌ヲ再激セシメタリト而テ地方銀行ニ  
 於テ非常ノ必迫行ハレシヲ記セシ後チ更ニ論シテ曰  
 英國銀行ハ之ヲ直接ニシテハ地方到ル所ヨリ幫助ヲ請求セ  
 ラレテ爲メニ必迫ヲ感シ之ヲ間接ニシテハ地方ノ取引銀行  
 ヲ救ハントスル倫敦銀行者ヨリ幫助ヲ請求セラレテ爲メニ  
 必迫ヲ感ゼリ蓋地方銀行ハ起ル可キ取付ケニ應ズルノ準備  
 金ヲ爲シシガ爲メニ巨額ノ英國銀行紙幣ヲ要セリ而テ其取付

ケハ專ラ己レノ紙幣兌換ノ爲メニ起ルニ非ズシテ預金引出  
 シノ爲メニ起リシナリ又倫敦ノ諸商家モ絶ヘズ幫助ヲ英國  
 銀行ニ請求シツ、アリキ二名ノ手形仲買商ハ仕拂ヲ停止シ  
 他ノ二名ノ手形仲買商モ殆ド取引ヲ廢セントスルニ迫マレ  
 リ是ニ於テ平倫敦ニ於ケル手形割引ノ需要ハ一ニ英國銀行  
 ニ向テ注カル、ニ至レリ而テ余ガ前ニモ云ヘルガ如ク英國  
 銀行ハ割引ノ需要斯ク頻繁ナリシニ拘ラズ其尋常割引セル  
 如キ手形ハ一枚タリ拒マズシテ之ヲ割引セリ然レモ尋常  
 ノ事情ニ在テハ手形仲買商ノ割引セシナル可キ巨額ノ手形  
 ハ全ク割引セラル、ト能ハザリシナリ此際吾輩ハ日々刻々  
 英國銀行ノ有様ニ關スル報告ヲ接手セシガ遂ニ該銀行頭取  
 及副頭取ハ余輩ニ告ゲテ曰該銀行ハ之ニ向テ幫助ヲ請求ス  
 ル諸商家ノ爲メニ最早ヤ辨金ヲ爲ス能ハザルノ勢ニ迫マレ



リ該銀行ハ己レノ安全ヲ維持シ法律ヲ遵奉スルヲ得ザルコ  
 非ズ然レモ敢テ之ヲ爲サントセバ商業社會ニ一層ノ甚シキ  
 必迫ヲ起スヲ免レズト而シテ此危急ノ時ニ際シ政府ガ之レ  
 ニ干涉スルヲ必要トスルノ情ハ世上ノ一般ニ懷キシ所ナル  
 ガ如シ苟モ商業上ノ事情ニ通曉セルモノハ皆曰政府ニ於テ  
 此危急ヲ救フ可キ何等カノ處置ヲ施スニ非ズンハ最モ不幸  
 ナル結果必ズ起ラザルヲ得ズト而テ吾輩ノ遂ニ採用セル策  
 ヲ決シテ是認ゼザル可シト思ハレシ人スラモ尙ホ且此ノ説  
 ヲ爲シタリキ政府ノ受取リタル證報ヲ見ルニ余ノ以上陳述  
 セル原因ノ爲メニ甚シキ必迫ノ起リシヲ知ル可キ耳ナラ  
 ズ又數多ノ人が巨額ノ金貨及英蘭銀行紙幣ヲ匿藏セシガ故  
 ニ尋常ノ事情ニ在テハ十分ナリシナル可キ流通媒介物ノ數  
 額モ又社會ノ需要ニ應ズルニ足ラザルトナリ爲メニ愈益

必迫ノ勢ヲ加ヘシヲ知ル可キナリ蓋豫メ此事ヲ確證スル  
 ハ難カリシト雖モ吾輩ガ此事件ニ干涉セシ後ニ起リタル事  
 實ヲ見レバ此事歴然トシテ徵ス可キナリ十月廿五日ノ通知  
 書出ツルヤ否ヤ恐慌忽チニ退キ匿藏セラレタル千萬ノ貨幣  
 湧然トシテ世ニ現ハレ預金者或ハ其紙幣ヲ銀行者ノ手ニ托  
 スルヲ欲セザリシト雖モ尙ホ其金匣ヲ銀行者ニ預ケ置キシ  
 者アリテ今ヤ此等ノ金匣中ヨリ其紙幣ヲ取出タセリ左レバ  
 開封セラレタル巨額ノ紙幣包ミ續々英蘭銀行ニ向テ返流シ  
 其狀宛モ前ニ地方ニ向テ流出セシガ如クナリキ而テ紙幣増  
 加ノ需要ハ實ハ極メテ微少ナリシニテ無限發行ノ權ヲ與ヘ  
 シ後チ英蘭銀行ノ増發セシ全額ハ四十萬磅以下ナリキ信憑  
 回復シタリケレバ匿藏セラレタル紙幣幽閉ヲ免レテ世ニ出  
 デ此餘ニ又紙幣需要セラレザリシナリ何トナレバ増發セラ



レタル右四十萬磅ノ金額ノ如キハ敢テ記スルニ足ラザレバ  
 ナリ(中略)吾輩ニ補助ヲ請願セル各種ノ人々皆云ハザルハナ  
 シ曰「吾々ハ紙幣ヲ需要セス唯吾々ニ信憑ヲ與ヘヨ紙幣ハ吾  
 々十分ニ之ヲ有ス然レヒ吾々ハ此紙幣ヲ用フ可キ信憑ヲ有  
 セザルヲ如何セン閣下等冀クハ後援ヲ與ヘヨ吾々ノ請願ス  
 ル所唯此一事ノミニテ足レリ要スルニ吾々ニ信憑ヲ回復セ  
 シムル如何ナル處置ヲモ施セヨ若シ吾々ニノ英蘭銀行紙幣  
 得易シトダニ思ヒナバ吾々ハ敢テ之ヲ需要セザル可シ閣下  
 等ノ欲スルニ從ヒ如何ニ高キ利息ヲモ課セヨ吾々ハ唯閣下  
 等ガ爲サント欲スル所ヲ爲サントナリ請フ(此時スプーチル氏  
 ノ「ト大呼ス)余ハノ「ト大呼セル尊敬ス可キ紳士  
 ニ謝ス然レドモ余ナシテ何ヲ余ニ向テ云ハレシナル乎ヲ知  
 ラシメラレノヲ請フ余ガ今マ陳述セシ所ハ余ニ向テ爲サレ

タル請願ノ趣意ヲ示セルノミ即余ニ請願ヲ爲セル人々曰「吾  
 々ヲ紙幣ヲ有セシメヨ此紙幣ノ爲メニ一割ヲリヒ一割ニ  
 分タリヒ欲スル利息ヲ課セヨ利息ノ高下如何ノ如キハ吾々  
 ノ毫モ難ミル所ニ非ズ實ニ吾々ハ紙幣ヲ取ラント欲スルニ  
 非ス何トナレバ吾々ハ紙幣ヲ需要セザレバナリ唯紙幣ノ得  
 易キヲ吾々ニ示セヨ此一事忽チニ信憑ヲ回復ス可キノミ」ト  
 吾輩ガ一二日前ニ拒ミタル處置ヲ遂ニ土曜日ニ及ンテ採用  
 スルニ至リシ「ト就テ如何ナル事情ノ變化アリテカ斯ク主  
 義ヲ變シタルヤト質疑セシ者アリキ余之ニ答テ云ハン吾輩  
 ガ木曜金曜土曜ノ三日ニ受取リシ報告ハ全ク以前ニ受取リ  
 シ報告ト異ナリシニ因ルノミト吾輩カ此處置ヲ採用スルノ  
 決心ヲ爲サマル可カラザルニ至リシハ土曜日ニ及ンテ初メ  
 テ然リシ「トニシテ以前ニハ然ラザリシナリ條例ニ背戻セル



舉動ヲ許可スルヲ止ムヲ得ズト思惟セシハ此時ニ至テ初メ  
 テ然リシナリト  
 此等ノ請願ヲ爲セル人々ハ大抵皆許可スベキ紙幣發行額ニ制  
 限ヲ立ツルヲ必要ナリト思惟シ其制限ハ二三百萬磅ニテ可ナ  
 ルベシト思惟セリ然レモ政府ハ利息相場ニ制限ヲ置ク方寧ロ  
 可ナル可シト思惟シ遂ニ此方法ヲ採用セシナリ  
 内閣諸相中ニテモ特ニロベルト、ピートル氏ハ議院ニ出テ來リテ  
 一千八百四十四年ノ條例ヲ辨護セザル可カラズト自感セシナ  
 リ氏ハ己レノ受ケタル攻撃ノ諸小點ニ關シテ辨解ヲ爲セシ後  
 議院中ノ箇々ノ議員ヲ指摘シ之ヲシテ全議院ノ可決シタル  
 處置ノ責任ヲ擔ハシメントスルハ極メテ非ナル旨ヲ切論セリ  
 氏曰或ル人ハ一千八百四十四年ノ條例ハ十分ノ穿鑿ヲ經ズシ  
 テ可決セラレタリト云ヘリ然レモ過クル五年間ニ於テ此問題

ヲ調査センガ爲メニ數回ノ委員相續キ總計一萬四千件以上ノ  
 疑題ヲ諮問シタルコトニシテ此穿鑿ハ到底際限ナキガ如ク何等  
 實際上ノ結果ヲモ生ズルナクシテ止メリ最後委員ノ如キモ何  
 等實際上ノ結果ヲモ生ズルナクシテ其調査ノ局ヲ結ベリ是ニ  
 於テ乎遂ニ宰相ハ自カラ責任ヲ擔ヒテ一議案ヲ提出スルコトニ  
 決心セシコト此議案ハ非常ノ大多數ヲ以テ可決セラル、所トナ  
 リシナリ然レモ一千八百四十四年ノ條例ヲ修正セザル可カラ  
 ザルノ理由ヲ果シ能ク示シ得クンバ則之ヲ修正ス可キナリト  
 ト氏更ニ論シテ曰  
 或ハ此條例ノ目的ヲ誤解セル者アリ蓋曾テ度々起リタル恐  
 慌ハ英國銀行ガ早ク其準備金ノ流出ヲ防クコトヲ怠レルニ原  
 因セル者ニシテ此條例ノ計畫セル目的ノ一ハ斯カル恐慌ヲ  
 豫防スルニ在ルコトハ余之ヲ拒マザルナリ余ハ假令強ヒテ此



用意ヲ爲スノ義務ヲ該銀行ニ課セザルモ該銀行ガ一千八百二十五年同三十六年同三十九年ノ實驗ニ徴シテ必スヤ自カラ此主義ヲ執ル可キヲ豫期シタリキ蓋シ此主義ハ該銀行取締役ガ自カラ正當ナリト認メ己レヲ制スルノ規則トシテ採川セシコトヲ幾回トナク公言セル所ナリ然ルニ諸君ヨ余ハ余ノ此豫期ニ於テ條例ノ此目的ニ於テ全ク失望ヒシメラレタリト云ハザルヲ得ズ抑一千八百四十四年ノ條例ノ目的ハ時宜ニ投メ用意ヲ施シ以テ非常過嚴ノ處置ニ出ツルノ必要ヲ豫防ス可キ法律上若クハ少ナクモ道德上ノ義務ヲ英蘭銀行ニ課セントスルニ在リキ然ルニ過般起リタル商業上ノ閉塞極メテ甚シク爲メニ斃レタル商家ノ數極メテ多カリシヲ見レハ條例ノ此目的ヲ實際ニ達シ得ザリシヲ許サザルヲ得ズ但シ余憶フニ斯ク斃レシ商家中ニハ條例實施前ニ既ニ久シ

ク身代不確實トナリ居シモアリ又其取引セル商家斃レテ其餘響ヲ受ケシモノアリ又濫ニ投機取引ニ從事セシモアリシナリ諸君ヨ余ハ英蘭銀行ノ力能ク此災害ヲ豫防スルヲ得可ク假令然ラザルモ大ニ其勢ヲ殺キ得可カリシコトヲ主張セザルヲ得ズ若シ英蘭銀行ニ紙幣ノ數額ヲ減少シ割引歩合ヲ引上ケ該銀行ガ一千八百四十四年ヨリ同四十六年マデノ間ニ許シタリシ融通ヲ多ク拒ミ以テ將サニ來ラントスル危險ニ應スルノ勇斷ヲ有セシナランニハ若シ該銀行ニシテ斯カル準備ノ處置ヲ固執果行シテ動クコトナカリシナランニハ能ク外ヨリ之ニ干涉スルノ必要ヲ避ケ得シナル可シ即政府ガ一千八百四十四年ノ條例ニ背戻セル舉動ヲ許可スルノ必要ヲ避ケ得シナル可シ(中略)一千八百四十四年ノ條例ハ三様ノ目的ヲ有セリ其第一ノ目的ハ余ガ實際ニ達シ得ザリシコト



ヲ許ス所ノモノ是ナリ即早ク漸々ニ紙幣ヲ減少シテ急激過  
 嚴ノ紙幣減少ト之ニ隨起スル恐慌混亂トヲ豫防スルニ在リ  
 然レモ此條例ハ其緊要ナルヲ之ニ超ユルアルモ決シテ下  
 ルナキ他ノ目的少ナクモ二ヲ有セリ其一ハ紙幣ノ金貨兌換  
 ナ維持シ保證スルヲニシテ其一ハ約束手形濫用ノ爲メニ不  
 當ノ投機取引ヲ鼓舞スルヨリ起ル可キ困難ヲ豫防スルヲ是  
 ナリ而テ余ハ信ス此二目的ニ關シテハ條例十分ニ其功ヲ奏  
 セシコトヲ余ハ信ス諸君ハ紙幣兌換主義ヲ維持スルコトニ  
 關シテ以前ニ決シテ有セザリシ保證ヲ有スルニ至リシヲ  
 余ハ又信ズ諸君ガ諸種原因結合ノ爲メニ今苦ミ居ル困難ハ  
 如何ニ大ナルニモセヨ要スルニ諸君ガ曩ニ英蘭銀行、合資銀  
 行、私立銀行ノ紙幣無限發行ヲ制限スル處置ヲ採川セザリシ  
 ナラシムハ此困難ハ更ニ幾層ノ甚シキヲ加ヘシナラシムコト

ナト

次ニロベルト、ピール氏ハ穀物凶歉ノ爲メニ巨額ノ資本破壊セ  
 ラレタルト鐵道築造ノ一途ニ非常巨額ノ資本吸收セラレテ且  
 此等ノ鐵道ハ未ダ利益ヲ生ズルニ至ラザリシトノ二原因ヨリ  
 國內ニ起リタル真正ノ弊害ヲ最モ適切ニ説明セリ氏ハ苟モ資  
 本匱乏ナル間ハ低利ノ貨幣ヲ得ント期スルノ極メテ愚ナルヲ  
 ナ示セリ此點ニ於テ氏ノ說ハ徹頭徹尾最モ贊稱ス可キ者ナリ  
 ト雖モ其長キガ爲メニ余輩茲ニ全文ヲ掲クル能ハザルヲ惜ム  
 ナリ氏ハ政府ガ夫ノ通知書ヲ發シタルハ早キニ失セズ後キニ  
 失セズ能ク時機ヲ得タルヲ誠意ニ自贊セリ氏曰當時我國ノ  
 蒙リ居タル災害ノ真正ノ救治策ハ箇々人々ノ盡力ニ在リシナ  
 リ即契約ヲ節減スルト苟モ猶豫シ得可キ需要ハ成ル可ク之ヲ  
 猶豫スルトニ在リシナリ然ルニ若シ夫ノ通知書ヲ出タスニ早



キニ失セシナラシムハ必スヤ此等ノ必要ナル盡力ヲ怠弛セシメシナル可シ然レモ此必迫ニ續ギ恐慌激發セリ是レ法律ノ以テ豫防シ若クハ前見シ能ハザル所又理論ノ以テ推究シ能ハザル所ニシテ政府ガ裁斷權ヲ借取シ臨機應變ノ策ヲ施スニ非ズンバ之ニ當ルコト能ハザリシナリ夫ノ一千八百四十四年ノ條例ヲ修正スルコト望マシキヤ否ヤハ後日ノ考察ニ讓ル可キノ一問題ナリトス余一箇ノ私見ヲ以テスレバ此條例ノ大原理ヲ維持セント欲スルナリ若シ當時行ハレ居タルト同一ノ制限ヲ英蘭銀行ニ課セズトスルモ尙ホ何等カノ制限ヲ課セザル可カラザルナリ何トナレバ既ニ一千八百二十五年同三十六年同三十九年ノ實驗アリタル後ニ於テ我國貨幣取引ノ無限管理權ヲ英蘭銀行ノ獨斷ニ任スルガ如キハ余ノ肯ズル能ハザル所ナレバナリ一千八百四十四年ニ於テハ世上一般ノ輿望ハ此權ヲ該銀

行ニ委ス可カラズト云フニ在リシナリ而テ余ハ之ニ制限ヲ課スルノ方法ハ一千八百四十四年ノ條例ニ計畫セル方法ヨリモ更ニ善キ者アルヲ知ラザルナリト蓋制限ヲ置クヲ必要ナリトスルニ於テハ吾輩全クロベルト、ピール氏ト意見ヲ同ウスト雖モ吾輩ハ一千八百四十四年ノ條例ニ計畫セル方法ハ真正ノ方法ニ非ズシテ最モ不幸ナル過舉ニ出ツルノ餘地ヲ英蘭銀行ニ殘ス者ナリト思惟スルナリ吾輩ハ有効ナラザル可カラザル一方法ノ或ハ工夫セラレ得可キコト後章ニ於テ示サント勉ム可シ

上下兩院ノ各々任シタル委員ハ一千八百四十八年二月ニ其職ニ就ケリ而テ英蘭銀行頭取モルリス氏及同副頭取アレスコット氏ハ兩委員ノ爲メニ長キ諮問ヲ受ケタリシニ此兩氏ハ一千八百四十四年ノ條例及其實際ノ運轉法ヲ口ヲ極メテ稱賛シ此



條例ノ目的ハ我國貨幣ノ有様ヲシテ恰モ貨幣悉ク正貨ノミナル時ノ如クナラシメントスルニ在ルヲ述ベタリ

(問)然ラハ汝ノ意見ハ恰モ貨幣悉ク正貨ノミナル時ト同一ノ方法及同一ノ度ヲ以テ貨幣減縮シ又ハ膨脹ス可シト云フニ在ル乎

(モルリス氏答)然リ余ハ此事ニ關シテハ一小疑ヲダニ懷カザルナリ

此二氏又曰此條例ノ目的ハ紙幣ノ兌換ヲ確實ニスルニ在リテ十分ニ此目的ヲ達セリ又曰英蘭銀行ガ一千八百四十七年ノ春季ニ於テ一層早ク割引歩合ヲ引上ケザリシハ大ニ四月ノ金融必迫ヲ起スノ原因トナリシ所ニシテ該銀行ハ此事ニ於テ全ク過テリ又曰十月二十五日ノ政府ノ通知書ハ英蘭銀行之ヲ求メシニ非ス又該銀行ノ爲メニ發行セラレシニ非ズ該銀行ハ自

行ノ安全ニ關シテハ毫モ畏レシニ非スシテ此通知書ハ該銀行ノ確實ヲ維持センガ爲メニ之ヲ要セシニ非ス然レモ此通知書ハ商業上ノ恐慌ヲ制止スルニ於テ最良ノ結果ヲ生シタリ又曰此恐慌ハ假令一千八百四十四年ノ條例ナカラシムルモ到底之ヲ避クルヲ能ハザリシナラン唯此條例ノ爲メニ恐慌ヲシテ一層早く來ラシメ隨テ其猛烈ノ度ヲ薄カラシメタルガ如シ又曰此條例ノ大功ハ金融必迫來ルニ及ンデ英蘭銀行ガ尙ホ八百萬磅ノ準備金ヲ有セシト是ナリ若シ該銀行ノ舉動ヲ自由ニ任シクランニハ該銀行ハ曾テ屢然リシガ如ク危險ナル濫貸ノ處置ニ出デシナラン又曰政府ノ通知書ハ恐慌ヲ制止シタルニ相違ナシト雖モ假令此通知書ナカラシムルモ尙ホ恐慌ハ退キシナラント而テ此二氏ハ地銀ヲ基礎トシテ發行シ得可キ紙幣高ノ制限狹キニ失スルヲ思惟セシト雖モ獨リ此一點ヲ除クノ外ハ



條例ヲ變更スルノ非ナルヲ熱心ニ説キタリ  
 エス、ガ、ル、子、一、氏、モ、亦、一、千、八、百、四、十、七、年、ノ、最、初、三、ケ、月、間、ニ、於、ケ、  
 ル、英、蘭、銀、行、ノ、舉、動、過、テ、ル、ヲ、非、難、シ、若、シ、該、銀、行、ニ、シ、テ、一、層、早、ク、  
 減、縮、主、義、ヲ、施、セ、シ、テ、ラ、ン、ニ、ハ、大、ニ、四、月、ノ、金、融、必、迫、テ、輕、カ、ラ、シ、  
 ム、ル、ヲ、得、シ、ナル、可、シ、ト、述、ベ、タ、リ、氏、曰、十、月、ニ、於、テ、準、備、金、速、ニ、減、  
 少、セ、シ、カ、ハ、世、人、ハ、如、何、ニ、シ、テ、流、通、媒、介、物、ヲ、得、ン、ヤ、ト、テ、頓、リ、ニ、  
 之、ニ、顧、慮、シ、爲、メ、ニ、一、般、ノ、不、信、憑、ヲ、起、ス、ニ、至、レ、リ、而、テ、富、裕、確、實、  
 ナ、ル、者、ハ、遙、ニ、必、要、ノ、度、ヲ、越、ヘ、テ、已、レ、ノ、爲、メ、ニ、準、備、セ、ン、ト、勉、メ、  
 タ、リ、左、レ、バ、公、衆、ノ、手、ニ、存、ス、ル、紙、幣、ハ、殆、ト、二、千、一、百、萬、磅、ニ、達、セ、  
 シ、ト、雖、モ、世、人、ガ、毫、モ、英、蘭、銀、行、紙、幣、ヲ、得、ル、能、ハ、ザ、ル、可、シ、ト、思、ヒ、  
 テ、恐、慌、畏、怖、セ、シ、ガ、爲、メ、ニ、其、四、五、百、萬、磅、ハ、人、ノ、匿、藏、ス、ル、所、ト、ナ、  
 リ、全、ク、世、ニ、効、ナ、キ、ニ、至、リ、タル、ハ、余、ノ、疑、ハ、ザ、ル、所、ナ、リ、ト、而、テ、氏、  
 ハ、此、事、ヲ、證、セ、ン、ガ、爲、メ、ニ、土、曜、日、即、二、十、三、日、ニ、於、テ、已、レ、ノ、商、家、

ガ、大、ニ、貨、幣、ノ、取、付、ケ、ヲ、受、ケ、シ、ト、述、ベ、而、テ、此、取、付、ケ、ノ、起、リ、タ、  
 ル、ハ、該、商、家、ガ、信、憑、ヲ、失、ヒ、シ、ニ、因、ラ、ス、ノ、世、人、ガ、毫、モ、英、蘭、銀、行、紙、  
 幣、ヲ、得、ル、能、ハ、ザ、ル、可、シ、ト、恐、レ、シ、ニ、因、ル、ヲ、述、ベ、タ、リ、氏、曰、我、商、  
 家、ハ、巨、額、ノ、割、引、ヲ、英、蘭、銀、行、ニ、請、求、シ、タル、ニ、悉、ク、承、諾、セ、ラ、レ、タ、  
 リ、ト、雖、モ、該、銀、行、ハ、其、割、引、ノ、步、合、一、割、ナ、ラ、ザ、ル、可、カ、ラ、ザ、ル、ヲ、  
 告、ケ、タ、リ、因、テ、該、銀、行、頭、取、ニ、諫、諍、シ、若、シ、我、商、家、ガ、貨、幣、ノ、爲、メ、ニ、  
 一、割、ノ、利、息、ヲ、仕、拂、ヒ、シ、ト、世、ニ、知、ラ、ル、ハ、ア、ラ、バ、爲、メ、ニ、最、惡、ノ、結、  
 果、ヲ、生、ズ、可、キ、旨、ヲ、忠、告、シ、タル、ニ、遂、ニ、雙、方、ノ、協、議、ニ、テ、其、步、合、ハ、  
 九、分、ト、定、マ、レ、リ、而、テ、我、商、家、ハ、此、步、合、ニ、テ、二、十、萬、磅、ノ、貨、幣、ヲ、取、  
 出、ダ、セ、リ、然、ル、ニ、月、曜、日、即、廿、五、日、ニ、至、テ、需、要、再、ヒ、急、ナ、リ、ケ、レ、バ、  
 我、商、家、ハ、更、ニ、二、十、萬、磅、ノ、帮、助、ヲ、請、求、セ、シ、ニ、此、時、英、蘭、銀、行、ハ、一、  
 方、ニ、ハ、準、備、金、減、少、シ、一、方、ニ、ハ、條、例、ノ、制、限、ア、リ、テ、困、難、ヲ、極、メ、タ、  
 レ、バ、其、諾、否、ノ、決、午、後、二、時、マ、デ、遲、延、セ、リ、然、ル、ニ、恰、モ、好、シ、午、後、一、



時ニ至テ條例ノ制限ヲ緩弛スル政府ノ通知書公達セラレケリ  
 而テ此通知書ノ効驗ハ迅速ニシテ射ルガ如ク此朝ニ在テ頻リ  
 ニ貨幣ヲ取付ケタル人々ハ今ヤ之ヲ需要セザル旨ヲ告ゲ唯用  
 意ノ爲メニ仕拂ヲ求メシマデナリトノ旨ヲ通知スルニ至レリ  
 左レバ此通知書出デシ後ハ我商家ハ二十萬磅ナラズシテ唯十  
 萬磅ヲ要セシノミ而テ恐慌忽チニ經過シ去リ此週期ノ末ニ至  
 テハ我商家ハ反テ其取出シタル貨幣ヲ英蘭銀行ニ返サソフヲ  
 請求セザル可カラザルニ至レリ」ト而テガルチー氏ハ過クル二  
 年ノ實驗ニ徴シテ條例ニ關スル氏ノ意見變ゼシ旨ヲ述ベ條例  
 中ニ何等カノ緩弛作用ヲ設ケザル可カラズト思惟スル旨ヲ述  
 ベタリ  
 又チヅァーストーン公ハ說ヲ爲シテ曰一千八百四十四年ノ條例  
 ハ四月ノ金融必迫ヲ甚シカラシムル何等ノ効驗ヲモ現ハセシ

ニ非ズ一月ヨリ四月マデニ英蘭銀行ノ施シタル處置ハ極メテ  
 誤レル者ニシテ公衆ノ利害ニ最モ害アリキ而テ條例ノ力ニ因  
 テ始メテ之ヲ制スルヲ得タリ若シ夫レ條例ノ力ニ因テ該銀行  
 ノ處置ヲ制セザリシナランニハ必スヤ最モ不幸ナル結果ニ歸  
 セザルヲ得ザリシナラン」ト  
 又シロウ、カール、グリーン氏ハ說ヲ爲シテ曰條例ノ可決セラレシ  
 前ニ在テハ英蘭銀行ヲ發行部及銀行部ニ分ツノ策ハ之ヲ實際  
 ニ試ミタキ者ト思惟シタリキ然ルニ前年ノ實驗ニ徴シテ之ヲ  
 考フルニ此策ハ全ク失敗セリ」ト  
 下院委員ハ一千八百四十八年六月八日ヲ以テ其報告ヲ出ダセ  
 リ此委員ハ理論上ヨリ證報者ノ說ノ當否ヲ查察スルヲ爲サズ  
 シテ唯其蒐集セル證報ニ對シ緒言牀ノ一文ヲ附スルヲ以テ自  
 カラ足レリトセリ然レモ一千八百四十四年ノ條例ヲ苟モ變更



スルハ得策ニ非スト云フノ説ヲ記シテ以テ其文ヲ結ベリ  
 又上院委員ハ七月ヲ以テ其報告ヲ出ダセシガ之ヲ下院委員ノ  
 報告ニ比スレバ大ニ精密ナル者アリキ即此委員ハ具サニ證報  
 者ノ説ヲ查察セシ耳ナラズ己レノ意見ヲモ開示シ條例ヲ修正  
 シテ其制限ヲ緩弛シ外國爲替相場我國ニ利アル間ハ紙幣ノ増  
 減ヲ英蘭銀行ノ獨斷ニ任センコトヲ勸告セリ  
 八月廿二日ヲ以テヘルリース氏ハ議院ガ次回ノ會期ニ於テ速  
 ニ右上院委員ノ報告ヲ討議ニ附センコトヲ動議セシニ此動議ハ  
 否決セラレ又次回ノ會期ニ於テ氏ハ再ヒ議院ヲシテ條例ヲ變  
 更セシメント勉メタリト雖モ又其功ヲ奏セザリキ  
 一千八百四十七年ノ大恐慌ニ會シテ我國商業社會ガ受ケタル  
 劇烈ナル救済策ハ大ニ其効アリシコト疑フ可カラズシテ之ガ爲  
 メニ數年間身代不確實ナリシ商家ヲ一掃シタルヲ以テ爾後我

商業ハ一層鞏固ナル基礎ノ上ニ立チ概シテ之ヲ云フルハ一千  
 八百五十七年秋季ニ至ル迄ハ大ニ繁榮ノ狀ヲ以テ進ミケリ然  
 ルニ戰爭發セントスルノ勢アリシガ爲メニ大ニ船舶ノ需要ヲ  
 起シ隨テ船舶商業ニ於テ大ニ投機取引ヲ起セリ此投機取引ハ  
 一千八百五十四年ノ秋季ニ於テ就中リヴァプールニ行ハレ爲  
 メニ破産スル者甚多キニ至レリ而テ此破産ヨリ起リタル事實  
 ニ徴シテ之ヲ考フルニ夫ノ融通手形ヲ發行スル抜ク可カラサ  
 ル惡習再ヒ熾ンナリシコト知ルナリ蓋此種類ノ職業ニ從事セ  
 ル者ノ間ニ無數ノ融通手形ヲ發行シ而テ此等ノ手形ハ全王國  
 中ニ賣買セラレタリ抑斯カル手形ヲ發行スルガ如キハ既ニ破  
 廉恥ノ甚シキ者ナリト雖モ又或ハ一層破廉恥ナル手段ニ出デ  
 シ者モアリキ此時ノ大破産ハ茲ニ之ヲ指示セザルモ世人ノ能  
 ク知レル所ニシテ此等ノ大破産ノ爲メニ痛ク信憑ヲ毀害シ加



フルニ濠洲ニ於テ過度ナル投機取引ニ從事セル數多ノ人々亦甚シキノ損失ヲ蒙レリ而テ此時ノ事情ニ於テ別ニ特記ス可キ者ナシト雖モ唯一ノ特記ス可キハ英蘭銀行ヨリ正金ノ流出セルコト是ナリ蓋六月ノ末ニ至テ英蘭銀行ヨリ正金大ニ流出スルノ端ヲ開キ爾來十月ノ中旬ニ至ルマデハ絶ヘズ速ニ流出セリ左レバ六月廿三日ニハ發行部及銀行部ニ有セル正貨及地金銀ヲ合ヒテ其正金在高一千八百十六萬九千磅ナリシニ十月十三日ニハ減少シテ一千一百七十五萬二千三百磅トナレリ斯ク正金ノ大ニ流出セル原因ニ至テハ未タ十分ニ判然クラザルヲ以テ吾輩ハ此事ニ關シテ明確ナル論ヲ爲スニ由ナシ或ハ我國小麥ノ相場騰貴セルガ爲メニ外國穀物ヲ輸入セルニ原因スト論スル者アリ又或ハ佛蘭西銀行ノ舉動ニ原因スト論スル者アリテ諸説一ナラズト雖モ要スルニ時ヲ經バ一層精密ニシテ満足

ス可キ報告吾輩ノ手ニ達ス可シト信スルナリ然レモ其原因ノ何レニ在リシ乎ハ左マデニ緊要ナラズシテ唯吾輩ハ此時英蘭銀行ガ其曩時ノ失策ニ引換ヘ果敢勇斷ノ舉ニ出テシコトヲ記スルヲ喜ブナリ即貨幣ノ價值ヲ騰貴セシメンガ爲メニ速ニ割引歩合ヲ引上ケテリ蓋暫時ノ間ニ屢々大ニ割引歩合ヲ引上ケシコト此時ノ如キハ曾テ之ナキ所ニシテ之ガ爲メニ最モ満足ス可キ結果ヲ生シタリキ左ノ一表ハ則英蘭銀行正金在高時々ノ増減ト其割引歩合時々ノ高低トヲ示ス者ナリ

一八五五年

發行部正金在高

割引歩合

一	月四日	一三、一八〇、八三五	五分
同	二十日	一一、八八〇、五六〇	五分
二	月廿二日	一一、三三三、二三〇	五分
三	月廿二日	一三、四七九、九七五	五分



四	月十二日	一四三九二、五〇〇	四
五	月三日	一四七九一、七八五	四
同	十七日	一五、三三六、五一〇	四
同	卅一日	一六、三三七、六八五	四
六	月十四日	一七、〇五六、九四五	三
同	廿八日	一七、四二九、四三五	三
七	月十九日	一六、六三一、八九〇	三
八	月九日	一五六〇一、五九〇	三
九	月六日	一四、三六八、〇一〇	四
同	十三日	一三、六六八、〇〇五	四
同	廿七日	一二、六九五、二五〇	五
十	月四日	一二、三六八、二五五	五
同	十八日	一一、二〇五、八五五	六

期限六十日ニ越ヘサル手形ニ對シ

十一月八日 一〇、七四一、三二〇 期限九十五日ニ越ヘザル手形ニ對シ 七  
 十二月六日 一〇、五八〇、五七〇 同  
 同 廿七日 一〇、三六九、五九五 同

前數週期間倫敦經濟雜誌ハ金融市場ノ極メテ必迫セルヲ報シタリシガ十二月廿九日ニ至テハ左ノ如キ報ヲ爲セリ曰  
 金融市場ハ引續キ極メテ必迫シ如何ナル手形ト雖モ英蘭銀行ヨリモ低廉ナル歩合ヲ以テ之ヲ割引スル能ハザルナリ而テ長期ノ手形ニ至テハ如何ナル歩合ヲ以テスルモ之ヲ割引スル能ハザルナリ蓋貨幣ノ需要斯ク引續キ急ナルヲ見レバ割引歩合騰貴ノ爲メニ未ダ大ニ商業ヲ沮止スルノ効アラズシテ今日尙ホ我商業ガ適當ノ度ヲ越ヘテ擴張セラレ居ルヲ推察ス可ク而テ十一月ノ貿易報告ニ於テ我商業ノ甚大ナルヲ示スヲ見レバ此推察ノ當レルヲ證ス可キナリト



以上英蘭銀行ノ最モ正當ナル舉動ハ限リナク之ヲ稱賛スルノ外ナキ所ナリト雖モ尙ホ一派ノ人々ハ單ニ紙片ニ仕拂フ可キ約束ヲダコ記セバ據テ以テ此約束ヲ履行ス可キ正貨ナキニ拘ラス隨意ニ貨幣ヲ造リ得可キ者ト信シ同一ノ貨幣ヲ外國ニ送りテ而シテ尙ホ之ヲ内地ニ用フルヲ得可キモノト信シ黨呼シテ英蘭銀行ノ此舉動ノ非ヲ鳴セリ左レバ數週期間新聞紙ハ此甚シキ謬見ヲ開示スル所ノ投書及論文ヲ以テ滿タサレタリ蓋此類ノ謬見ハ曾テ穀價ノ問題ニ關シテ大ニ行ハレシ所ニシテアダムスミス氏ノ最モ適切ニ其誤レルヲ辨破セシ所ナリ然レト此點ニ關シテハ近年多數ノ記者ノ說ニ最モ著シク最モ是ナル變化ヲ生ゼリ今ヤ多數ノ記者ハ割引歩合ノ高低ハ紙幣ノ真正ノ序理法ナルコトヲ會得シ英蘭銀行ガ割引歩合ヲ引上ゲテ其職ヲ盡スアルモ又罵詈惡口ヲ放テ之ヲ攻撃セスシテ一般ニ

稱賛シ其之ヲ非トスル者ノ如キハ甚稀レナルニ至レリ是レ實ニ真正經濟學ノ擴張上ニ於テ有益ナル一大進歩ナリト云フ可シ  
發行銀行ガ其紙幣發行ヲ止ムルキハ其三分ノ二ニ越ヘザル紙幣ヲ英蘭銀行ヲシテ發行セシムルノ權ハ一千八百四十四年ノ條例ガ女王陛下ニ托スル所ニシテ女王陛下ハ此年ノ末ニ至リ此權ヲ實川セリ抑條例ノ制定以來此時ニ至ルマデ發行銀行ノ其紙幣發行ヲ止メシ者四十七行アリテ之ニ許可セラレタル紙幣發行ノ定額ハ合計七十一萬二千六百二十三磅ナリキ是ニ於テ乎一千八百五十五年十二月十三日女王陛下ハ一令ヲ發シ英蘭銀行ヲシテ國債證書ヲ抵當トシ更ニ四十七萬五千磅ノ紙幣ヲ増發セシムル旨ヲ達セリ然レトモ英蘭銀行ノ紙幣發行權ノ此增加ハ條例ノ精神ニ合ヘル増加ト云フ可カラザル者アリ其故



如何ト云フニ一千八百五十四年ニ於テ交換所ハ一層改良セル方法ヲ採川セルガ爲メニ以前ニハ其取引ヲ決濟センガ爲メニ平均二十萬磅ノ英蘭銀行紙幣ヲ要セシト雖モ今ヤ新制ノ下ニ在テハ此紙幣ノ川廢セラレテ全ク紙幣ヲ要セザルニ至リタルバナリ且合資銀行ガ交換所仲間ニ加入スルヲ許サレタルヲ以テ此等ノ合資銀行ハ最早ヤ從前ノ如ク他ノ銀行ノ取付ケニ應ゼンガ爲メニ巨額ノ英蘭銀行紙幣ヲ準備スルヲ要セザルニ至レリ蓋從前斯ク準備シタル紙幣ノ額ヲ五十萬磅ナリト算スルモ決シテ過算ノ恐レナカル可シ左レバ今ヤ此等ノ紙幣ハ英蘭銀行之ヲ商業上ニ用フルヲ得ルコトニシテ是レダケハ英蘭銀行ノ紙幣發行權ヲ加ヘタル者ト云フモ不可ナキナリ故チ以テ英蘭銀行ハ一千八百四十四年ノ條例制定後實際其紙幣發行權ヲ一百十七萬五千磅増加セル者ト謂フ可シ而テ爾來一千八百

五十七年二月ニ至ルマデニ紙幣發行ヲ止メタル銀行更ニ七行アリテ其紙幣發行ノ定額ハ合計十一萬一千零二十磅ナリシト雖モ一千八百六十六年ニ至ルマデハ又紙幣増發ノ權ヲ英蘭銀行ニ與ヘシコトアラザリキ

一千八百五十六年ニ入りテヨリ數月間ハ金融市場引續キ大ニ必迫シ英蘭銀行ノ正金在高ハ敢テ増減ナキ姿ナリキ而テ其最モ減少セシハ四月廿六日ニ在リテ其高九百零八萬一千六百七十五磅ナリキ其後ハ次第ニ増加セルヲ以テ割引歩合モ夏季ニ至テハ約ソ四分<sup>一</sup>乃至四分<sup>二</sup>ニ下落セリ然ルニ十月ニ至リ正金在高再ヒ大ニ減少シ割引歩合ハ七分乃至八分ニマデ騰貴セリ是ニ於テ平一千八百五十五年ニ於ケルト殆ト同様ナル金融必迫起リ其年末ニ至ルマデ此有様ハ殆ト變ゼズシテ續ケリ

一千八百五十七年ノ恐慌



吾輩が前ニ考察セシ所ノ恐慌ハ商業尋常ノ順路ノ無數ニ錯亂  
 セラレシヲノ避ク可カラザル結果タリシナリ蓋社會數多ノ人  
 ガ鐵道ノ投機ニ從事ノ彼レノ如ク困難ニ陥リ且收獲凶歉ノ爲  
 メニ大損失ヲ生シタルヲ以テ勢ヒ恐慌ヲ起サバルヲ得ザル  
 ハ苟モ商業ノ歴史ニ通曉セル者ノ必ス前見セザル可カラザル  
 所ナリ而テ夫ノ一千八百四十四年ノ銀行條例ハ最モ經驗アリ  
 シ先世大家ノ説ニ從フト唱フルト雖モ實ハ全ク之ニ背反セル  
 者ニシテ此凶慌ノ爲メニ痛ク其威光ヲ挫カレシヲハ吾輩既ニ  
 之ヲ示セリ抑此等ノ大家ハ英蘭銀行ノ紙幣發行ニ數額上ノ制  
 限ヲ置クノ非ナルヲ常ニ切言セシ所ニシテ一千八百四十七年  
 ノ實驗ハ一千七百九十三年、同九十七年、一千八百二十五年ノ實  
 驗ヲ十分ニ複證シ大恐慌ノ激發スルニ際シテハ商業上ノ信憑  
 ナ悉ク破壊スルノ危險ナクシテ又斯カル制限ヲ維持スル能ハ

ザルヲ明ナラシメタリ  
 然ルニ吾輩ガ今茲ニ記セント欲スル恐慌ハ右ノ恐慌トハ甚其  
 性質ヲ異ニセリ此恐慌ヤ最モ豫期セザル方法ヲ以テ世界ニ破  
 裂セリ此恐慌ハ常ニ注意ヲ怠ラザル老練ナル人ニ非スシテ尙  
 ホ能ク看破シ得ル如キ前兆ヲ毫モ示スヲナク而テ其一旦來ル  
 ニ及ンデヤ商業世界ノ腐敗極メテ深カリシヲ示シ一千八百  
 四十七年ノ恐慌ニ比スレバ一層甚シキ者アルヲ證シ以テ各人  
 ナ仰天セシメタリ  
 一千八百四十四年ノ條例ノ辨護者ハ一千八百四十七年ニ於テ  
 此條例ノ失敗セルガ爲メニ大ニ落膽低頭シタリト雖モクリミ  
 ア戰爭ノ後ニ至テ再ヒ其勇ヲ恢復セリ此條例ハ商業上ノ大恐  
 慌ニ會シ其効力ノ有無ヲ試檢セラレ而テ失敗セリ今ヤ此條例  
 ハ戰爭ニ會シ再ヒ其効力ノ有無ヲ試檢セラル、者ニシテ此條



例ノ反對者多クハ思ヘラク又必ス失敗セント然ルニ此豫期ニ反シテ今回ハ失敗セザリシナリ蓋クリミア戦争ノ間此條例ノ効力ハ多分ハ有益ナル者アリシナラント雖トモ而カモ此戦争ハ嚴ニ條例ノ効力如何ヲ試験スルニ足ルノ度ニ達セザリシナリ即我國資力大ニ必迫ヲ告クルニ先チテ平和回復セラレシナリ

一千八百五十六年ノ秋季ニ於テ割引歩合ノ七分乃至八分ナリシヲハ吾輩前ニ之ヲ示セリ然ルニ爾後次第ニ下落シテ十二月四日ニハ六分半トナリ十八日ニハ六分トナリ而テ一千八百五十七年ノ秋季マデハ此歩合ニテ續ケリ

此歩合ハ従前ノ平均歩合ニ比スレバ固ヨリ大ニ高クシテ數多ノ人ハ此事實ヲ以テ條例ヲ罪スルノ一理由ト爲セリ然レモ斯ノ如キハ實ニ條例ノ罪ニ非ズシア反テ其功ナリトス今ヤ取締

役ハ從來ノ實驗ニ徴シテ悟ル所アリシ者ニシテ畢竟英國銀行ノ安全ヲ維持セシ所以ノ者ハ斯ク割引歩合ヲ引上ケタルニ因ルナリ

八月ニ於テハ世人ノ眼ヲ遮ギル可キ事物ハ一トシテ之アラザリキ左レバ英國銀行頭取ノ言ニ曰當時事物略ホ靜平ニ歸シ收獲亦豊稔ノ兆アリテ商業不安定ナリトノ恐レハ毫モ之アラザリキ但シ遠見ノ士或ハ以爲ヘラク曩ニ戰費ノ爲メニ鼓勵セシレテ東方及其他ノ地方ヨリ輸入セラレタル物品ノ消費ヲ大ニ増加セルガ故ニ今ヤ必ス幾分ノ失墮ヲ來タサルヲ得ズト加之或ル人ハ商人ガ前數年間ニ於テ產物ヲ輸入シテ利ヲ得シカバ其直段ノ騰貴セル今日ニ於テモ尙ホ依然之ヲ輸入シツ、アルヲ説キ私カニ恐ル、所アリキ然レモ一般世人ハ視テ以テ商業安定ナリト爲シ決シテ恐慌ノ來ル可キヲ思ハズ况ヤ恐慌



ノ近ク頭上ニ迫マレルコトニ於テチャ其毫モ思ハザリシ所ナリ」ト  
 此時ニ於テ正金在高ハ一千零六十萬六千磅、準備紙幣ハ六百二十九萬六千磅ニシテ最低割引歩合ハ五分半ナリキ而テ此時英國銀行ハ八月十七日ヲ以テ東印度會社ト約ヲ結ビ一百万磅ノ正金ヲ東方ニ送ル可キヲ諾セリ  
 九月中旬米國鐵道會社ノ株券大ニ下落セリトノ新聞達スルニ及ビ我國ノ事情ハ實ニ斯ノ如クナリキ而テ此新聞達スルニ及ビ米國鐵道會社ガ多年間最モ濫ナル取扱ヒヲ爲シ營業利ナクシテ尙ホ大ナル割賦ヲ爲シ居シヲ發見セラレタリ而テ此取引遂ニ失敗セシヲ以テ勿論其株券ノ驚ク可キ下落ヲ起シ其下落殆ト二割ニ及ベリ而テ英國ニ於テ此等ノ株券ヲ有セシヲ無慮八千萬磅ノ多キニ及ビソレバ此下落ノ結果ハ極メテ甚シキ者

アル可シト想像セラレタリ八月二十五日「チハイチ、ライフ、エンド、トラスト、コムパニ」會社ハ一百二十萬磅ノ預金ヲ以テ仕拂ヲ停止セシカバ恐慌全合衆國ニ普及シ割引歩合一割八分乃至二割四分ニマデ騰貴セリ而テ十月十七日ニ至リペンシルヴァニア、マリイラノド、ヅルジニア、ロイド、アイラノドノ百五十ノ銀行仕拂ヲ停止セリトノ新聞達セリ是ニ於テ平英蘭銀行ヨリ正金ノ流出スルコト甚シキニ至レリ八日ニ於テハ該銀行ノ正金在高ハ九百七十五萬一千磅、準備紙幣四百九十三萬一千磅ニシテ割引歩合六分ニ引上ゲラレタリ十二日ニ於テハムホルグノ割引歩合ハ七分<sup>3/4</sup>ナリキ而テ正金紐育ニ向テ流出セシヲ以テ英國銀行ハ更ニ其割引歩合ヲ七分ニ引上ゲタリ又此頃ニ至リ痛ク「ウエスタルン、バンク、ナフ、スコットランド」銀行ノ信憑ヲ害スル如キ風聞大ニ行ハレタレバ十九日ニ至リ割引歩合更ニ八分ニ引上



ゲラレタリ而テ此際米國ニ於テハ商業上ノ災害日ニ益甚シキヲ加ヘ又佛蘭西銀行ハ僅ニ一週期間ニ於テ一百萬磅以上ヲ損セリ左レバ英蘭銀行ノ正金在高ハ八百九十九萬一千磅ニ減少シ其準備紙幣ハ四百十一萬五千磅ニ減少セリ此時巴里ノ割引歩合ハ七分半ニ引上ゲラレハムボルグノ割引歩合ハ九分ニ引上ゲラレタリ二十六日ニ至リ「ウエスタルン、バンク、チフ、スコットラ」銀行ハ一代理人ヲ派シテ英蘭銀行ニ補助ヲ求メタリト雖モ英蘭銀行ハ斯カル大事業ヲ引受クルヲ恐レテ諾セサリキリ「ヴァーブール」ノ「ボロト、バンク」銀行亦困難ニ陥リケレバ英蘭銀行ハ暫時熟慮ノ後チ遂ニ該銀行ガ若シ閉店スルニ於テハ百五十萬磅ノ額マデハ補助ヲ與フ可キ旨ヲ諾セリ然レモ該銀行ハ此約束ノ尙ホ全ク成ラザルニ先チテ既ニ閉店シタルヲ以テ此約束ハ水泡ニ歸シテ止メリ

紐育ノ諸銀行ハ己レノ安全ヲ維持センガ爲メニ止ムヲ得ズ嚴ナル減縮政略ニ出テ之ガ結果トシテ十月十三日ニ至リ此等ノ諸銀行ニ對シテ一般ノ兌換迫促起レリ而テ此等ノ銀行中十八行ハ忽チニ仕拂ヲ停止シ其後直ニ六十三行ノ銀行亦困難ニ沈ミ其中纒ニ仕拂ヲ維持シ得タルハ一行ノミナリキ左レバ此事ハ米國ト取引ノ關係厚キ「ヴァーブール」及「グラスゴ」ニ忽チニ波動ヲ及ボシ十月十九日頃ヨリ我國ニ於テモ破産ノ數甚多キニ至リ倫敦ニ於テモ不安ノ情大ニ加ハ、レリ而テ二十八日ニ至リ屈指ノ手形割引商ハ其要スル如何ナル補助ヲモ與フルノ保証ヲ爲サノヲ英蘭銀行ニ請求セリ又三十日ニ至リ一使者來リ蘇格蘭ノ一銀行ノ爲メニ十七萬磅ノ補助ヲ請求シ内五萬磅ハ金貨ヲ以テセンヲ請求シ又愛爾蘭ノ爲メニ八萬磅ノ補助ヲ請求セリ十一月五日ニ至リ割引歩合九分ニ引上ゲラレ七



日ニ至リテノニスタウンノ一大商家殆ト二百萬磅ノ負債ヲ以テ仕拂ヲ停止シ九日ニ至リ「ウエスタルン、バンク、チフ、スコットラン」銀行其戸ヲ閉ヂタリ而テ倫敦ニ於テモ破産速ニ増加シ株券ノ賣買驚ク可ク行ハレテ曾テ其例ヲ見ザルノ多キニ達セリ又英國銀行ノ正金在萬ハ七百七十一萬九千磅ニ減少シ其準備紙幣ハ二百八十三萬四千磅ニ減少シ九日ニ至リ割引歩合一割ニ引上ケラレタリ又十一月十日一大割引商ハ四十萬磅ノ幫助ヲ英國銀行ニ請求セリ佛蘭西銀行ハ其割引歩合ヲ一月期ノ手形ニ對シテハ一割ニ引上ケタリ英國ノ他ノ一銀行又幫助ヲ請求セリ「シトリー、チフ、グラスゴ」銀行此時仕拂ヲ停止セリ此日ニ於テ英國銀行ノ割引ノ高ハ一百十二萬六千磅ナリキ而テ十日及十一日ニ於テ一百萬磅以上ノ金蘇格蘭ニ送ラレ愛爾蘭ヨリノ需要

モ亦大ナリキ十一日ニ於テ大ナル手形仲買商「サンデルソン」會社ハ三百五十萬磅ノ預金ヲ有シテ仕拂ヲ停止セリ十二日ニ於テ英國銀行ノ割引ノ高ハ二百三十七萬三千磅ナリキ又十一日ニ於テ蘇格蘭及愛爾蘭ヨリ斯ク俄然需要アリシガ爲メニ正金在高ハ六百六十六萬六千磅ニ減少シ準備紙幣ハ一百四十六萬二千磅ニ減少シタリ  
倫敦ニ於テ破産愈甚シキヲ加フルニ從ヒ割引ハ愈減縮セラレタリ蓋彼レノ如クニ數多銀行ノ仕拂ヲ停止セル新聞續々達セシカバ爲メニ銀行上ノ恐慌ヲ起シ私立銀行ノ如キハ全ク割引ヲ廢止スルニ至レリ故ニ割引ノ唯一ノ泉源ハ英國銀行ヲ外ニシテ又アラザルナリ然レモ到底一千八百四十七年ノ先例ニ依ラザル可カラザルコトハ世人及取締役ノ能ク知レル所ニシテ取締役ハ直接ニ條倒ノ停止ヲ政府ニ請願セザリシト雖モ尙ホ絶



ヘズ銀行ノ有様ヲ政府ニ報告シ恰モ條例ノ停止セラレザル可カラザルヲ必期セシカノ如クニ依然トシテ割引ヲ爲シ來レリ  
 遂ニ一私人ハ最早ヤ割引ヲ得ル能ハザリケレバ其預金ノ引出シヲ追促スルニ至レリ而テ一般ノ破産將サコ來ラントスルニ瀕シ遂ニ政府ハ十一月十二日ヲ以テ一書ヲ英蘭銀行ニ達シテリ曰ク該銀行若シ一千八百四十四年ノ條例ニ制定セル紙幣發行ノ制限ヲ犯スコトナクシテ確實ナル手形ニ對スル割引及貸付ノ需要ニ十分ニ應スル能ハズトセバ假令該銀行ガ此制限ヲ犯シテ紙幣ヲ發行スルアルモ政府ハ爲メニ消罪條例ヲ議院ニ動議スルノ覺悟ナリト然レモ條例ノ此一時ノ緩弛ニ乘シ必要ノ度ヲ越ヘテ紙幣ヲ増發スルコトヲ防カンガ爲メニ割引歩合ハ現時ノ割合即一割以下ニ引下ク可カラズト達セリ  
 此通知書ノ達セラル、ヤ忽チニ世上ノ激騒ヲ制止セリ然レモ

十二日ノ夕ニ至リ英蘭銀行本支店ノ銀行部準備金ノ總額ハ僅ニ五十八萬一千磅ニ減少セリ下院委員ト英蘭銀行頭取トノ左ノ問答ニ徴シテ此時ノ狀ヲ察ス可キナリ

(問)若シ茲ニ云フ通知書彼ノ日ニ發セラレザリシトスルモ英蘭銀行ハ十三日ノ朝ニ於テ依然其割引ヲ續ケ得可カリレ乎

(答)否々決シテ然ラズ

(問)左レバ該銀行ハ最早ヤ商業上ノ手形ヲ割引スル能ハザル旨ヲ揭示セザル可カラザルニ至ル可カリシ乎(答)然リ殆ト茲ニ至リシナラン

(問)若シ英蘭銀行ニ於テ割引ヲ止ムル旨ヲ揭示シタラントニハ爲メニ倫敦商業社會ノ恐慌ヲ一層激セシメシナラント思惟セザル乎(答)然リ實ニ然リ

(問)商業社會ニ於テ恐慌増加セバ隨テ諸銀行者ヘノ需要増加



セシナラント思惟セザル平(答)斯ノ如キヲアラハ忽チニ破産  
 ナ起セシナル可シ而テ手形中全ク價值ヲ失ヘル者アリテ隨  
 テ割引ヲ請求スル手形ノ數減少セシナル可シ  
 (問)姑ク手形ヲ別ニシテ之ヲ云フキハ諸銀行者ヘノ需要増加  
 シ隨テ諸銀行者ハ英國銀行ヨリ其預金ノ一部ヲ引出サバ  
 可カラザルニ至リシナラント思惟セザル乎(答)余ハ幾分カ此  
 事アリシナラント確信ス  
 英國銀行頭取ハ該銀行ノ如何ナル有様ニ陥リシ乎ヲ示サンガ  
 爲メニ一書ヲ委員ニ呈セシガ其中十一月十一日及十二日ノ準  
 備金ノ有様ヲ示ス所ノ左ノ表アリ  
 十一月十一日即水曜日ニ於テ該銀行ノ準備金ハ左ノ項目ヨ  
 リ成レリ  
 倫敦本店紙幣在高 三七五、〇〇五<sup>圓</sup>

各地支店紙幣在高	五八二、七〇五	計	九五七、七一〇 <sup>圓</sup>
倫敦本店金貨在高	三一〇、七八四	計	四〇八、四四九
各地支店金貨在高	九七、六六五	計	九五、九九四
倫敦本店銀貨在高	四四、〇四六	計	一、四六二、一五三
各地支店銀貨在高	五一、九四八	計	六二、五四五
準備金通計			一、四六二、一五三
十一月十二日即木曜日ノ夜ニ於テ該銀行ノ準備金ハ左ノ項 目ヨリ成レリ			六二、五四五
倫敦本店紙幣在高	六八、〇八五 <sup>圓</sup>		
各地支店紙幣在高	六二、五四五		



倫敦本店金貨在高	二七四、九五三	計	一三〇、六三〇
各地支店金貨在高	八三、二五五		
倫敦本店銀貨在高	四一、一〇六		三五八、二〇八
各地支店銀貨在高	五〇、八〇七		
計			九一、九一三

準備金通計

五八〇、七五一

即十二日ノ夕ニ於テ倫敦本店ノ準備金ハ僅ニ三十八萬四千一百四十四磅ニ過ギザリシナリ嗚呼英國銀行ガ十三日ノ朝ニ於テ以テ其營業ヲ開始ス可キ資金ハ實ニ此ノ如クナリシナリ該銀行頭取ガ全ク割引ヲ止メザル可カラザルニ至リシナラント云ハルハ眞ニ然ル所ニシテ若シ之ヲ止メタラシムニハ忽チニ該

銀行ニ對シテ取付ケ起リシナル可シ而テ諸銀行者ノ差引尻ノミニテモ五百四十五萬八千磅アリシヲ以テ該銀行ハ一時間ヲリヒ其門戸ヲ開キ居ルヲ能ハザリシヤ知ル可キノミ  
 英國銀行頭取云ヘルアリ曰一千八百五十七年ノ恐慌ハ一千八百四十七年ノ恐慌ノ如クニ大ナラザリシト雖モ而カモ商業上ノ眞ノ必迫ハ一層激烈ナリキト而テ前年ニ在テハ通知書出ツルヤ否ヤ恐慌忽チニ退キ通知書出デシガ爲メニ全ク紙幣ノ需要ヲ止メ全困難ニ當ランガ爲メニ僅ニ四十萬磅ノ紙幣ヲ増發セシ耳ニシテ條例ノ制限ヲ越ヘテ紙幣ヲ増發スルヲ要ヒザリシト雖モ一千八百五十七年ニ於テハ政府ノ通知書出テシ後モ辨金ノ需要尙ホ止マザリシヲ見レバ右頭取ノ言眞ニ然ルヲ證ス可キナリ蓋條例ノ制定セル所ニ據レバ證券類ヲ抵當トシテ發行シ得可キ紙幣ノ制限ハ一千四百四十七萬五千磅ニシテ此



制限ヲ越ヘテ發行セル紙幣ノ數額左ノ如クナリキ

十一月		十一月
十三日	一八六、〇〇〇 <small>圓</small>	廿三日
十四日	六二二、〇〇〇	廿四日
十六日	八六〇、〇〇〇	廿五日
十七日	八三六、〇〇〇	廿六日
十八日	八五二、〇〇〇	廿七日
十九日	八九六、〇〇〇	廿八日
二十日	九二八、〇〇〇	三十日
廿一日	六一七、〇〇〇	

議院開會セラル、ニ及ビ一條例ヲ制定シ若シ取締役ニ於テ割引歩合ヲ一割以下ニ引下ケザル限リハ一千八百五十八年二月一日マデハ一時銀行條例ヲ停止スルヲ許可セリ然ルニ取締

役ハ十二月廿四日ニ及ヒ其割引歩合ヲ八分ニ引下ケシガ故ニ茲ニ至テ條例再ヒ其制束ノ効力ヲ恢復セリ  
 一千八百五十八年ニ於テ前年大破壊ノ避ク可カラザル結果生シタリ巨大ノ偽妄ノ取引一掃シ去ラレタルヲ以テ隨テ貨幣英國銀行ニ流入シ此年ノ末ニ至ルマテ該銀行ノ正金在高絶ヘズ次第ニ増加セリ而テ今ヤ該銀行ハ自カラ悟ル所アリテ従前ヨリモ高キ割引歩合ヲ採用スルニ至レリ左レバ一千八百四十七年ニ於テハ正金在高一千萬磅以下ナルニ當テ割引歩合ハ五分ナリシト雖モ一千八百五十八年ニ於テハ正金在高一千五百萬磅以上ナリシニ拘ラズ尙ホ割引歩合ハ五分ナリキ蓋斯カル主義ヲ採用スルニ至レルハ是レ實ニ正確ナル原理ノ一大進歩ナリトス  
 余ノ經濟學ノ辭書ハ此大恐慌後久シカラズシテ出版セシ所ニ



ンテ該書ノ英國銀行篇中ヨリ左ノ一節ノ文ヲ茲ニ引出ス  
 此年(一千八百五十八年)ハ人々尙ホ一千八百五十七年ノ懲戒  
 ナ忘レザリシヲ以テ大ニ靜平ナル有様ニテ經過セリ然レモ  
 従前ノ實驗ニ徴シテ之ヲ考フルニ冒險ナル精心幾時ナラズ  
 シテ再ヒ起ル可キハ吾輩ノ決シテ疑フ能ハザル所ナリ吾輩  
 ハ投機者流ガ如何ニシテ次回恐慌ノ種子ヲ播ク可キ乎ヲ求  
 メンガ爲メニ今ヤ熱心ニ凝思焦慮シツ、アルコトヲ疑フ能ハ  
 ザルナリ而テ金錢上ノ取引ヲ管理ス可キ地位ニ立ツ者ハ斯  
 カル計畫ノ荷モ發見セラル、毎トニ直ニ之ヲ制センガ爲メ  
 ニ常ニ注意シテ怠ラザルヲ以テ其義務トス可キナリ而テ次  
 回ノ恐慌ハ如何ナル者ナラント云フハ是レ今日ニ於テ最モ  
 趣味アル銀行上ノ疑問ナリトス  
 歲月ハ此疑問ニ對シテ答解ヲ與ヘ、リ蓋爾後數年間ハ特ニ吾

輩ノ注意ヲ引ク可キ者毫モ之アラザリキ一千八百五十九年及  
 同六十年間ニ於テハ概シテ割引歩合ハ左マデニ騰貴セシマ  
 ラザリキ一千八百六十一年二月ニ於テ暫時八分ニ騰貴セシト  
 雖モ直ニ再ヒ下落セリ此時米國ニ於テ不幸ナル内亂今ニモ破  
 裂セントスルノ勢ナリシカバ隨テ世人ハ我綿花ノ供給如何ア  
 ル可ギ乎ト配慮シ且此事ハ金融上ノ攪擾ヲ起ス可キハ大抵ノ  
 人ノ能ク前見シ得シ所ナリ然レモ此等ノ結果ハ此時起ラズ  
 後年ニ讓ラレタリ一千八百六十一年及六十二年ハ概シテ云フ  
 所ハ金融市場極メテ豐溢ナリキ是レ交戰國政府ガ紙幣ヲ發行  
 セシガ爲メニ避ク可カラザルノ結果トシテ正金ヲ我國ニ驅逐  
 セシニ因ル者ニシテ之ガ爲メニ商業驚ク可ク繁榮シ利息相場  
 甚低廉ナリキ  
 一千八百六十三年十月マデハ事情此ノ如クニシテ進ミケルガ



此時ニ及ンテ各人金融市場ニ攪擾ノ起ル可キヲ前見スルニ至  
 レリ第一ニハ米國南部諸州ヨリ綿花ノ供給絶ヘシヲ以テ其直  
 段速ニ騰貴シ甚シキ高點ニ達セリ故ニ全世界ニ就テ之ヲ供給  
 ス可キ地ヲ求メザルヲ得ズシテ東印度、埃及、ブラズイル其他諸地  
 方ヨリ巨額ノ綿花輸入セラレタリ此巨額ノ取引ハ俄然トシテ  
 起リシガ故ニ吾輩ガ爲替篇ニ於テ説明セルガ如ク現金ヲ以テ  
 之ガ代價ヲ仕拂ハザルヲ得ザリキ是ニ於テ乎巨額ノ銀東方ニ  
 向テ流出シ此等ノ銀ハ其供給ヲ巴里及ハムボルグニ仰ケリ蓋  
 巴里及ハムボルグノ銀ノ大市場タルハ猶ホ倫敦ノ金ノ大市場  
 タルガ如クナレバナリ又此時伊太利政府ハ國債ヲ募レリ  
 之ト同時ニ有限責任ノ法律實施セラレ之ヲ遵奉シテ數多ノ新  
 會社創立セラレタルヲ以テ爲メニ不安ノ情ヲ起セリ佛蘭西銀  
 行ハ巨額ノ正金ヲ失ヒ英蘭銀行ハ一週期間ニ二回其割引歩合

ヲ引上ゲ五分ヨリ六分トシ更ニ又七分トセリ佛蘭西銀行亦其  
 割引歩合ヲ七分ニ引上ゲ且五十法紙幣ヲ發行スル旨ヲ告ゲタ  
 リ又英蘭銀行ハ十二月二日ヲ以テ其割引歩合ヲ七分ニ引上ケ  
 三日ニ至リ更ニ八分ニ引上ゲタリ加フルニ露國政府ノ或ル計  
 畫成功セザリシガ爲メニ同國取引所ニ於テ國債ノ下落ヲ起セ  
 リ而テ此等諸事情ノ結果トシ英蘭銀行ノ準備金ハ暫時ノ後チ  
 大ニ強キヲ致セリ然レヒ一千八百六十四年一月ニ至リ正金ノ  
 流出再ヒ起リ五月ノ中旬若クハ下旬マデハ甚シク流出シテ止  
 マザリケレバ割引歩合ハ八分ヨリ七分トナリ六分トナリシト  
 雖モ今ヤ再ヒ九分ニ引上ゲラレタリ五月ニ於テ英蘭銀行ハ一  
 週期間中二回其割引歩合ヲ九分ニ引上ゲタリ而テ時々小浮沈  
 ナキニ非ザリシト雖モ要スルニ此大必迫ハ夏季ヲ通シテ引續  
 ケリ割引歩合ハ六月ニ至リ一旦六分ニ下落シタリト雖モ再ヒ



次第ニ騰貴シテ九月ニハ又九分トナレリ然ルニ其後ハ漸々下落シテ遂ニ一千八百六十五年六月ニハ三分トナレリ有限責任ノ主義ニ從テ數多ノ新會社創立セラレシガ爲メニ一千八百六十四年三月ノ頃ニ在テ既ニ大ニ不安ノ情ヲ起セリ蓋此時マデニ創立セラレタル新會社ノ數ハ二百六十三ニシテ其豫定資本ノ總額ハ七千八百十三萬五千磅ナリシガ如シ而テ此中二十七ハ銀行ニシテ十四ハ割引會社ナリシナリ而テ一千八百六十四年八月ノ頃ニ至リ新立會社ノ引受ケタル長期ノ手形漸ク市場ニ溢ル、トナリ以テ一千八百六十六年ノ恐慌ノ基礎ヲ置ケリ又英蘭銀行ハ四月ヲ以テ交換所ノ仲間ニ加入シ之ガ爲メニ更ニ銀行紙幣ノ用ヲ節省セリ

九月八日英蘭銀行ハ其割引歩合ヲ九分ニ引上ゲタリシニ此處置ノ爲メニ正金ノ外出ヲ止メ外國商品ノ直段ヲ下落セシメ該

銀行ノ準備ヲ豐厚ニセリ又綿花ノ直段、米國ニ於テ平和回復ノ見込ミアリシガ爲メニ大ニ下落シ且右割引歩合ノ騰貴ハ既ニ衰色アリシ市場ヲ更ニ挫折セシガ故ニ百般ノ取引何レモ大ニ退縮セリ

一千八百六十六年五月ノ大恐慌

一千八百六十五年六月廿日ニ於テ割引歩合ハ其最低點即三分ニ下落セリ而テ八月五日ニ四分ニ引上ゲラレ其後ハ時々小浮沈ナキニ非ザリシト雖モ要スルニ絶ヘズ次第ニ騰貴シ遂ニ一千八百六十六年五月ノ恐慌ニ至テ其最高點ニ達セリ

十一月ニ至リ正金ノ流出大ニ起リ爲替相場下落セリ而テ此有様ハ一千八百六十六年一月ニ至テ愈甚シキヲ加ヘシカバ英蘭銀行ハ同月六日ニ於テ其割引歩合ヲ八分ニ引上ゲタリ左レバ此事ハ正金ノ流出ヲ止ムルニ於テ幾分ノ効アリシト雖モ未ダ



外國ヨリ正金ノ供給ヲ引クニ足ラザリシナリ此頃「ナショナル、プロヴィンシアル、バンク」銀行ハ倫敦ニ於テ銀行事務ヲ營ムニ至リシカバ法律ニ從ヒ其紙幣發行ヲ止メザルヲ得ズシテ其發行定額ハ四十四萬二千三百七十一磅ナリ又曩ニ英蘭銀行ガ其紙幣發行ヲ増加スルコトヲ許可セラレシ以來種々ノ他ノ銀行ニ於テモ紙幣發行ヲ止メシガ故ニ今ヤ英蘭銀行ハ証券類ヲ抵當トシテ發行ス可キ紙幣ヲ一千五百萬磅ニ増加スルコトヲ許可セラレタリ而テ我國ニ於テ利息相場高カリシガ爲メニ巨額ノ外國貨幣我長期ノ手形ニ放下セラル、ニ至レリ

五月ノ恐慌ヲ起セシ所ノ困難ハ一月ノ末ニ當テ其端ヲ開ケリ然レモ期望セラレシガ如ク議院ニ於テ此恐慌ノ事情ヲ調査セシメザリシガ故ニ此恐慌ノ事情ハ決シテ十分ニ説明セラレザリキ唯概シテ之ヲ云ヘハ夫ノ新立ノ金融會社割引會社等ニ於

テ鐵道其他ノ大企業ヲ支ヘンガ爲メニ巨額ノ貨幣ヲ貸出セシニ此等ノ大企業ハ其竣工スルコトハ數年ヲ要シ而テ其竣工スル迄ハ毫モ費用ヲ償フ能ハザルガ故ニ遂ニ此恐慌ヲ起セシコトナリ抑此時第一ニ破産セシハ「ジョイント、ストック、ディスクラウント」會社ニシテ是レ實ニ二月ニアリキ而テ此一事ハ大ニ恐慌ノ情ヲ傳播セシメタリ何トナレバ此會社ノ舉動ノ如キハ數多會社ノ從事セル巨額ノ取引ノ一例タルニ過キザレバナリ又三月ニ至リリ「ヴァーブール」ノ「バルチッド」銀行ハ三百五十萬磅以上ノ負債ヲ以テ其仕拂ヲ停止シ又大ナル鐵道企業者ノ其仕拂ヲ停止セシ者多ク之アリテ隨テ之ト金融上ノ取引ヲ爲スト知ラレタル諸會社ノ信憑ヲ破壊セリ

五月三日ニ至リ英蘭銀行ハ其割引歩合ヲ七分ニ引上ゲタリ是ニ於テ乎各人ハ其久シク畏怖セシ所ノ恐慌今ヤ遂ニ來レルヲ



知レリ左レバ斯カル恐慌ノ風聞世上ニ充滿シ大災害ノ破裂スルハ數週期若クハ數日ノ間ニ在ルコトハ今ヤ各人ノ知ル所トナレリ五月八日英蘭銀行ハ其割引歩合ヲ更ニ八分ニ引上ゲタリ而シテ銀行條例ノ辨護者ハ其通常ノ語氣ヲ以テ決シテ條例ノ停止ス可カラザル旨ヲ宣言シ條例停止ノ如キハ決シテ思フ可カラザル旨ヲ主張セリ此際信憑ハ踰跟トシテ將サニ斃レントスルノ有様ナリシガナボレ<sup>ト</sup>三世ガ<sup>オ</sup>セルノ會合ニ於テ一千八百十五年ノ條約ヲ嫌惡スル旨ヲ演說セリトノ風聞達スルニ及ヒテ更ニ一大撃ヲ受ケタリ蓋當時歐洲大陸ニ於テハ政治上ノ激騒ノ爲メニ人心燃ユルガ如クナリシヲ以テナボレ<sup>ト</sup>帝ノ此言ハ帝ガ開戰ニ決心セル<sup>ト</sup>示ス者ト解釋セラレタレバナリ

英蘭銀行ハ其銀行部ニ於テ十分ノ準備紙幣ヲ有シ又其發行部

ニ於テ巨額ノ正金ヲ有セシガ故ニ此畏怖ノ情ハ或ハ經過シ去ル<sup>ト</sup>得シナル可シ然ルニ五月九日ニ至リ大恐慌ヲ生ス可キ新事件起リ又此日該銀行ハ割引歩合ヲ九分ニ引上ゲタリ其事如何ト云フニ「ミド、ウールス」鐵道會社ハ六萬磅ノ爲替手形ヲ引受ケシ此等ノ手形ハ「ベイトマン」會社、「チツアイレンド、カルチー」會社、「ナシヨナル、ド、スカウント」會社ノ三會社ニ於テ之ヲ有セリ然ルニ此「ミド、ウールス」鐵道會社ハ右手形ノ仕拂ヲ拒却セシヲ以テ以上ノ三會社ハ該會社ヲ相手取リテ訴訟ヲ起セリ而テ不幸ニシテ此訴訟ノ判決ハ五月九日人心ノ最モ洶々タリシ際ニ宣告セラレタリ蓋「コムモン、プリース」裁判所ハ諸判事異議ナク判決ヲ下タシテ曰元來此鐵道會社ハ斯カル手形ヲ引受ケス可キ權ヲ有スル者ニ非ズ故ニ此等ノ手形ハ全ク無効ニシテ廢紙タルニ過ギズト抑「チツアイレンド、カルチー」會社ガ近來鐵道企業者及其



他ノ人ト深ク取引セルコトハ世ニ知ラレシ所ニシテ且該會社ハ  
 他ノ商社ノ巨額ノ偽造手形ヲ有セリ左レハ該會社ノ株券ハ競  
 テ市場ニ賣出サレ其相場益下落セリ而テ其株券斯ク下落セル  
 ガ爲メニ該會社ノ預金ハ次第ニ引出サル、ニ至レリ然ルニ今  
 ヤ「ミド、ウニールス」鐵道會社ニ關スル訴訟判決セラレタルガ爲メ  
 ニ人々爭テ「チツペーレンド、ガルチー」會社ニ向テ仕拂ヲ迫促スル  
 コトナリ遂ニ木曜日即五月十日ノ午後ニ至リ此大會社ガ一千  
 萬磅以上ノ負債ヲ以テ其仕拂ヲ停止セリトノ畏ル可キ凶報倫  
 敦中ニ傳播スルニ至レリ是レ實ニ倫敦府ニ於テ會テ起リタル  
 最モ驚ク可キ破産ナリトス此新聞ハ銀行ノ營業時間後ニ傳播  
 セシト雖モ之ガ爲メニ翌朝如何ナル結果ヲ生ス可キ乎ハ何人  
 ト雖モ能ク前見シ得ル所ナリ出納局長ハ翌日ノ夕下院ニ於テ  
 言テ曰我倫敦府ノ故老ノ説ニ據レバ斯ノ如キ激騒ハ曾テ其例

ナキ所ナリト云ヘリ云々」ト而テ此夕出納局長ハ政府ガ條例ノ  
 制限ヲ越ヘテ紙幣ヲ發行スルコトヲ英蘭銀行ニ許可シタルヤ否  
 ヤヲ質問セラレシニ出納局長ハ尙ホ之ヲ許可セザリシ旨ヲ答  
 ヘタリ然レモ此事ニ關シテ私立銀行者ヨリ請願ヲ受ケ又合資  
 銀行ヨリモ之ヲ受ク可シト期スル旨ヲ語レリ而テ果シテ豫期  
 ノ如ク直ニ合資銀行ヨリモ請願ヲ出シタルバ内閣員ハ暫時委  
 員室ニ退キテ商議セシ後テ遂ニ議院ニ報シテ曰政府ハ一千八  
 百四十七年及同五十七年ノ先例ニ從ヒ若シ英蘭銀行ガ條例ノ  
 制限ヲ越ヘテ紙幣ヲ發行スルヲ便宜ナリト思惟シテ之ヲ發行  
 スルアレバ政府ハ爲メニ消罪條例ヲ動議ス可キ旨ヲ該銀行ニ  
 通知シタリ」ト而テ宰相ノ之ヲ議院ニ報ズルヤ歡聲四方ヨリ起  
 リテ滿場ヲ震動セシメタリ又出納局長ハ此日英蘭銀行ガ四百  
 萬磅ヲ貸出セシ旨ヲ述ベタリ



銀行條例停止ノ報出ツルヤ翌朝忽チニ最良ノ結果ヲ生シタリ  
 英蘭銀行ハ其割引歩合チ一割ニ引上ケ萬事凡テ靜平ニ歸セリ  
 而テ其後尙ホ破産起ラザリシニ非ズト雖モ世人英蘭銀行ガ確  
 實ナル手形ニ對シテ貸付ヲ爲スノ力アルヲ知リシガ故ニ恐慌  
 大ニ減退セリ五月十八日出納局長ハ英蘭銀行ガ五日間ニ一千  
 二百二十二萬五千磅ヲ貸出セシ旨ヲ述ベタリ而テ此恐慌ノ際  
 ニ諸店ヨリ拂出セシ金額ノ如キハ決シテ知ルヲ能ハザル可シ  
 ト雖モ必スヤ信シ難キ程ニ大ナリシナラン吾輩ハ如何ナル證  
 據ニ基ク乎ヲ知ラズト雖モ一説ニ從ヘハ或ル大銀行ノミニテ  
 モ六時間ニ二百萬磅ヲ拂出シタリト云ヘリ又仕拂ヲ停止セル  
 諸會社ト其最近ノ資産負債一覽表ニ據リ其負債ノ額ト示ス  
 左ノ如シ尤モ其負債ハ恐慌ノ間ニ大ニ減少セシヤ必然ナリ

拂込資本

準備金

負債

「チャヴァーレンド、ガルチー」會社	一五〇〇〇〇		一、一〇〇、〇〇〇
「イングリシ、ジョイント、スト ツク」銀行	一五〇〇〇〇	六〇〇〇	不詳
東洋商業銀行	三七五、〇〇〇	四九、〇〇〇	同
「ニュー、ズイーランド」銀行	八〇、〇〇〇	一六、〇〇〇	一三六、〇〇〇
「ハルレット、ナムマンチー」會社	、	、	二三八、〇〇〇
「イムベリアル、メルカンクイル、 クレドイト」會社	五〇〇、〇〇〇	、	不詳
印度商業銀行	一、〇〇〇、〇〇〇	二三八、八〇二	同
「ユーロピアン、バンク」銀行	六四四、四九〇	三二、三九三	二、一三三、八三八
「ロビンソン、セリト」會社	、	、	不詳
「アリアンス、フィナンシャル」會社	二〇、〇〇〇	、	同
「バンク、チーフ、ロンドン」銀行	四〇〇、〇〇〇	三〇三、三三四	四、三三五、八七七
「コンソリテッド、バンク」銀行	六〇〇、〇〇〇	七一、八〇八	三、八一七、九九九
「アグラ、エンド、マスタートーメン」 會社	一、五〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	一、五五八、二〇二



以上破産セル諸會社ノ外ニ東洋トノ取引ニ關係セル種々ノ銀行ハ巨大ノ損失ヲ蒙レリ例セハ「印度支那日本銀行」ト稱スル一銀行ハ其勘定報告書ニ利益ハ二萬三千四百八十五磅ニシテ損失ハ八萬七千七百九十六磅ナルヲ記シ更ニ七萬磅ノ損失ノ見込ミアルヲ記セリ又亞細亞銀行ハ其利益ハ六萬一千四百九十四磅ニシテ其損失ハ十四萬二千磅ナルヲ記シ又「キーン」スランド銀行ハ其利益ハ一萬零三百七十三磅ニシテ其損失ハ二萬二千零七十一磅ナルヲ記セリ其他諸銀行ガ如何ナル損失ヲ蒙リシ乎ハ吾輩之ヲ知ルノ手段ヲ有セズト雖モ其損失甚大ナリシナラント思ハルハナリ

利息貴キ時ハ外國ヨリ正金ヲ吸引スト云フノ原理ハ此恐慌ノ時實際ニ其驗ナキガ如クナリシハ吾輩第七章ニ於テ既ニ之ヲ示セリ而テ之ガ爲メニ數多ノ人ハ全ク此原理ヲ拒ムニ至レ

リ抑該章ニ記セシ所ノ文ハ恰モ此恐慌ノ時ニ際シテ之ヲ記セシ者ニシテ論者ノ云フガ如ク此原理實際ニ行ハレザリシニ非ズシテ唯他ノ原因ノ爲メニ一時其効力ヲ妨ケラレシ者クルハ該文ヲ一讀シテ之ヲ知ル可キナリ而テ吾輩ハ有名ナル銀行者フウレル氏ノ説ノ爲メニ吾輩ノ此意見確證セラレシヲ記スルヲ喜ブナリ氏ノ説ニ曰

高キ利息ヲ課スルハ爲メニ金ヲ英蘭銀行ニ吸引シ貨幣ノ平準ヲ回復スルノ効アリト云フ説ハ往時ニ於テハ兎モ角モ要スルニ此時ニ於テハ決シテ實際ニ其驗ナカリシナリトハ今日論者ノ主張スル所ナリ蓋此疑問ハ吾人事實上ヨリ之ヲ考察セザル可カラズ而テ余ガ記セシガ如ク此時ニ於テモ從前ニ於ケルガ如ク正金各地方ヨリ流入セシナリ唯異ナル所ハ此時ニ於テハ爲替相場ノ上ニ期望セラレタル結果ヲ生セ



ンガ爲メニ從前ニ於ケルヨリモ一層長キ時間ヲ要セシト是  
 ナリ左レバ事實ハ通常ノ結果生ゼザリント云フニ非ズシテ  
 唯其結果ノ來ルト通常ヨリモ遅カリシト云フニ過ギザルノ  
 ミ且吾人が最モ之ヲ需要セルニ當テ米國ヨリ巨額ノ正金ヲ  
 得シト忘ル可カラザルナリ而テ此正金來リシハ專ラ倫敦  
 恐慌ノ新聞紐育ニ達セシニ原因ストモザルモ又一部ハ之ニ  
 原因セシト云シテ是レ實ニ緊要ノ點ナリトス然レモ要スル  
 ニ「チヴァー」レンド、ガルチ「會社及ビ其他大商家ノ破産セルガ  
 爲メニ英蘭證券類ノ信憑毀害セラレ隨テ尋常一割ノ利息ナ  
 レバ大陸ヨリ吸引スルヲ得可カリシ正金モ其流入ヲ全ク沮  
 妨セラレ若クハ其來ルト大ニ遅延セシヤ疑ナキナリ故ニ之  
 ガ自然ノ結果トシテ恐慌ヲ脱シ貨幣ノ供給ヲ豊ニスルト  
 如キモ豫期セラレシヨリモ遅延セシナリト

左レハ吾輩ハ真正ノ原理ハ實驗ニ因テ證明セラレ、トチ知ル  
 ナリ此原理ハ一千八百五十六年此書ノ第一版ニ於テ吾輩ノ初  
 メテ論示セシ所ニシテ一千八百六十六年以來ノ銀行ノ歴史ハ  
 十分ニ此原理ノ當レルトチ證セリ而テ此原理ヤ爾來明敏ナル  
 人ノ凡テ容ル、所トナレリ夫ノ佛國ニ於テハ佛蘭西銀行チシ  
 テ此原理ヲ採川スルヲ得セシメノガ爲メニ故ラニ利息制限法  
 チ修正シ該銀行ハ小心翼々トシテ此原理ヲ遵奉セシガ爲メニ  
 其紙幣ハ不換ナルニ拘ラズ正貨ト殆ト同一ノ價值ヲ有シテ流  
 通セリ實ニ今日世界ノ各銀行ハ悉ク此原理ニ從テ其營業ヲ管  
 理スル者ト云フ可シ  
 吾輩ハ此點ニ至ルマテ銀行ノ歴史ヲ記述シ來リタルヲ以テ更  
 ニ爾後ノ事件ヲ詳述スルヲ必要ナリト思惟セザルナリ抑吾輩  
 ガ上記述シ來リタル歴史ノ大目的ハ原理ヲ確證スルニ在リ



吾輩ハ銀行及紙幣ニ關シテ行ハレタル諸種ノ主義ノ精密ナル  
 歴史ヲ與ヘ遂ニ信憑及紙幣ヲ管理スル真正ノ方法ハ割引歩合  
 ノ高低ニ在ルコトハ學術上ノ理論及實際上ノ經驗ノ共ニ確證ス  
 ル所タルヲ示セリ吾輩ハ此大真理ノ漸次ニ銀行社會及商業社  
 會ニ確立セラル、ニ至リタル次第ヲ十分ニ詳述セリ今日此原  
 理ノ明敏ナル人ノ間ニ確立セラレタルハ恰モニュートンノ重力  
 說ノ學者間ニ確立セラレタルガ如クニシテ更ニ銀行ノ歴史ヲ  
 續記スルモ新原理ヲ表出スルノ利ナクシテ唯幾回トナク右ノ  
 一原理ヲ證明スルニ過ギズ故ニ之ヲ續記スルハ良目的ナクシ  
 テ徒ラニ紙幅ヲ費ヤス者ナリ

第十二章 蘇格蘭銀行ノ起元及進歩ノ歴史

銀行ノ業ヲ營ム可キ特別ノ目的ヲ以テ一私人ヨリ組織セラレ  
 全ク己レノ資本ニノミ依頼シテ毫モ政府ニ關係ナキ如キ合資

銀行ハ全世界中蘇格蘭銀行ヲ以テ其第一例ト爲ス此銀行ハ常  
 時ニ存在セル如何ナル他ノ銀行トモ其種類ヲ異ニセリ蓋英蘭  
 銀行ノ創立成功セシガ爲メニ蘇格蘭ニ於テモ一銀行ヲ創立ス  
 ルヲ計畫セラル、ニ至レリ倫敦ノ一商人ジョン、ホルランド氏ハ  
 此計畫ノ發起者ニシテ氏ハ十一名ノ蘇格蘭商人ヲシテ此計畫  
 ニ加入セシムルヲ得タリ是ニ於テ平氏及此等ノ商人ハ會社創  
 立ノ許可ヲ蘇格蘭ノ議院ニ請ヒケルニ遂ニ議院ハ一千六百九  
 十五年七月十七日ヲ以テ一條例ヲ制定シ會社創立ノ免許狀ヲ  
 之ニ與フルノ權ヲ國王ニ委テタリ此條例ノ要點即左ノ如シ

第一、合併資本ハ蘇貨一十萬磅(即英貨十萬磅)タル可シ而テ  
 應募者一人ニ付蘇貨一千磅(即英貨八十三磅六志八片)ヨリ少  
 ナカラズ蘇貨二萬磅(即英貨六千六百六十六磅十三志四片)ヨ  
 リ多カラザル資本ヲ募集シ且各應募者ヨリ其應募高ノ一割



ニ當ル預金ヲ受取ルコトヲ或ル人々ニ許可ス  
 第二、右ノ人々ハ、動産若クハ不動産ヲ抵當トシ六分ニ越ヘザル利息ヲ以テ貸付クヲ爲スヲ得借者万一反濟ヲ誤ルルハ其抵當物ヲ公賣スルヲ得  
 第三、右ノ人々ハ自由ニ其株券ヲ賣買讓與シ又ハ遺言ヲ以テ之ヲ讓與スルヲ得  
 第四、總會ノ承諾ヲ經ルニ非ズンバ決シテ割賦ヲ行フ可カラズ  
 第五、合併資本ハ此銀行創立後二十一年間ハ貨幣ニ關スル一切ノ租稅ヲ免除セララル、者トス  
 第六、此銀行創立後二十一年間ハ他ノ會社ニ於テ銀行事務ヲ行フヲ不法トス  
 第七、此銀行ノ受取ル可キ負債ヲ速ニ且有効ニ取立ツルヲ得

セシメシメガ爲メニ種々ノ特權ヲ與ヘタリ  
 第八、合併資本中ヨリ幾分ノ金額ヲモ扣除スルヲ禁ス  
 第九、此銀行ハ利息ヲ取リテ貨幣ヲ貸借シ及爲替手形ヲ賣買スルコトノ外ハ直接間接ヲ問ハス他ノ何等ノ商賣取引ニ於テモ其資本若クハ利益金ヲ使用ス可カラズ  
 第十、此銀行ハ土地若クハ遺物ヲ買入レ又ハ議院ヨリ供給ス可キ金額ヲ當テ込ミテ政府ニ貨幣ヲ貸付クルコト能ハス若シ犯スルハ其金額ニ三倍スル罰金ヲ課シ其五分ノ一ハ之ヲ告發者ニ與フル者トス但シ議院ヨリ供給ス可キ金額ヲ抵當トシテ國債ヲ募集スルコトヲ議院ニ於テ特ニ認可セル場合ハ此限リニ非ズ  
 第十一、合併資本ヲ醸出セル外國人ハ一切ノ點ニ關シテ歸化セル者ト見做スコトセリ又資本ノ三分ノ二ハ常ニ蘇格蘭ニ



居住スル人ノ所有ニ屬セザル可ラザルトセリ而テ蘇格蘭ニ於テ募集セル金額ハ蘇貨八十萬磅(即英貨六萬六千六百六十六磅)ニシテ一千六百九十五年十一月ニ其募集ニ着手シ十二月ノ末ニ完了セリ又英蘭ニ於テ募集セル金額ハ蘇貨四十萬磅(即英貨三萬三千三百三十三磅)ニシテ一日間ニ倫敦ニ於テ其應募者滿員シ且其應募者ハ大半蘇格蘭人ナリキ當時蘇格蘭人ハ銀行事務ニ關シテハ何事ヲモ知ラザル者ト想像セラレシガ故ニ數年間ハ此銀行ノ頭取及十二人ノ取締役ハ英蘭人ヲラザル可カラズ又副頭取及十二人ノ取締役ハ蘇格蘭人ヲラザル可カラズト制定セラレタリ然レモ其實蘇格蘭人ハ最も巧ミナル銀行家タルヲ直ニ發見セラレシガ故ニ此制ハ變更セラレテ取締役ハ凡テ蘇格蘭人ヲ以テスルトナリ又倫敦ニ於ケル取引及事務ヲ管理セシメシメノガ爲メニ十三名ノ委

員ヲ選ムトナレリ

此銀行ノ一千六百九十六年ヲ以テ創立セラル、ヤ否ヤ亞非利加商會ハ此銀行ノ特權ヲ侵シテ銀行ノ事務ヲ營マント試ミタリ此亞非利加商會ト云フハ則有名ナル「ダリエン」會社ニシテ英蘭銀行創立者ノ一人ナルウイレム、バテルソン氏ノ創立セシ所ナリ蘇格蘭銀行ノ頭取ハホルランド氏ナリシト雖モ該銀行ハ世人ノ爲メニ敢テ屬目セラル、トナク國民舉ケテ亞非利加商會ニ醉狂セシガ故ニ該銀行ハ之ニ對シテ其特權ヲ主張シ肯ンセザリシ程ナリシト雖モ而カモ此亞非利加商會ハ遂ニ悲ム可キ終極ニ歸セリ然レモ兎ニ角ニ當初ハ斯カル次第ナリケレバ蘇格蘭銀行ハ其資本ノ十分ノ二ヲ徵收シテ其地位ヲ鞏固ニスルヲ以テ自カラ足レリトセザル可カラザルノ有様ナリキ然レモ亞非利加商會ハ銀行事務ニ從事シ爲メニ其手ヲ燒ケリ



蓋該商會ハ蘇格蘭銀行ト競争スルヲニ銳意ナリシカバ前後ヲ顧ミスノ其株主及其他ノ人々ニ濫ニ紙幣ヲ貸付ケ之ガ爲メニ大損失ヲ蒙リテ遂ニ墮跌ヲ招クニ至レリ此頃ニ至リテ蘇格蘭銀行ハ爲替ノ取引ヲ始メタリト雖モ箇々ノ商人ト競争スル能ハザルヲ發見シテ之ヲ擲棄シタリ又該銀行ハ一千六百九十六年ニ於テグラスゴー、アベルデーン、ダンデー、モントローニスニ支店ヲ開キシト雖モ利益ノ報ヒザルヲ發見シテ之ヲ閉ヂタリ而テ一千六百九十八年五月ニ至リ亞非利加商會ノ競争ハ遂ニ全ク止ミシヲ以テ該銀行取締役ハ其錢ニ徵收シタル十分ノ二ノ資本ヲ返付ヒリ蓋此資本ハ其營業上ニ要スル所ニ越ヘタレバナリ

該銀行ハ當初世人ヨリハ預金ヲ受取ラズシテ專ラ拂込資本ヲ基礎トシテ己レノ紙幣ヲ發行スルヲ主トヒリ此等ノ紙幣ハ百

磅、五十磅、二十磅、十磅、五磅ノ諸種アリキ而テ該銀行ガ何時ヨリ一磅紙幣ヲ發行スルニ至リシ乎ハ諸説ノ一ナラザル所ナリ蓋一千七百二十八年ヲ以テ該銀行ノ爲メニ出版セラレタル一小冊子ニハ該銀行ガ一千七百年一月ヨリ一磅紙幣ヲ發行スルニ至リシヲ記スルト雖モ該銀行取締役ノ一人タリシキンニ川氏ハ下院委員ニ對シテ左ノ如キ説ヲ述ベタリ曰該銀行ニ對シテ一磅ノ證券ヲ流通ヒシム可キノ議ヲ立テシ者多カリシト雖モ該銀行ハ一千七百四年ニ至ルマテハ常ニ斯カル新奇ナル經驗ヲ採川スルヲ猶豫シタリト斯ノ如ク諸説一ナラズト雖モ何レカ果シテ是ナルヤハ吾輩之ヲ判スルノ手段ヲ有セザルナリ而テ此銀行ハバリーリヤメント、クロース議院ニ在リシニテ一千七百一年ノ大火ノ時此邊ハ其災ニ罹リシト雖モ該銀行ノ現金及貨物等ハレゾン候悉ク無難ニ之ヲ城堡ニ運ベリ候ハ該銀